

MP Ethernet/ メカトロリンク ドライバ

1	システム構成.....	3
2	接続機器の選択	28
3	通信設定例	29
4	設定項目	168
5	使用可能デバイス	178
6	デバイスコードとアドレスコード	204
7	エラーメッセージ	208

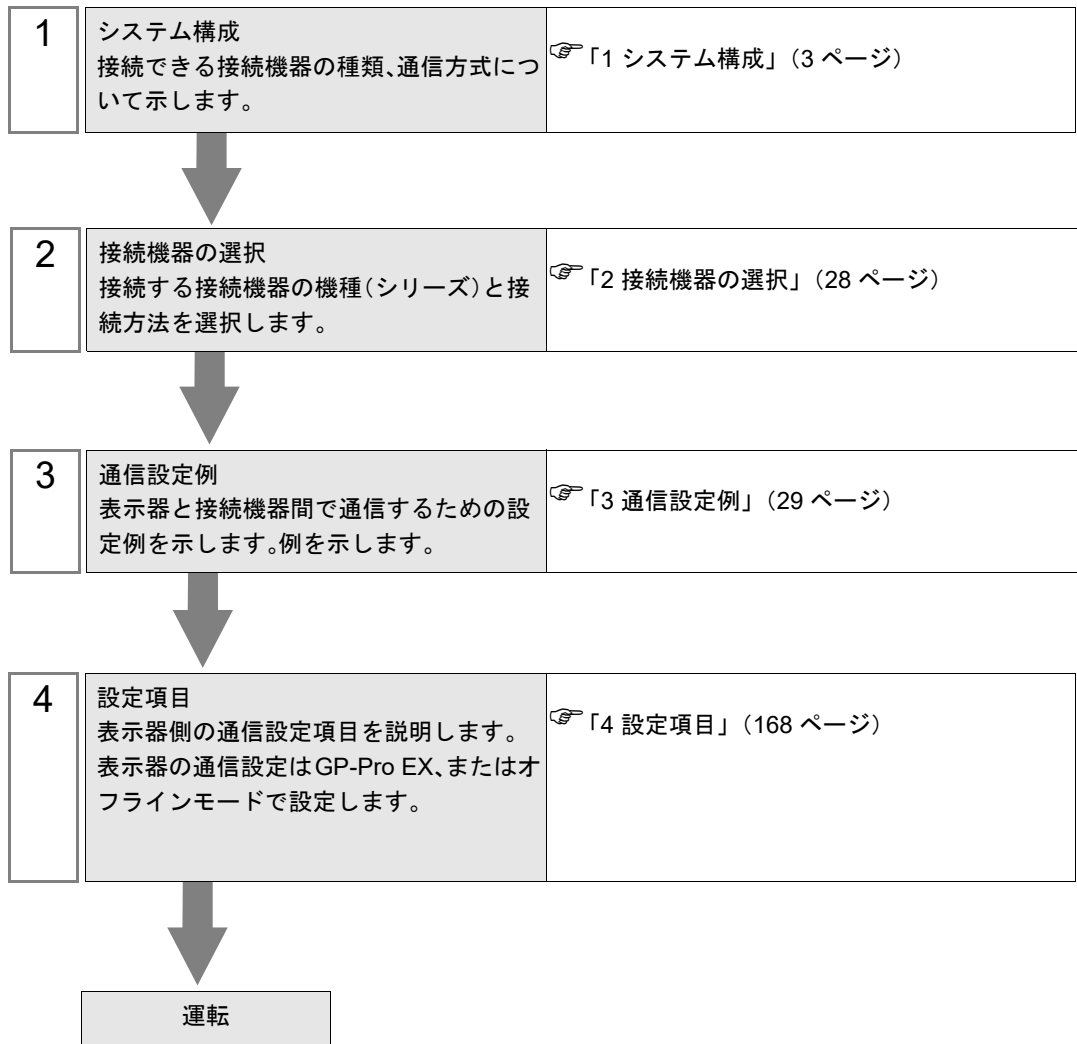
重 要

- 次の製品の販売およびメンテナンスは終了します。想定外のダウンタイムを軽減しサイバーセキュリティを強化するために代替品のご使用をお勧めします。詳細は弊社ホームページの「販売終了品」をご確認ください。
サポートされない機種(GP-Pro EX 5.00以降) : GP3000シリーズ、GP-4100シリーズ(モノクロモデル)、LT3000シリーズ、ST3000シリーズ、PLシリーズ、PE4000シリーズ、PS2000/3000/4000シリーズ
- ドライバがサポートしている機種の詳細は、弊社ホームページの「つながる機器一覧」をご確認ください。
<http://www.pro-face.com/trans/ja/manual/1064.html>

はじめに

本書は表示器と接続機器（対象 PLC）を接続する方法について説明します。

本書では接続方法を以下の順に説明します。



1 システム構成

(株) 安川電機製接続機器と表示器を接続する場合のシステム構成を示します。

1.1 MP シリーズ

シリーズ	CPU	リンク I/F	通信方式	設定例
MP2000	MP2300 MP2200	218IF-01 上のイーサネットポート	イーサネット (UDP)	「3.1 設定例 1」 (29 ページ)
		218IF-02 上のイーサネットポート	イーサネット (UDP)	「3.4 設定例 4」 (38 ページ)
	MP2310 MP2300S	CPU ユニット上のイーサネットコネクタ	イーサネット (UDP)	「3.2 設定例 2」 (32 ページ)
		218IF-01 上のイーサネットポート	イーサネット (UDP)	「3.3 設定例 3」 (35 ページ)
		218IF-02 上のイーサネットポート	イーサネット (UDP)	「3.4 設定例 4」 (38 ページ)
	MP2400	CPU ユニット上のイーサネットコネクタ	イーサネット (UDP)	「3.2 設定例 2」 (32 ページ)
	MPU-01 ^{*1}	メイン CPU ^{*2} 上のイーサネットポート または 218IF-01 上のイーサネットポート	イーサネット (UDP)	「3.12 設定例 12」 (59 ページ)
MP3000	CPU-201 CPU-301 CPU-302	CPU ユニット上のイーサネットポート	イーサネット (UDP)	「3.9 設定例 9」 (53 ページ)
	CPU-201(SUB) ^{*3}	メイン CPU(CPU201) 上のイーサネットポート	イーサネット (UDP)	「3.15 設定例 15」 (67 ページ)
		CPU201(SUB) 上のイーサネットポート	イーサネット (UDP)	「3.9 設定例 9」 (53 ページ)
	Σ-7C ^{*4}	CPU ユニット上のイーサネットポート	イーサネット (UDP)	「3.9 設定例 9」 (53 ページ)
MPX1000	MPX1312	CPU ユニット上のイーサネットポート	イーサネット (UDP)	「3.47 設定例 47」 (161 ページ)
Sigma-FT	SGDXS- □□□□ 40A □□□□ 55 (FT55) SGDXS- □□□□ 40A □□□□ 56 (FT56)	CPU ユニット上のイーサネットポート	イーサネット (UDP)	「3.48 設定例 48」 (163 ページ)

^{*1} サポートする MPU-01 のファームウェアバージョンは Ver2.86 以降です。

^{*2} メイン CPU については MPU-01 のマニュアルのサポート一覧を参照してください。

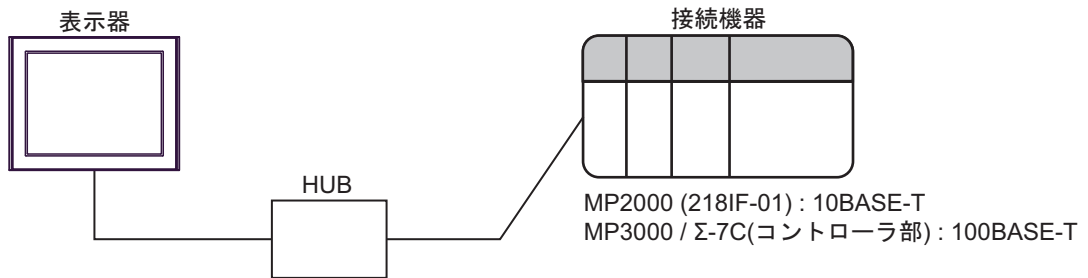
^{*3} サポートする CPU-201 のファームウェアバージョンは Ver.1.06 以降です。

^{*4} 表示器は Σ-7C のコントローラ部と通信します。

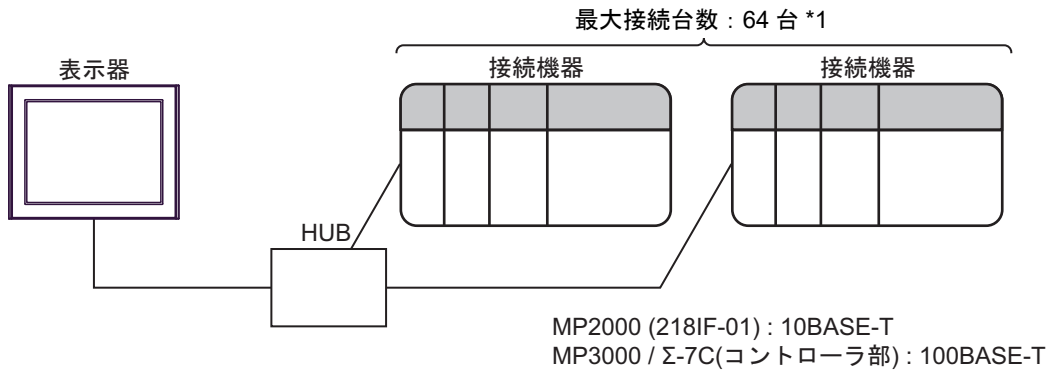
■ 接続構成

- MP シリーズ / Σ -7C(コントローラ部)

1 : 1 接続



1 : n 接続

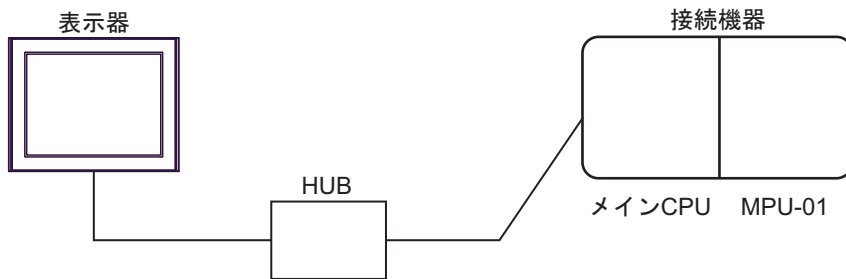


*1 33 台以上の接続機器を接続する場合、[接続機器の台数を拡張する] にチェックを付ける必要があります。

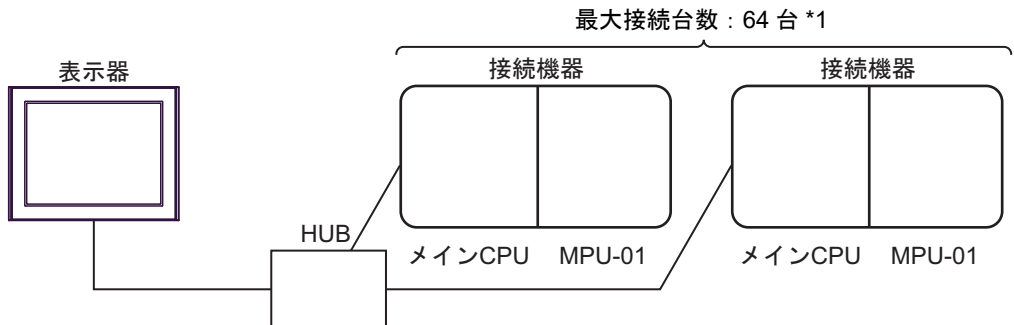
👉 「4.1 GP-Pro EX での設定項目」 (168 ページ)

- MPU-01

1 : 1 接続



1 : n 接続



*1 33 台以上の接続機器を接続する場合、[接続機器の台数を拡張する] にチェックを付ける必要があります。

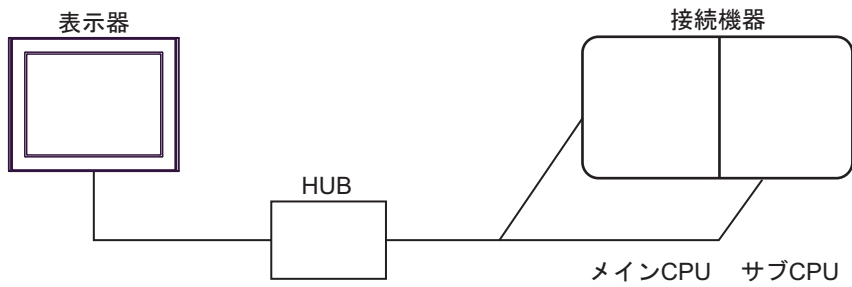
👉 「4.1 GP-Pro EX での設定項目」(168 ページ)

MEMO

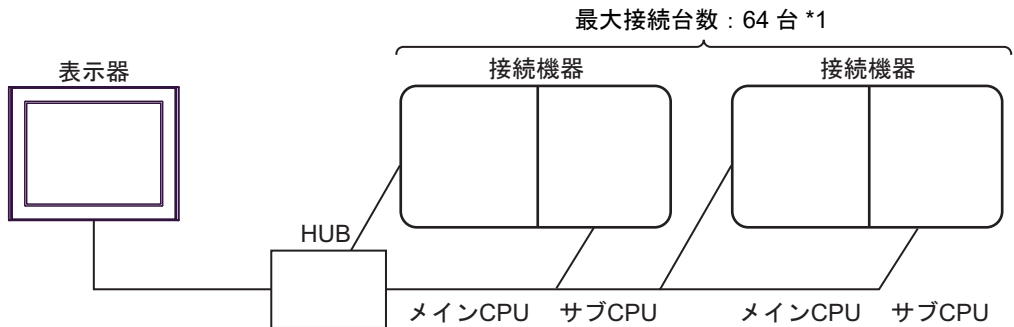
- メイン CPU 経由で MPU-01 に接続する場合、複数の機器 (表示器やラダーソフト) から同時に通信を行うと MPU-01 が無応答になる可能性があります。複数の機器から同時に通信を行わないでください。

- サブ CPU

1 : 1 接続



1 : n 接続



*1 33 台以上の接続機器を接続する場合、[接続機器の台数を拡張する] にチェックを付ける必要があります。

☞ 「4.1 GP-Pro EX での設定項目」 (168 ページ)

MEMO

- サブ CPU はメイン CPU 経由または直接接続することで通信できます。
- メイン CPU 経由でサブ CPU に接続する場合、複数の機器 (表示器やラダーソフト) から同時に通信を行うとサブ CPU が無応答になる可能性があります。複数の機器から同時に通信を行わないでください。

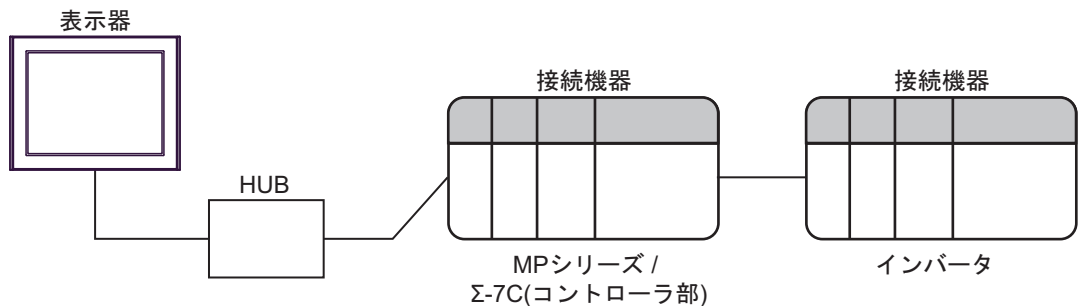
1.2 インバータ

シリーズ	CPU*1	リンク I/F	通信方式	設定例
V1000	CIMR-VA□ A□□□□	V1000 MECHATROLINK-II 通信オプションユニット (SI-T3/V)	イーサネット (UDP) および MECHATROLINK-II	「3.10 設定例 10」 (55 ページ)
A1000	CIMR-A□□ A□□□□	A1000 MECHATROLINK-II 通信オプションユニット (SI-T3)	イーサネット (UDP) および MECHATROLINK-II	「3.11 設定例 11」 (57 ページ)

*1 インバータの型式の □ は最大適用モータ容量などによって異なります。

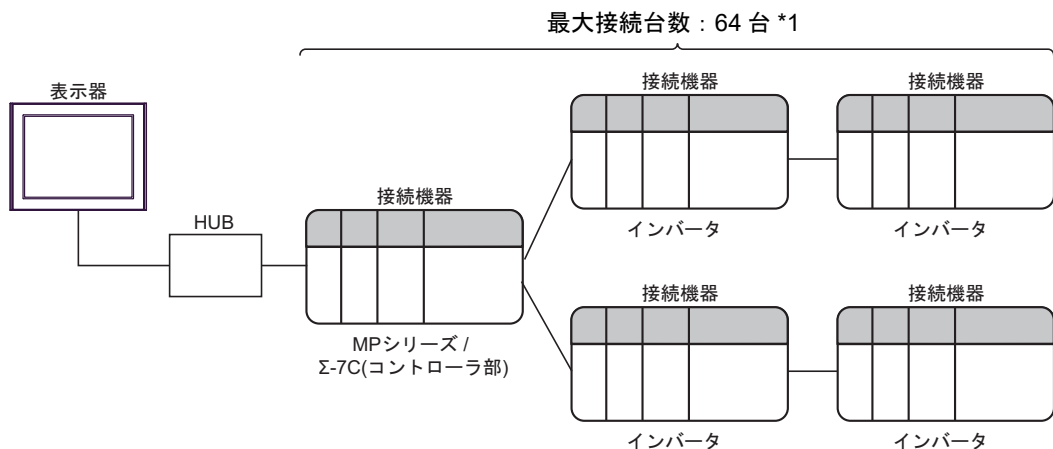
■ 接続構成

- 1 : 1 接続



表示器-MPシリーズ / Σ-7C(コントローラ部)間：イーサネット接続
MPシリーズ / Σ-7C(コントローラ部)-インバータ間：MECHATROLINK接続

- 1 : n 接続



表示器-MPシリーズ / Σ-7C(コントローラ部)間：イーサネット接続
MPシリーズ / Σ-7C(コントローラ部)-インバータ間：MECHATROLINK接続
インバータ-インバータ間：MECHATROLINK接続

*1 33 台以上の接続機器を接続する場合、[接続機器の台数を拡張する] にチェックを付ける必要があります。

☞ 「4.1 GP-Pro EX での設定項目」 (168 ページ)

1.3 サーボ

シリーズ	CPU	リンク I/F	通信方式	設定例
Σ-V シリーズ 回転形モータ (M-II)	SGDV-□□□□11 □□□□□□	MECHATROLINK 通信用コネクタ (CN6A/CN6B)	イーサネット (UDP) および MECHATROLINK-II	「3.5 設定例 5」 (41 ページ)
Σ-V シリーズ リニアモータ (M-II)	SGDV-□□□□15 □□□□□□	MECHATROLINK 通信用コネクタ (CN6A/CN6B)	イーサネット (UDP) および MECHATROLINK-II	「3.6 設定例 6」 (44 ページ)
Σ-V シリーズ 回転形モータ (M-III)	SGDV-□□□□21 □□□□□□	MECHATROLINK 通信用コネクタ (CN6A/CN6B)	イーサネット (UDP) および MECHATROLINK-III	「3.7 設定例 7」 (47 ページ)
		MPU-01 上の MECHATROLINK 通 信用コネクタ	イーサネット (UDP) および MECHATROLINK-III	「3.13 設定例 13」 (61 ページ)
		サブ CPU 上の MECHATROLINK 通 信用コネクタ	イーサネット (UDP) および MECHATROLINK-III	「3.16 設定例 16」 (69 ページ)
Σ-V シリーズ リニアモータ (M-III)	SGDV-□□□□25 □□□□□□	MECHATROLINK 通信用コネクタ (CN6A/CN6B)	イーサネット (UDP) および MECHATROLINK-III	「3.8 設定例 8」 (50 ページ)
		MPU-01 上の MECHATROLINK 通 信用コネクタ	イーサネット (UDP) および MECHATROLINK-III	「3.14 設定例 14」 (64 ページ)
		サブ CPU 上の MECHATROLINK 通 信用コネクタ	イーサネット (UDP) および MECHATROLINK-III	「3.17 設定例 17」 (72 ページ)
Σ-7 シリーズ 単軸サーボ パック (M-II)	SGD7S-□□□□ 10□□□□□□	MECHATROLINK 通信用コネクタ (CN6A/CN6B)	イーサネット (UDP) および MECHATROLINK-II	「3.18 設定例 18」 (75 ページ)
Σ-7 シリーズ 単軸サーボ パック (M-III)	SGD7S-□□□□ 20□□□□□□	MECHATROLINK 通信用コネクタ (CN6A/CN6B)	イーサネット (UDP) および MECHATROLINK-III	「3.19 設定例 19」 (78 ページ)
		MPU-01 上の MECHATROLINK 通 信用コネクタ	イーサネット (UDP) および MECHATROLINK-III	「3.20 設定例 20」 (81 ページ)
		サブ CPU 上の MECHATROLINK 通 信用コネクタ	イーサネット (UDP) および MECHATROLINK-III	「3.21 設定例 21」 (84 ページ)

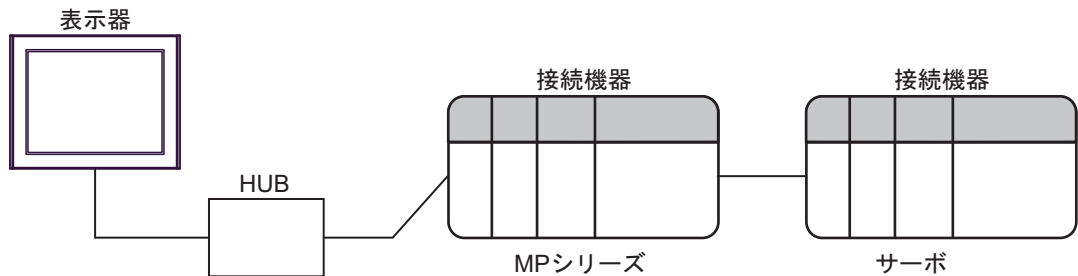
シリーズ	CPU	リンク I/F	通信方式	設定例
Σ-7 シリーズ 2 軸一体サーボパック (M-III)	SGD7W-□□□□ 20□□□□□□□	MECHATROLINK 通信用コネクタ (CN6A/CN6B)	イーサネット (UDP) および MECHATROLINK-III	「3.22 設定例 22」 (87 ページ)
		MPU-01 上の MECHATROLINK 通 信用コネクタ	イーサネット (UDP) および MECHATROLINK-III	「3.23 設定例 23」 (90 ページ)
		サブ CPU 上の MECHATROLINK 通 信用コネクタ	イーサネット (UDP) および MECHATROLINK-III	「3.24 設定例 24」 (93 ページ)
Σ-7 シリーズ コントローラ 内蔵 2 軸一体 サーボパック (M-III)	SGD7C-□□□ AMAA□□□*1	イーサネットコネク タ (CN12)	イーサネット (UDP) および MECHATROLINK-III	「3.40 設定例 40」 (141 ページ)
Σ-X シリーズ 単軸サーボ パック (M-III)	SGDXS-□□□A	MECHATROLINK 通信用コネクタ (CN6A/CN6B)	イーサネット (UDP) および MECHATROLINK-III	「3.41 設定例 41」 (143 ページ)
		MPU-01 上の MECHATROLINK 通 信用コネクタ	イーサネット (UDP) および MECHATROLINK-III	「3.42 設定例 42」 (146 ページ)
		サブ CPU 上の MECHATROLINK 通 信用コネクタ	イーサネット (UDP) および MECHATROLINK-III	「3.43 設定例 43」 (149 ページ)
Σ-X シリーズ 2 軸一体 サーボパック (M-III)	SGDXW-□□□A	MECHATROLINK 通信用コネクタ (CN6A/CN6B)	イーサネット (UDP) および MECHATROLINK-III	「3.44 設定例 44」 (152 ページ)
		MPU-01 上の MECHATROLINK 通 信用コネクタ	イーサネット (UDP) および MECHATROLINK-III	「3.45 設定例 45」 (155 ページ)
		サブ CPU 上の MECHATROLINK 通 信用コネクタ	イーサネット (UDP) および MECHATROLINK-III	「3.46 設定例 46」 (158 ページ)
Σ-XS シリーズ サーボパック FT 仕様 (M-III)	SGDXS- □□□□ 40A □□□□ 55 (FT55)	MECHATROLINK 通信用コネクタ (CN6A/CN6B)	イーサネット (UDP) および MECHATROLINK-III	「3.49 設定例 49」 (165 ページ)
Σ-XS シリーズ サーボパック FT 仕様 (M-4)	SGDXS- □□□□ 40A □□□□ 56 (FT56)		イーサネット (UDP) および MECHATROLINK-4	

*1 表示器は Σ-7C のサーボ部と通信します。

■ 接続構成

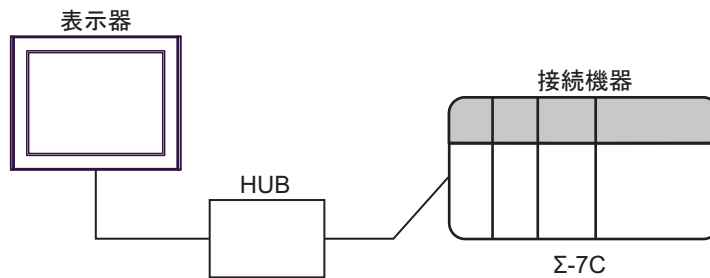
- 1:1 接続

MP シリーズを中継する場合



表示器-MPシリーズ間：イーサネット接続
MPシリーズ-サーボ間：MECHATROLINK接続

Σ -7C を使用する場合

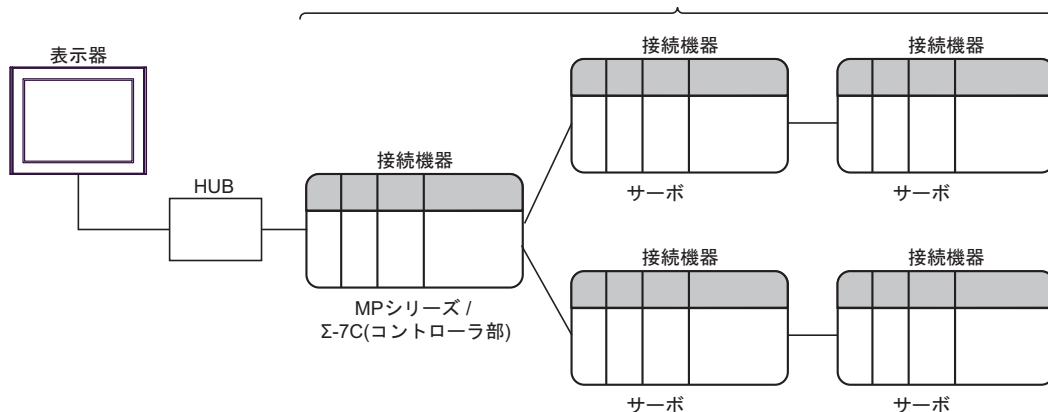


表示器- Σ -7C間：イーサネット接続

- 1:n 接続

MP シリーズ / Σ -7C(コントローラ部) を中継する場合

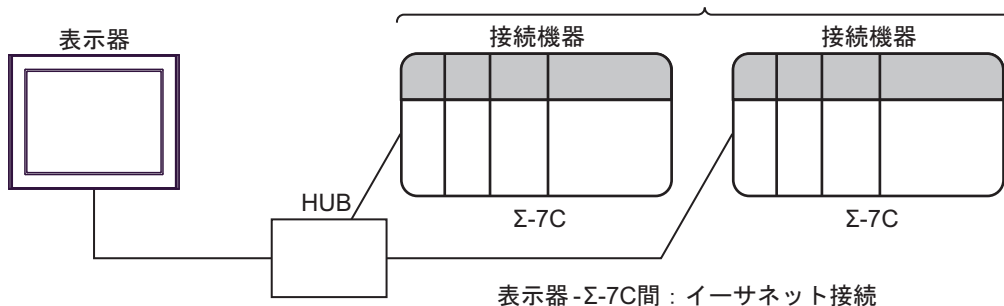
最大接続台数 : 64 台 *1



表示器 - MPシリーズ / Σ -7C(コントローラ部)間 : イーサネット接続
 MPシリーズ / Σ -7C(コントローラ部) - サーボ間 : MECHATROLINK接続
 サーボ - サーボ間 : MECHATROLINK接続

Σ -7C を使用する場合

最大接続台数 : 64 台 *1



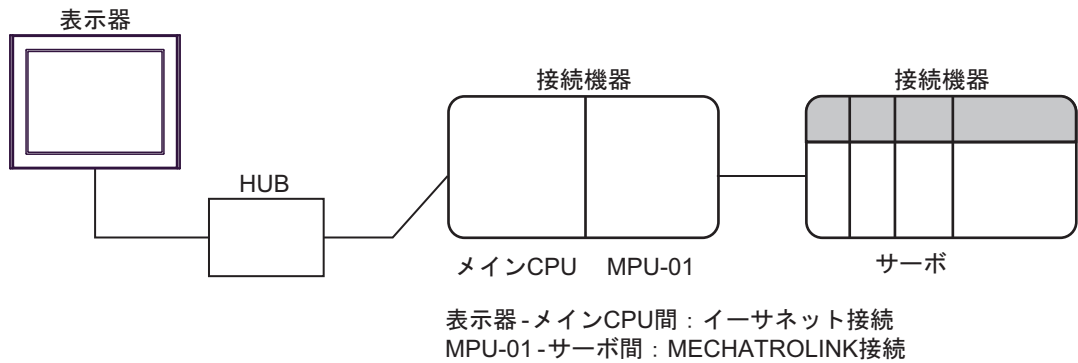
表示器 - Σ -7C間 : イーサネット接続

*1 33 台以上の接続機器を接続する場合、[接続機器の台数を拡張する] にチェックを付ける必要があります。

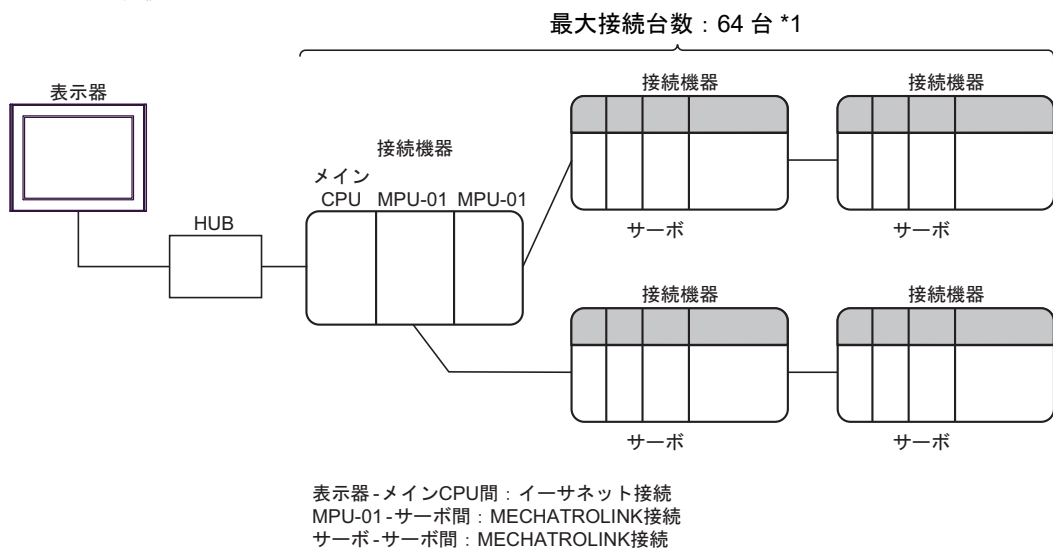
☞ 「4.1 GP-Pro EX での設定項目」 (168 ページ)

- MPU-01 を経由する場合

1 : 1 接続



1 : n 接続

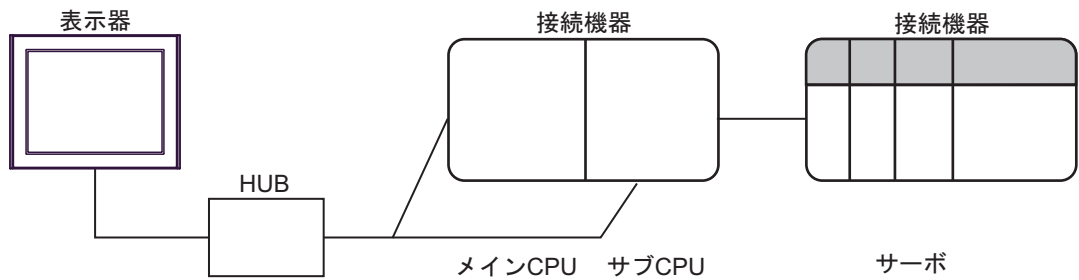


- *1 33 台以上の接続機器を接続する場合、[接続機器の台数を拡張する] にチェックを付ける必要があります。

☞ 「4.1 GP-Pro EX での設定項目」(168 ページ)

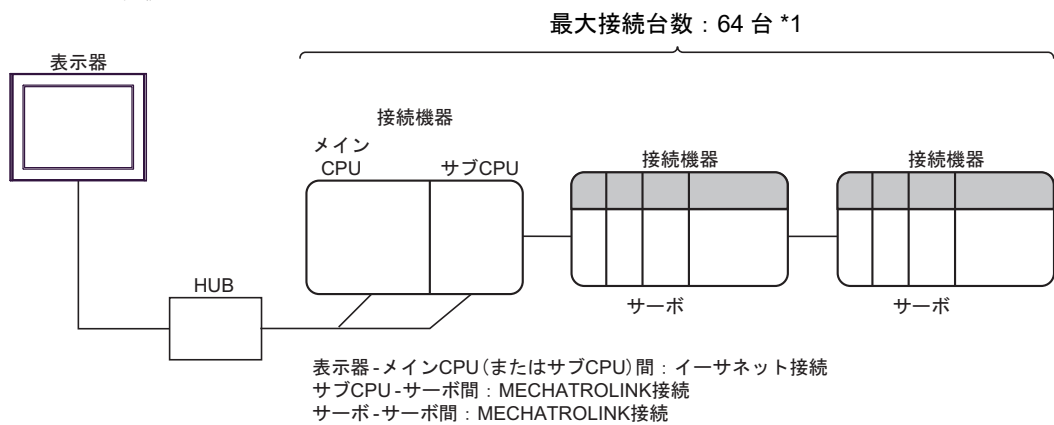
- サブ CPU を経由する場合

1 : 1 接続



表示器-メインCPU(またはサブCPU)間：イーサネット接続
サブCPU-サーボ間：MECHATROLINK接続

1 : n 接続

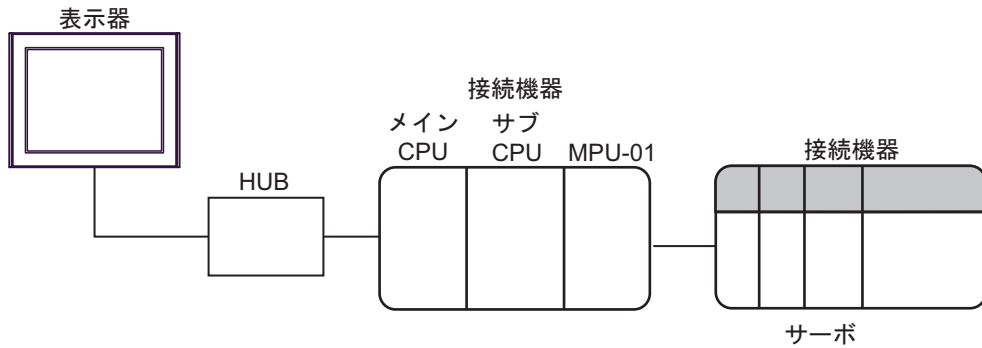


表示器-メインCPU(またはサブCPU)間：イーサネット接続
サブCPU-サーボ間：MECHATROLINK接続
サーボ-サーボ間：MECHATROLINK接続

- *1 33 台以上の接続機器を接続する場合、[接続機器の台数を拡張する] にチェックを付ける必要があります。
- ☞ 「4.1 GP-Pro EX での設定項目」(168 ページ)

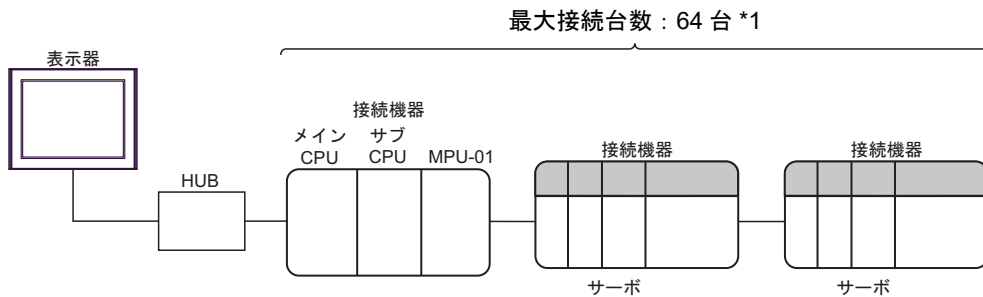
- サブ CPU および MPU-01 を経由する場合

1 : 1 接続



表示器-メインCPU間：イーサネット接続
MPU-01-サーボ間：MECHATROLINK接続

1 : n 接続



表示器-メインCPU間：イーサネット接続
MPU-01-サーボ間：MECHATROLINK接続
サーボ-サーボ間：MECHATROLINK接続

- *1 33 台以上の接続機器を接続する場合、[接続機器の台数を拡張する] にチェックを付ける必要があります。

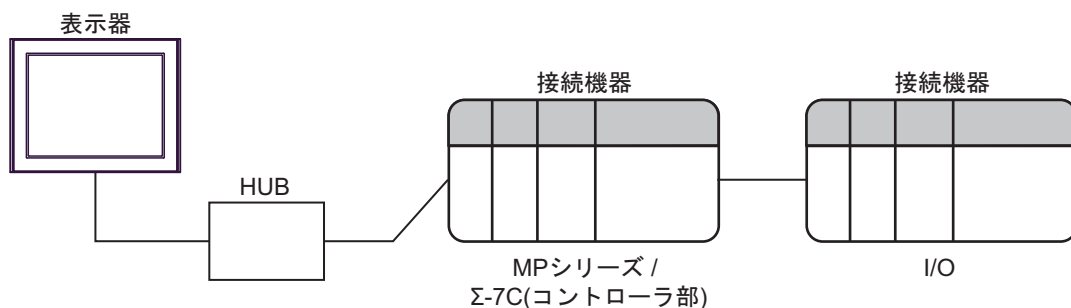
☞ 「4.1 GP-Pro EX での設定項目」(168 ページ)

1.4 I/O(エム・システム技研)

シリーズ	CPU	リンク I/F	通信方式	設定例
株式会社エム・システム技研 リモート I/O	R7G4HML3-6-LC2	MECHATROLINK 通信用コネクタ (CN6A/CN6B)	イーサネット (UDP) および MECHATROLINK-III	「3.25 設定例 25」 (96 ページ)
		MPU-01 上の MECHATROLINK 通 信用コネクタ	イーサネット (UDP) および MECHATROLINK-III	「3.26 設定例 26」 (99 ページ)
		サブ CPU 上の MECHATROLINK 通 信用コネクタ	イーサネット (UDP) および MECHATROLINK-III	「3.27 設定例 27」 (102 ページ)
	R7G4HML3-6- STYVS1	MECHATROLINK 通信用コネクタ (CN6A/CN6B)	イーサネット (UDP) および MECHATROLINK-III	「3.34 設定例 34」 (123 ページ)
		MPU-01 上の MECHATROLINK 通 信用コネクタ	イーサネット (UDP) および MECHATROLINK-III	「3.35 設定例 35」 (126 ページ)
		サブ CPU 上の MECHATROLINK 通 信用コネクタ	イーサネット (UDP) および MECHATROLINK-III	「3.36 設定例 36」 (129 ページ)
	R7G4HML3-6- LC2A	MECHATROLINK 通信用コネクタ (CN6A/CN6B)	イーサネット (UDP) および MECHATROLINK-III	「3.37 設定例 37」 (132 ページ)
		MPU-01 上の MECHATROLINK 通 信用コネクタ	イーサネット (UDP) および MECHATROLINK-III	「3.38 設定例 38」 (135 ページ)
		サブ CPU 上の MECHATROLINK 通 信用コネクタ	イーサネット (UDP) および MECHATROLINK-III	「3.39 設定例 39」 (138 ページ)

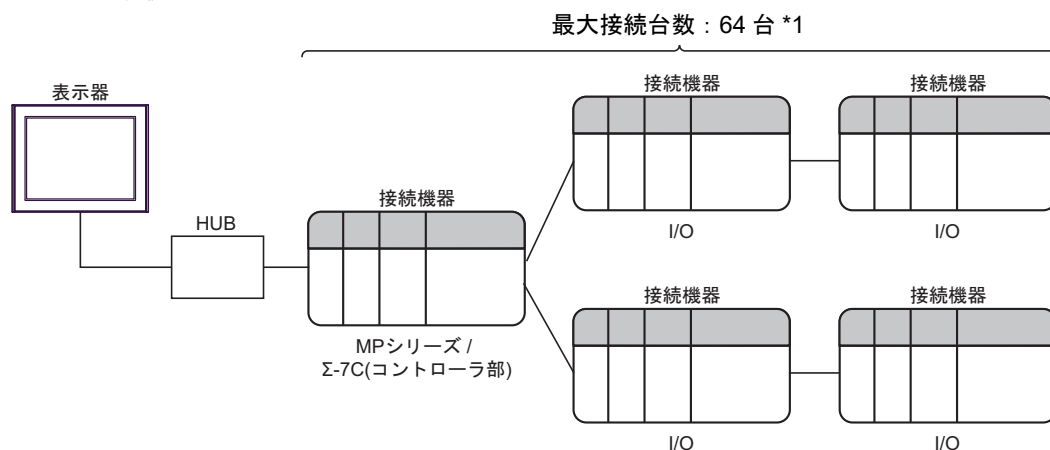
■ 接続構成

- 1:1 接続



表示器 - MPシリーズ / Σ-7C(コントローラ部)間：イーサネット接続
MPシリーズ / Σ-7C(コントローラ部) - I/O間：MECHATROLINK接続

- 1:n 接続



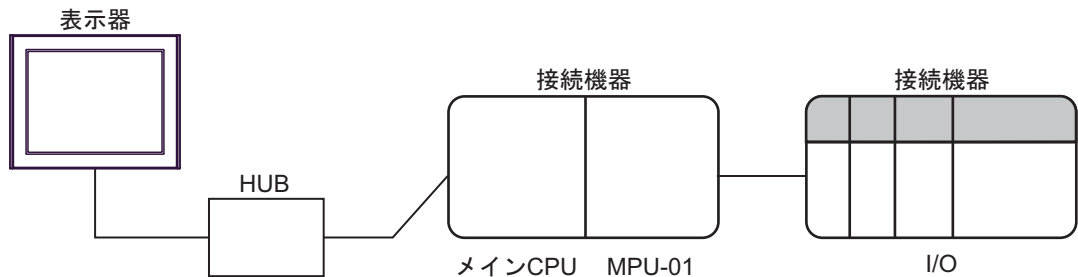
表示器 - MPシリーズ / Σ-7C(コントローラ部)間：イーサネット接続
MPシリーズ / Σ-7C(コントローラ部) - I/O間：MECHATROLINK接続
I/O - I/O間：MECHATROLINK接続

- *1 33 台以上の接続機器を接続する場合、[接続機器の台数を拡張する] にチェックを付ける必要があります。

👉 「4.1 GP-Pro EX での設定項目」(168 ページ)

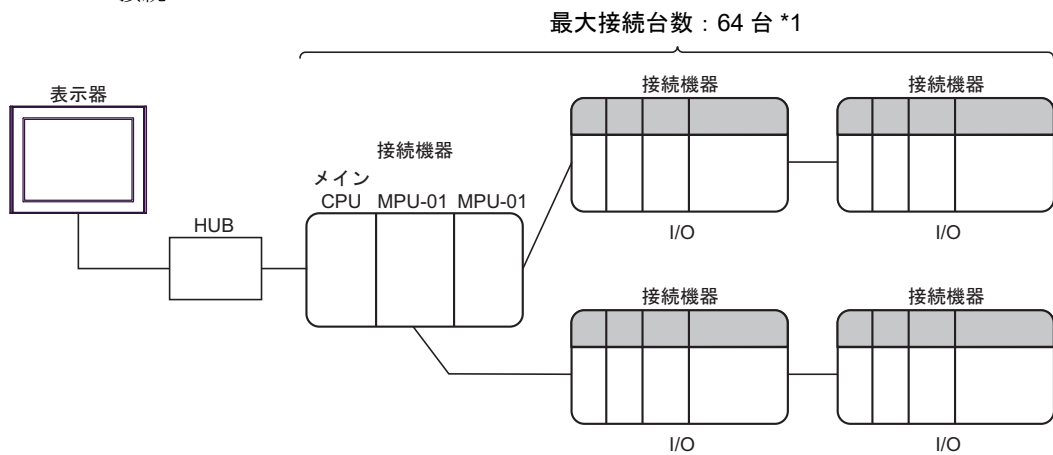
- MPU-01 を経由する場合

1 : 1 接続



表示器 - メインCPU間 : イーサネット接続
MPU-01 - I/O間 : MECHATROLINK接続

1 : n 接続



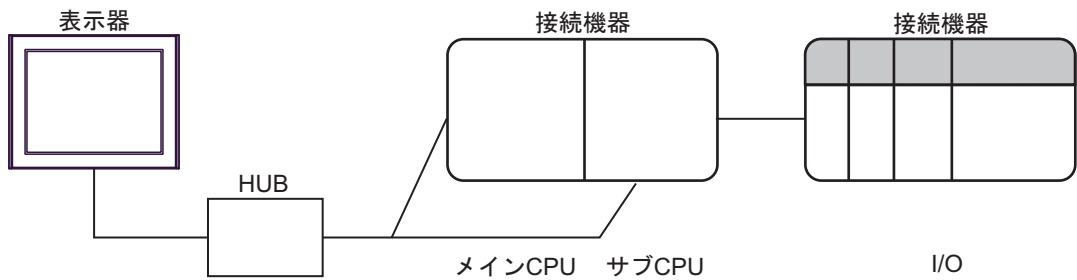
表示器 - メインCPU間 : イーサネット接続
MPU-01 - I/O間 : MECHATROLINK接続
I/O - I/O間 : MECHATROLINK接続

- *1 33 台以上の接続機器を接続する場合、[接続機器の台数を拡張する] にチェックを付ける必要があります。

☞ 「4.1 GP-Pro EX での設定項目」 (168 ページ)

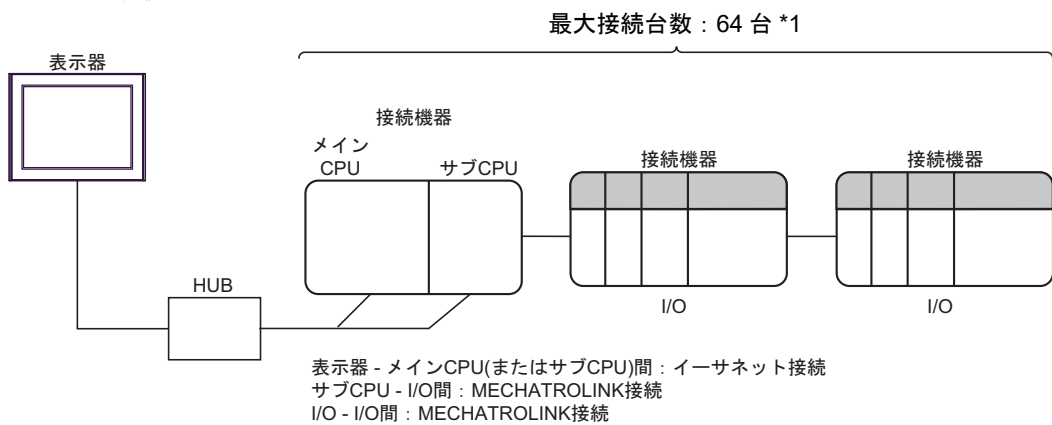
- サブ CPU を経由する場合

1 : 1 接続



表示器 - メインCPU(またはサブCPU)間 : イーサネット接続
サブCPU - I/O間 : MECHATROLINK接続

1 : n 接続

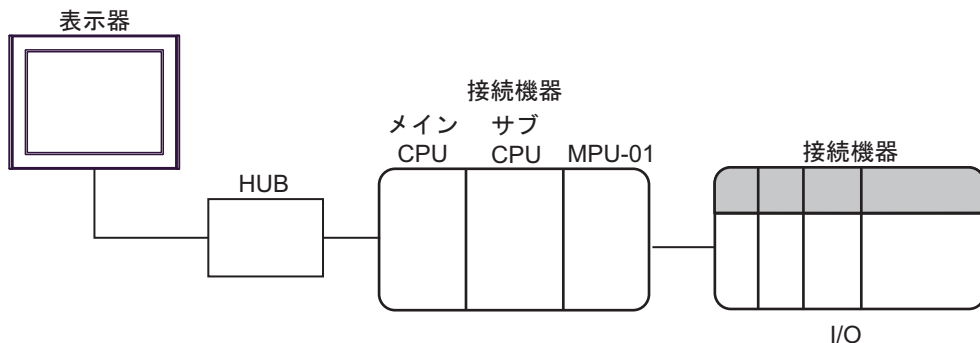


表示器 - メインCPU(またはサブCPU)間 : イーサネット接続
サブCPU - I/O間 : MECHATROLINK接続
I/O - I/O間 : MECHATROLINK接続

- *1 33 台以上の接続機器を接続する場合、[接続機器の台数を拡張する] にチェックを付ける必要があります。
- 👉 「4.1 GP-Pro EX での設定項目」 (168 ページ)

- サブ CPU および MPU-01 を経由する場合

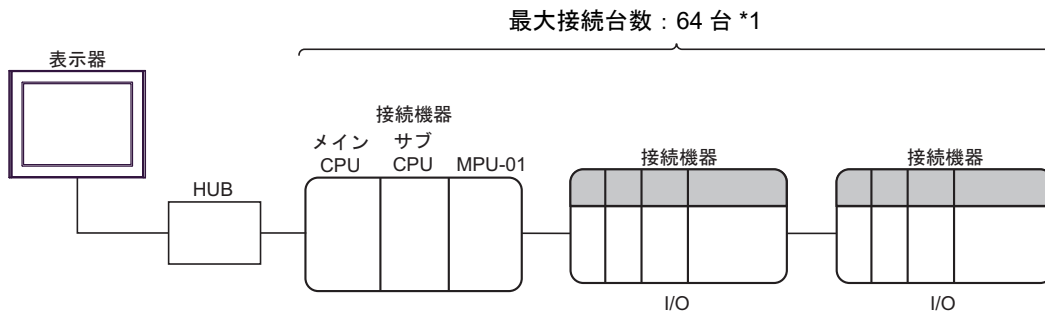
1 : 1 接続



表示器 - メインCPU間：イーサネット接続

MPU-01 - I/O間：MECHATROLINK接続

1 : n 接続



表示器 - メインCPU間：イーサネット接続

MPU-01 - I/O間：MECHATROLINK接続

I/O - I/O間：MECHATROLINK接続

- *1 33 台以上の接続機器を接続する場合、[接続機器の台数を拡張する] にチェックを付ける必要があります。

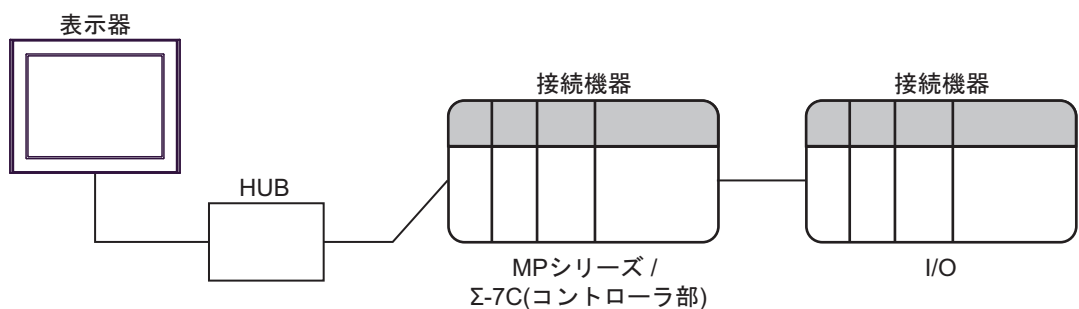
👉 「4.1 GP-Pro EX での設定項目」(168 ページ)

1.5 I/O(アズビル)

シリーズ	CPU	リンク I/F	通信方式	設定例
アズビル株式会社 K1G シリーズ	K1G-C04M	MECHATROLINK 通信用コネクタ (CN6A/CN6B)	イーサネット (UDP) および MECHATROLINK-III	「3.28 設定例 28」 (105 ページ)
		MPU-01 上の MECHATROLINK 通 信用コネクタ	イーサネット (UDP) および MECHATROLINK-III	「3.29 設定例 29」 (108 ページ)
		サブ CPU 上の MECHATROLINK 通 信用コネクタ	イーサネット (UDP) および MECHATROLINK-III	「3.30 設定例 30」 (111 ページ)

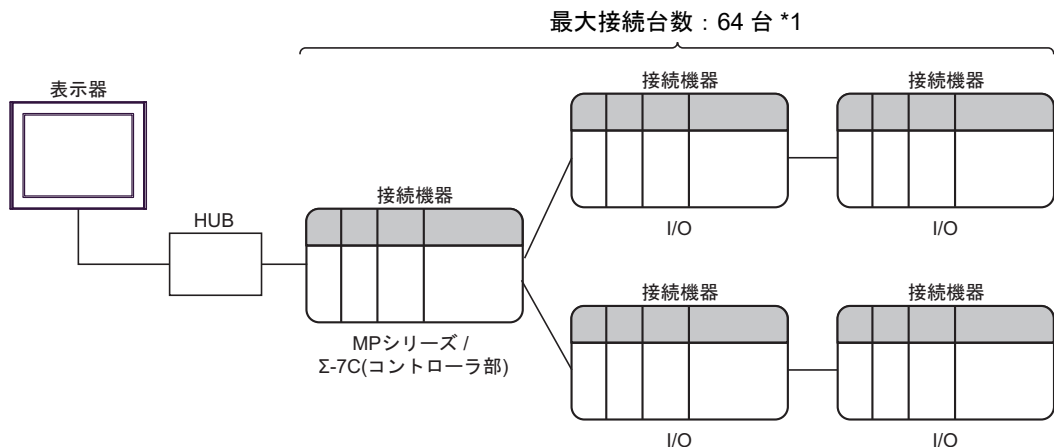
■ 接続構成

- 1 : 1 接続



表示器 - MPシリーズ / Σ-7C(コントローラ部)間 : イーサネット接続
MPシリーズ / Σ-7C(コントローラ部) - I/O間 : MECHATROLINK接続

- 1 : n 接続



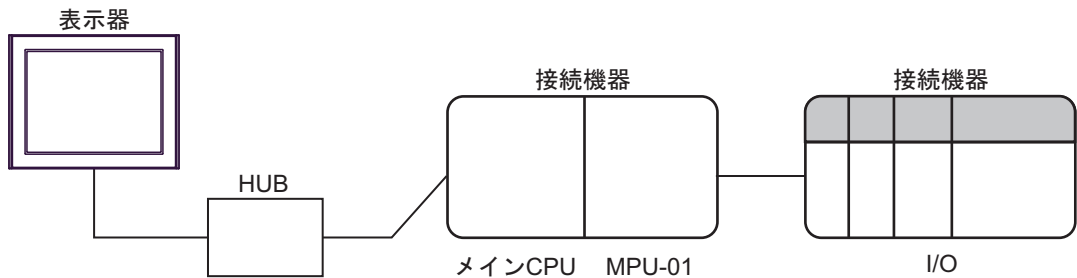
表示器 - MPシリーズ / Σ-7C(コントローラ部)間 : イーサネット接続
MPシリーズ / Σ-7C(コントローラ部) - I/O間 : MECHATROLINK接続
I/O - I/O間 : MECHATROLINK接続

*1 33 台以上の接続機器を接続する場合、[接続機器の台数を拡張する] にチェックを付ける必要があります。

☞ 「4.1 GP-Pro EX での設定項目」 (168 ページ)

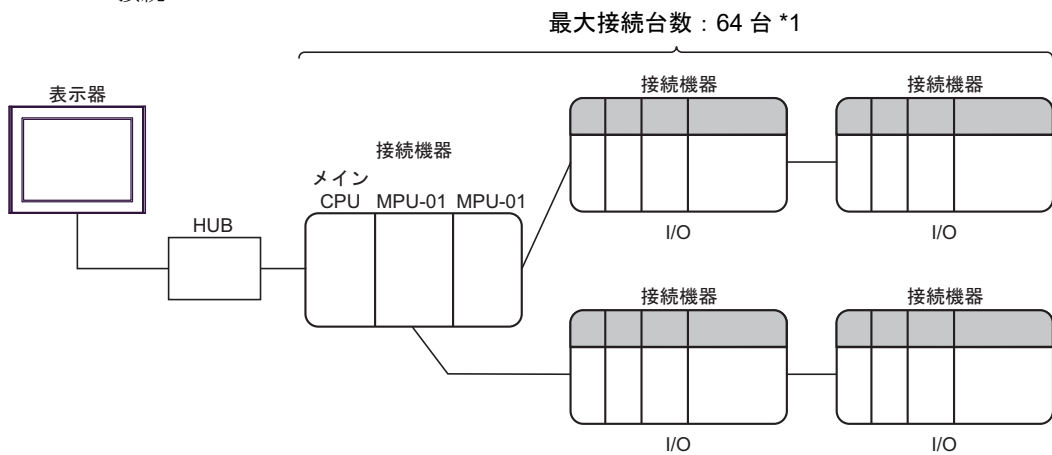
- MPU-01 を経由する場合

1 : 1 接続



表示器 - メインCPU間 : イーサネット接続
MPU-01 - I/O間 : MECHATROLINK接続

1 : n 接続



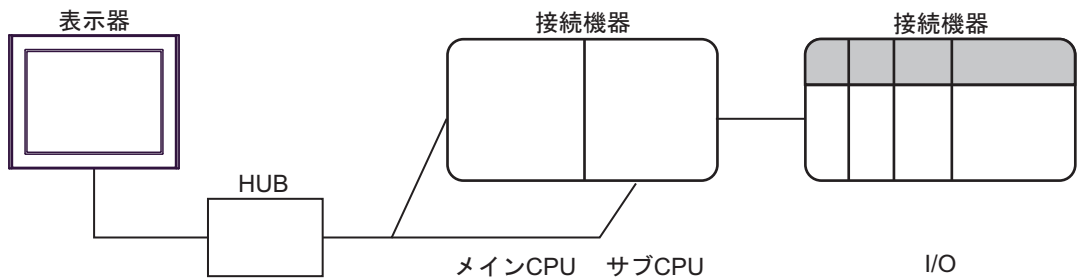
表示器 - メインCPU間 : イーサネット接続
MPU-01 - I/O間 : MECHATROLINK接続
I/O - I/O間 : MECHATROLINK接続

- *1 33 台以上の接続機器を接続する場合、[接続機器の台数を拡張する] にチェックを付ける必要があります。

☞ 「4.1 GP-Pro EX での設定項目」 (168 ページ)

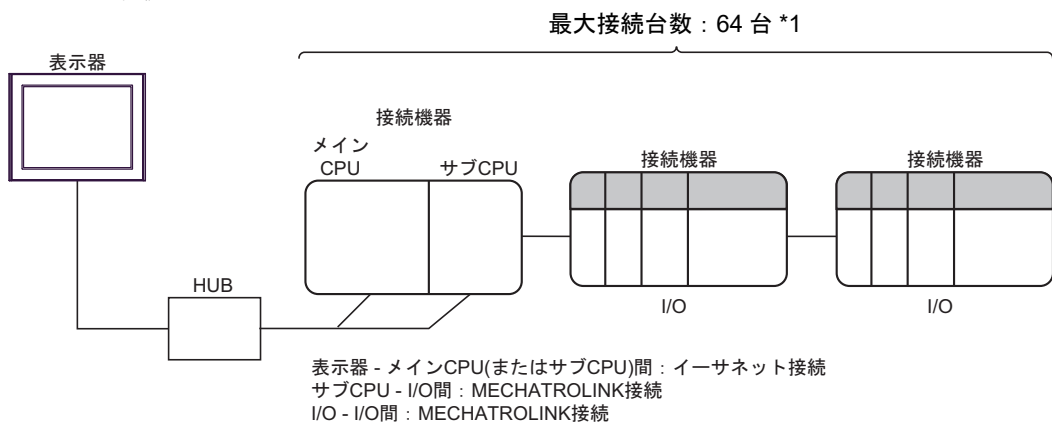
- サブ CPU を経由する場合

1 : 1 接続



表示器 - メインCPU(またはサブCPU)間 : イーサネット接続
サブCPU - I/O間 : MECHATROLINK接続

1 : n 接続

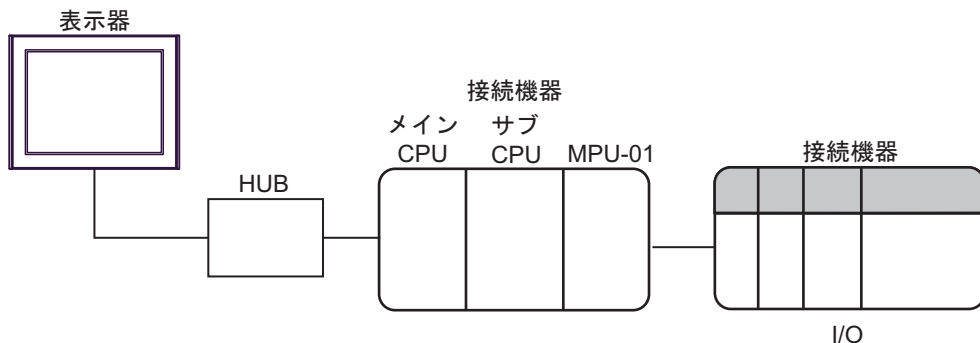


表示器 - メインCPU(またはサブCPU)間 : イーサネット接続
サブCPU - I/O間 : MECHATROLINK接続
I/O - I/O間 : MECHATROLINK接続

- *1 33 台以上の接続機器を接続する場合、[接続機器の台数を拡張する] にチェックを付ける必要があります。
- ☞ 「4.1 GP-Pro EX での設定項目」 (168 ページ)

- サブ CPU および MPU-01 を経由する場合

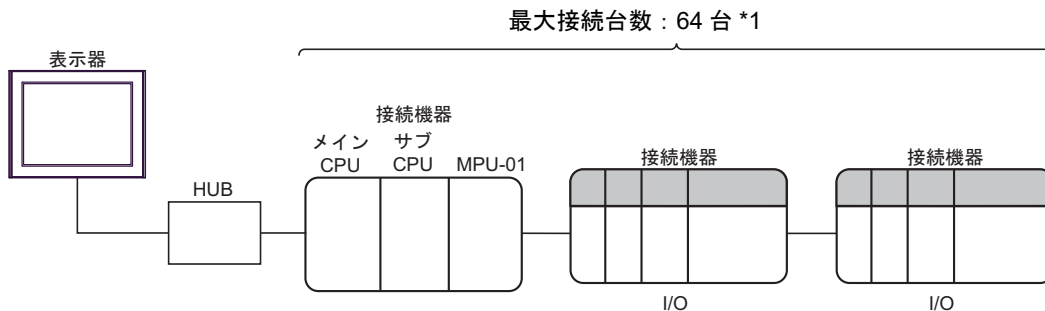
1 : 1 接続



表示器 - メインCPU間：イーサネット接続

MPU-01 - I/O間：MECHATROLINK接続

1 : n 接続



表示器 - メインCPU間：イーサネット接続

MPU-01 - I/O間：MECHATROLINK接続

I/O - I/O間：MECHATROLINK接続

- *1 33 台以上の接続機器を接続する場合、[接続機器の台数を拡張する] にチェックを付ける必要があります。

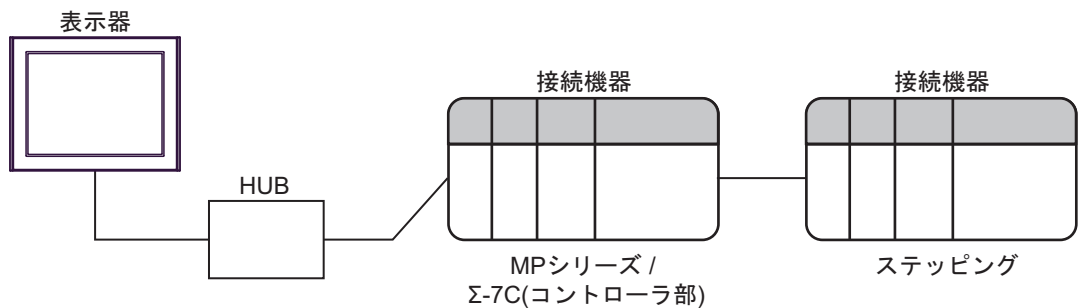
👉 「4.1 GP-Pro EX での設定項目」(168 ページ)

1.6 ステッピング (オリエンタルモーター)

シリーズ	CPU	リンク I/F	通信方式	設定例
オリエンタル モーター株式会社 AZ シリーズ	AZD2A-KM3 AZD3A-KM3 AZD4A-KM3	MECHATROLINK 通信用コネクタ	イーサネット (UDP) および MECHATROLINK-III	「3.31 設定例 31」 (114 ページ)
		MPU-01 上の MECHATROLINK 通信用コネクタ	イーサネット (UDP) および MECHATROLINK-III	「3.32 設定例 32」 (117 ページ)
		サブ CPU 上の MECHATROLINK 通信用コネクタ	イーサネット (UDP) および MECHATROLINK-III	「3.33 設定例 33」 (120 ページ)

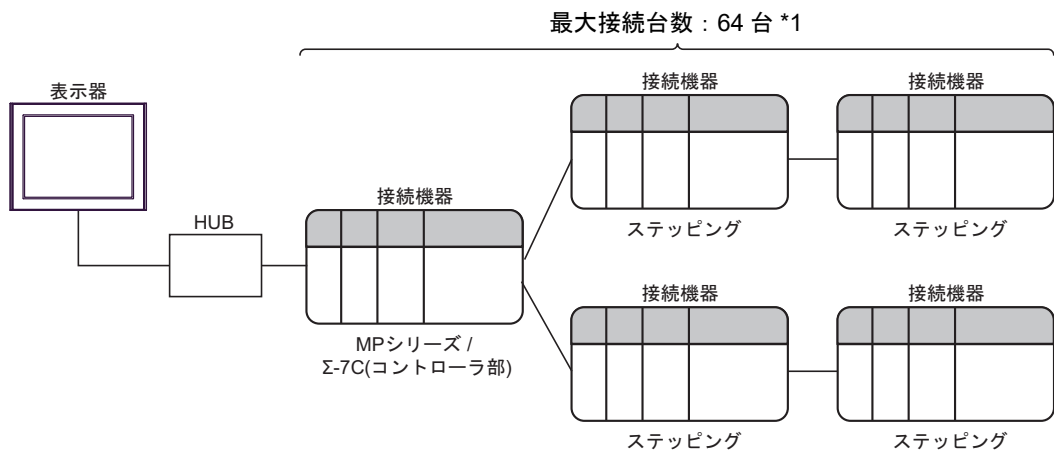
■ 接続構成

- 1 : 1 接続



表示器 - MPシリーズ / Σ-7C(コントローラ部)間 : イーサネット接続
MPシリーズ / Σ-7C(コントローラ部) - ステッピング間 : MECHATROLINK接続

- 1 : n 接続



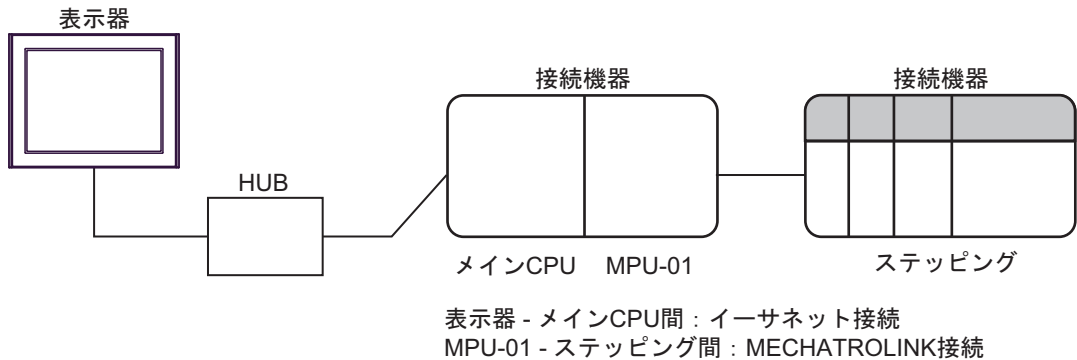
表示器 - MPシリーズ / Σ-7C(コントローラ部)間 : イーサネット接続
MPシリーズ / Σ-7C(コントローラ部) - ステッピング間 : MECHATROLINK接続
ステッピング - ステッピング間 : MECHATROLINK接続

*1 33 台以上の接続機器を接続する場合、[接続機器の台数を拡張する] にチェックを付ける必要があります。

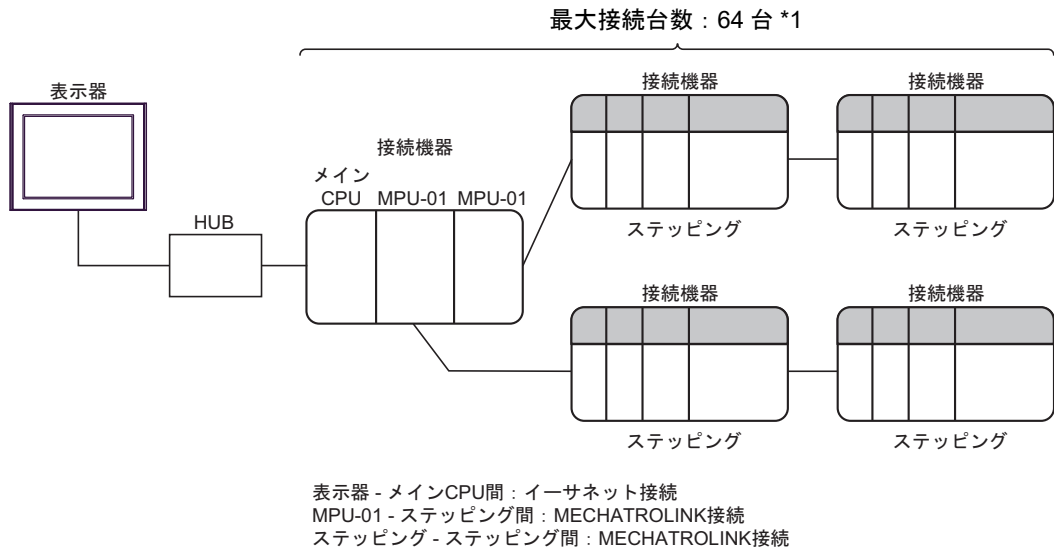
☞ 「4.1 GP-Pro EX での設定項目」 (168 ページ)

- MPU-01 を経由する場合

1 : 1 接続



1 : n 接続

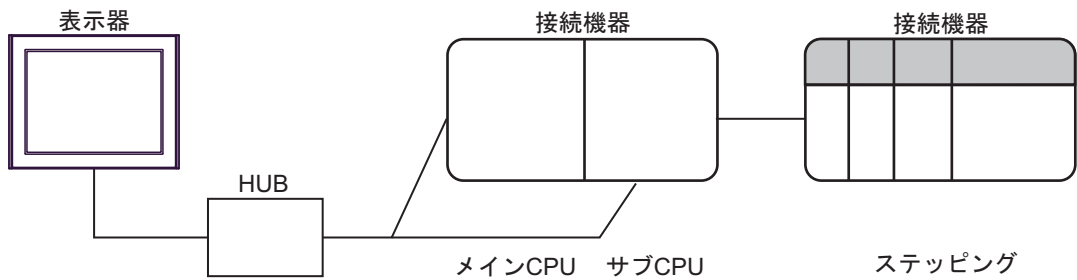


- *1 33 台以上の接続機器を接続する場合、[接続機器の台数を拡張する] にチェックを付ける必要があります。

☞ 「4.1 GP-Pro EX での設定項目」 (168 ページ)

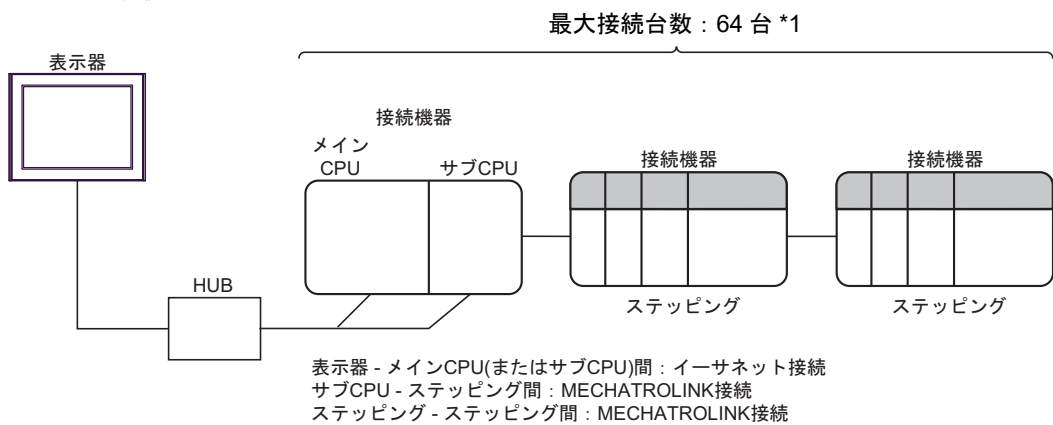
- サブ CPU を経由する場合

1 : 1 接続



表示器 - メインCPU(またはサブCPU)間 : イーサネット接続
サブCPU - ステッピング間 : MECHATROLINK接続

1 : n 接続

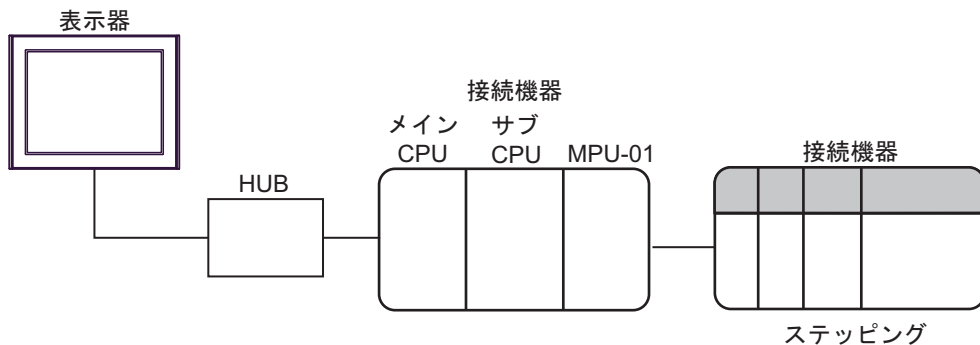


表示器 - メインCPU(またはサブCPU)間 : イーサネット接続
サブCPU - ステッピング間 : MECHATROLINK接続
ステッピング - ステッピング間 : MECHATROLINK接続

- *1 33 台以上の接続機器を接続する場合、[接続機器の台数を拡張する] にチェックを付ける必要があります。
- 👉 「4.1 GP-Pro EX での設定項目」 (168 ページ)

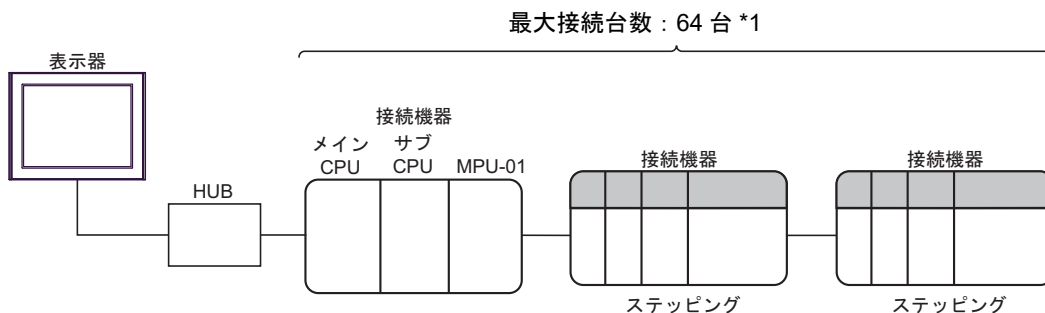
- サブ CPU および MPU-01 を経由する場合

1 : 1 接続



表示器 - メインCPU間：イーサネット接続
MPU-01 - ステッピング間：MECHATROLINK接続

1 : n 接続



表示器 - メインCPU間：イーサネット接続
MPU-01 - ステッピング間：MECHATROLINK接続
ステッピング - ステッピング間：MECHATROLINK接続

- *1 33 台以上の接続機器を接続する場合、[接続機器の台数を拡張する] にチェックを付ける必要があります。

👉 「4.1 GP-Pro EX での設定項目」(168 ページ)

2 接続機器の選択

表示器と接続する接続機器を選択します。



設定項目	設定内容
接続機器数	設定するシリーズ数を「1～4」で入力します。
メーカー	接続する接続機器のメーカーを選択します。「(株) 安川電機」を選択します。
シリーズ	接続する接続機器の機種（シリーズ）と接続方法を選択します。「MP Ethernet/ メカトロリンク」を選択します。 「MP Ethernet/ メカトロリンク」で接続できる接続機器はシステム構成で確認してください。 👉「1 システム構成」(3 ページ)
ポート	接続機器と接続する表示器のポートを選択します。
システムエリアを使用する	表示器のシステムデータエリアと接続機器のデバイス（メモリ）を同期させる場合にチェックします。同期させた場合、接続機器のラダープログラムで表示器の表示を切り替えたりウィンドウを表示させることができます。 参照：GP-Pro EX リファレンスマニュアル「LS エリア（ダイレクトアクセス方式専用エリア）」 この設定は GP-Pro EX、または表示器のオフラインモードでも設定できます。 参照：GP-Pro EX リファレンスマニュアル「システム設定 [本体設定] - [システムエリア設定] の設定ガイド」 参照：保守 / トラブル解決ガイド「本体設定 - システムエリア設定」

3 通信設定例

弊社が推奨する表示器と接続機器の通信設定例を示します。

3.1 設定例 1

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

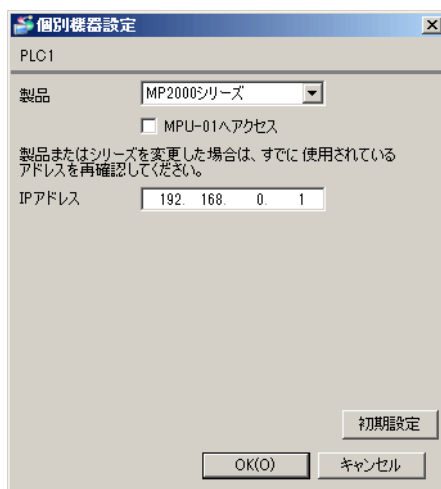
設定画面を表示するには、[プロジェクト] メニューの [システム設定]-[接続機器設定] をクリックします。



◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。



◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

通信モジュール 218IF-01 の通信設定はラダーソフト（MPE720）で行います。

通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

設定手順はラダーソフトのバージョンによって異なります。

◆ ラダーソフトの設定（MPE720 Ver.5 の場合）

- 1 ラダーソフトを起動し、root フォルダにオーダフォルダ、PLC フォルダを作成します。
- 2 作成した接続機器を右クリックして表示されるメニューからログオンを選択します。

- MEMO**
- 表示されたメニューの [オンライン] にチェックが入っていないことを確認してからログオンしてください。
 - ログオンの方法については接続機器のユーザズマニュアルを参照してください。

- 3 PLC フォルダから [定義フォルダ]-[モジュール構成] をダブルクリックして [Engineering Manager] を表示します。
- 4 [Engineering Manager] の [コントローラ] でラック種別と通信モジュールをプルダウンメニューから選択します。
通信モジュールが使用しているスロット番号に対応する番号で設定してください。
通信モジュールを選択すると、[Engineering Manager] の [モジュール詳細] に設定内容が表示されます。
- 5 [モジュール詳細] で No. の数字部分をダブルクリックして通信設定を行います。
イーサネットユニットを接続しているスロット番号に相当する数字をダブルクリックします。

設定項目		設定内容
伝送パラメータ設定	自局設定 IP アドレス	接続機器の IP アドレス

- 重 要**
- コネクションパラメータ設定はブランクにしてください。
コネクションパラメータを設定すると通信できません。

- 6 同様に No.1 をダブルクリックしてシリアル通信の設定を行います。
シリアル通信の設定は接続機器に通信設定を転送するために使用します。
- 7 設定内容を保存し、[Engineering Manager] を終了します。
- 8 通信モジュールのディップスイッチ「INIT」を ON して、電源を投入します。
- 9 通信設定を通信モジュールに転送します。
- 10 オンラインで接続機器にログオンし、転送したデータを FLASH に書込みます。
- 11 接続機器の電源を OFF し、INIT のディップスイッチを OFF してから接続機器の電源を再投入します。

◆ ラダーソフトの設定（MPE720 Ver.6 の場合）

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 プロジェクトファイルを作成します。
- 3 ツリービューの [モジュール構成] をダブルクリックします。
[Engineering Manager] が起動します。
- 4 [Engineering Manager] の [コントローラ] でラック種別と通信モジュールをプルダウンメニューから選択します。
通信モジュールが使用しているスロット番号に対応する番号で設定してください。
通信モジュールを選択すると、[Engineering Manager] の [モジュール詳細] に設定内容が表示されます。
- 5 [モジュール詳細] で No. の数字部分をダブルクリックして通信設定を行います。
イーサネットユニットを接続しているスロット番号に相当する数字をダブルクリックします。

設定項目		設定内容
伝送パラメータ設定	自局設定 IP アドレス	接続機器の IP アドレス

重 要 ・ コネクションパラメータ設定はblankにしてください。
コネクションパラメータを設定すると通信できません。

- 6 同様に No.1 をダブルクリックしてシリアル通信の設定を行います。
シリアル通信の設定は接続機器に通信設定を転送するために使用します。
- 7 設定内容を保存し、[Engineering Manager] を終了します。
- 8 通信モジュールのディップスイッチ「INIT」を ON して、電源を投入します。
- 9 設定内容を通信モジュールに書込みます。

重 要 ・ 設定を書込む際は「転送後にフラッシュ保存を実行」に必ずチェックを付けてください。
チェックを付けずに転送すると、接続機器を再起動した場合に転送したデータが消えてしまいます。

- 10 接続機器の電源を OFF し、INIT のディップスイッチを OFF してから接続機器の電源を再投入します。

◆ 注意事項

- ・ IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。

3.2 設定例 2

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト] メニューの [システム設定]-[接続機器設定] をクリックします。

◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

通信モジュール CPU ユニットの通信設定はラダーソフト（MPE720）で行います。

通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

設定手順はラダーソフトのバージョンによって異なります。

◆ ラダーソフトの設定（MPE720 Ver.5 の場合）

- 1 ラダーソフトを起動し、root フォルダにオーダフォルダ、PLC フォルダを作成します。
- 2 作成した接続機器を右クリックして表示されるメニューからログオンを選択します。

MEMO

- ・ 表示されたメニューの [オンライン] にチェックが入っていないことを確認してからログオンしてください。
- ・ ログオンの方法については接続機器のユーザーズマニュアルを参照してください。

- 3 PLC フォルダから [定義フォルダ]-[モジュール構成] をダブルクリックして [Engineering Manager] を表示します。
- 4 [Engineering Manager] の [コントローラ] でラック種別と通信モジュールをプルダウンメニューから選択します。
通信モジュールが使用しているスロット番号に対応する番号で設定してください。
通信モジュールを選択すると、[Engineering Manager] の [モジュール詳細] に設定内容が表示されます。
- 5 [モジュール詳細] で No. の数字部分をダブルクリックして通信設定を行います。
イーサネットユニットを接続しているスロット番号に相当する数字をダブルクリックします。

設定項目		設定内容
伝送パラメータ設定	自局設定 IP アドレス	接続機器の IP アドレス

重 要

- ・ コネクションパラメータ設定はブランクにしてください。
コネクションパラメータを設定すると通信できません。

- 6 設定内容を保存し、[Engineering Manager] を終了します。
- 7 通信モジュールのディップスイッチ「INIT」を ON して、電源を投入します。
- 8 通信設定を通信モジュールに転送します。
- 9 オンラインで接続機器にログオンし、転送したデータを FLASH に書込みます。
- 10 接続機器の電源を OFF し、INIT のディップスイッチを OFF してから接続機器の電源を再投入します。

◆ ラダーソフトの設定（MPE720 Ver.6 の場合）

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 プロジェクトファイルを作成します。
- 3 ツリービューの [モジュール構成] をダブルクリックします。
[Engineering Manager] が起動します。
- 4 [Engineering Manager] の [コントローラ] でラック種別と通信モジュールをプルダウンメニューから選択します。
通信モジュールが使用しているスロット番号に対応する番号で設定してください。
通信モジュールを選択すると、[Engineering Manager] の [モジュール詳細] に設定内容が表示されます。
- 5 [モジュール詳細] で No. の数字部分をダブルクリックして通信設定を行います。
イーサネットユニットを接続しているスロット番号に相当する数字をダブルクリックします。

設定項目		設定内容
伝送パラメータ設定	自局設定 IP アドレス	接続機器の IP アドレス

重 要 ・ コネクションパラメータ設定はブランクにしてください。
コネクションパラメータを設定すると通信できません。

- 6 設定内容を保存し、[Engineering Manager] を終了します。
- 7 通信モジュールのディップスイッチ「INIT」を ON して、電源を投入します。
- 8 設定内容を通信モジュールに書込みます。

重 要 ・ 設定を書込む際は「転送後にフラッシュ保存を実行」に必ずチェックを付けてください。
チェックを付けずに転送すると、接続機器を再起動した場合に転送したデータが消えてしまいます。

- 9 接続機器の電源を OFF し、INIT のディップスイッチを OFF してから接続機器の電源を再投入します。

◆ 注意事項

- ・ IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。

3.3 設定例 3

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト] メニューの [システム設定]-[接続機器設定] をクリックします。

◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

通信モジュール 218IF-01 の通信設定はラダーソフト（MPE720）で行います。

通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

設定手順はラダーソフトのバージョンによって異なります。

◆ ラダーソフトの設定（MPE720 Ver.5 の場合）

- 1 ラダーソフトを起動し、root フォルダにオーダフォルダ、PLC フォルダを作成します。
- 2 作成した接続機器を右クリックして表示されるメニューからログオンを選択します。

MEMO

- ・ 表示されたメニューの [オンライン] にチェックが入っていないことを確認してからログオンしてください。
- ・ ログオンの方法については接続機器のユーザーズマニュアルを参照してください。

- 3 PLC フォルダから [定義フォルダ]-[モジュール構成] をダブルクリックして [Engineering Manager] を表示します。
- 4 [Engineering Manager] の [コントローラ] でラック種別と通信モジュールをプルダウンメニューから選択します。
通信モジュールが使用しているスロット番号に対応する番号で設定してください。
通信モジュールを選択すると、[Engineering Manager] の [モジュール詳細] に設定内容が表示されます。
- 5 [モジュール詳細] で No. の数字部分をダブルクリックして通信設定を行います。
イーサネットユニットを接続しているスロット番号に相当する数字をダブルクリックします。

設定項目		設定内容
伝送パラメータ設定	自局設定 IP アドレス	接続機器の IP アドレス

重 要

- ・ コネクションパラメータ設定はブランクにしてください。
コネクションパラメータを設定すると通信できません。

- 6 設定内容を保存し、[Engineering Manager] を終了します。
- 7 通信モジュールのディップスイッチ「INIT」を ON して、電源を投入します。
- 8 通信設定を通信モジュールに転送します。
- 9 オンラインで接続機器にログオンし、転送したデータを FLASH に書込みます。
- 10 接続機器の電源を OFF し、INIT のディップスイッチを OFF してから接続機器の電源を再投入します。

◆ ラダーソフトの設定（MPE720 Ver.6 の場合）

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 プロジェクトファイルを作成します。
- 3 ツリービューの [モジュール構成] をダブルクリックします。
[Engineering Manager] が起動します。
- 4 [Engineering Manager] の [コントローラ] でラック種別と通信モジュールをプルダウンメニューから選択します。
通信モジュールが使用しているスロット番号に対応する番号で設定してください。
通信モジュールを選択すると、[Engineering Manager] の [モジュール詳細] に設定内容が表示されます。
- 5 [モジュール詳細] で No. の数字部分をダブルクリックして通信設定を行います。
イーサネットユニットを接続しているスロット番号に相当する数字をダブルクリックします。

設定項目		設定内容
伝送パラメータ設定	自局設定 IP アドレス	接続機器の IP アドレス

重 要 ・ コネクションパラメータ設定はブランクにしてください。
コネクションパラメータを設定すると通信できません。

- 6 設定内容を保存し、[Engineering Manager] を終了します。
- 7 通信モジュールのディップスイッチ「INIT」を ON して、電源を投入します。
- 8 設定内容を通信モジュールに書込みます。

重 要 ・ 設定を書込む際は「転送後にフラッシュ保存を実行」に必ずチェックを付けてください。
チェックを付けずに転送すると、接続機器を再起動した場合に転送したデータが消えてしまいます。

- 9 接続機器の電源を OFF し、INIT のディップスイッチを OFF してから接続機器の電源を再投入します。

◆ 注意事項

- ・ IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。

3.4 設定例 4

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト] メニューの [システム設定]-[接続機器設定] をクリックします。

◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

通信モジュール 218IF-02 の通信設定はラダーソフト（MPE720）で行います。

通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

設定手順はラダーソフトのバージョンによって異なります。

◆ ラダーソフトの設定（MPE720 Ver.5 の場合）

- 1 ラダーソフトを起動し、root フォルダにオーダフォルダ、PLC フォルダを作成します。
- 2 作成した接続機器を右クリックして表示されるメニューからログオンを選択します。

MEMO

- ・ 表示されたメニューの [オンライン] にチェックが入っていないことを確認してからログオンしてください。
- ・ ログオンの方法については接続機器のユーザーズマニュアルを参照してください。

- 3 PLC フォルダから [定義フォルダ]-[モジュール構成] をダブルクリックして [Engineering Manager] を表示します。
- 4 [Engineering Manager] の [コントローラ] でラック種別と通信モジュールをプルダウンメニューから選択します。
通信モジュールが使用しているスロット番号に対応する番号で設定してください。
通信モジュールを選択すると、[Engineering Manager] の [モジュール詳細] に設定内容が表示されます。
- 5 [モジュール詳細] で No. の数字部分をダブルクリックして通信設定を行います。
イーサネットユニットを接続しているスロット番号に相当する数字をダブルクリックします。

設定項目		設定内容
伝送パラメータ設定	自局設定 IP アドレス	接続機器の IP アドレス

重 要

- ・ コネクションパラメータ設定はブランクにしてください。
コネクションパラメータを設定すると通信できません。

- 6 設定内容を保存し、[Engineering Manager] を終了します。
- 7 通信モジュールのディップスイッチ「INIT」を ON して、電源を投入します。
- 8 通信設定を通信モジュールに転送します。
- 9 オンラインで接続機器にログオンし、転送したデータを FLASH に書込みます。
- 10 接続機器の電源を OFF し、INIT のディップスイッチを OFF してから接続機器の電源を再投入します。

◆ ラダーソフトの設定（MPE720 Ver.6 の場合）

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 プロジェクトファイルを作成します。
- 3 ツリービューの [モジュール構成] をダブルクリックします。
[Engineering Manager] が起動します。
- 4 [Engineering Manager] の [コントローラ] でラック種別と通信モジュールをプルダウンメニューから選択します。
通信モジュールが使用しているスロット番号に対応する番号で設定してください。
通信モジュールを選択すると、[Engineering Manager] の [モジュール詳細] に設定内容が表示されます。
- 5 [モジュール詳細] で No. の数字部分をダブルクリックして通信設定を行います。
イーサネットユニットを接続しているスロット番号に相当する数字をダブルクリックします。

設定項目		設定内容
伝送パラメータ設定	自局設定 IP アドレス	接続機器の IP アドレス

重 要 ・ コネクションパラメータ設定はブランクにしてください。
コネクションパラメータを設定すると通信できません。

- 6 設定内容を保存し、[Engineering Manager] を終了します。
- 7 通信モジュールのディップスイッチ「INIT」を ON して、電源を投入します。
- 8 設定内容を通信モジュールに書込みます。

重 要 ・ 設定を書込む際は「転送後にフラッシュ保存を実行」に必ずチェックを付けてください。
チェックを付けずに転送すると、接続機器を再起動した場合に転送したデータが消えてしまいます。

- 9 接続機器の電源を OFF し、INIT のディップスイッチを OFF してから接続機器の電源を再投入します。

◆ 注意事項

- ・ IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。

3.5 設定例 5

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト] メニューの [システム設定]-[接続機器設定] をクリックします。

重要

- ・ Σ -V シリーズを 1:n 接続する場合は送信ウェイトを 100ms 以上に設定する必要があります。

◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

通信設定は MP シリーズと Σ -V シリーズの両方で行います。

◆ MP シリーズの設定

通信設定はラダーソフト（MPE720）で行います。

通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 プロジェクトファイルを作成します。
- 3 ツリービューの [モジュール構成] をダブルクリックします。
[Engineering Manager] が起動します。
- 4 [モジュール構成定義の新規ファイル] ダイアログボックスの [OK] をクリックします。
- 5 [Engineering Manager] の [コントローラ] で MECHATROLINK 接続モジュールをプルダウンメニューから選択します。
モジュールが使用しているスロット番号に対応する番号で設定してください。
MECHATROLINK 接続モジュールを選択すると、[Engineering Manager] の [モジュール詳細] に設定内容が表示されます。
- 6 [モジュール詳細] の [回線番号] に「01」を入力します。
表示器の回線番号と同じ値を設定します。
- 7 [詳細] の [MECHATROLINK] をダブルクリックします。
- 8 [リンク割付] タブをクリックし、[ST#] の [01] を以下のように設定します。

設定項目	設定値
TYPE	使用する Σ -V シリーズの機種を選択します。

MEMO • 設定する [ST#] は Σ -V シリーズの局アドレスによって決まります。
局アドレスが 41H の場合、ST#01 を設定します。

- 9 [Engineering Manager] の [コントローラ] で CPU を選択します。
- 10 [モジュール詳細] で通信モジュールの No. をダブルクリックします。
- 11 [伝送パラメータ設定] を以下のように設定します。

設定項目	設定値
IP アドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0

- 12 [ファイル] メニューから [保存] を選択して設定内容を保存し、[Engineering Manager] を終了します。

13 設定内容を MP シリーズに書込みます。

重 要

- 設定を書込む際は「転送後にフラッシュ保存を実行」に必ずチェックを付けてください。
チェックを付けずに転送すると、接続機器を再起動した場合に転送したデータが消えてしまいます。

◆ Σ-V シリーズの設定

通信設定はディップスイッチ（SW2）とロータリースイッチ（SW1）で行います。例えば SW2-3 が OFF、SW1 が 1 の場合、局アドレスは 41H になります。

通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- ディップスイッチ（SW2）の設定

ディップスイッチ	設定値	設定内容
1	ON	通信速度：10Mbps(MECHATROLINK-II)
2	任意	データの転送サイズを設定します。 ON:32 バイトデータ転送 OFF:17 バイトデータ転送
3	OFF	ロータリースイッチ（SW1）との組み合わせで局番号を設定します。 ON: 局アドレスの十の位が 0x5 OFF: 局アドレスの十の位が 0x4
4	OFF	常時 OFF

- ロータリースイッチ（SW1）の設定

ディップスイッチ（SW2）の 3 番との組み合わせで局番号を設定します。

ロータリースイッチ	設定値	設定内容
SW1	1	局アドレスの一の位

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。

3.6 設定例 6

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト] メニューの [システム設定]-[接続機器設定] をクリックします。

重要

- ・ Σ -V シリーズを 1:n 接続する場合は送信ウェイトを 100ms 以上に設定する必要があります。

◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

通信設定は MP シリーズと Σ -V シリーズの両方で行います。

◆ MP シリーズの設定

通信設定はラダーソフト（MPE720）で行います。

通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 プロジェクトファイルを作成します。
- 3 ツリービューの [モジュール構成] をダブルクリックします。
[Engineering Manager] が起動します。
- 4 [モジュール構成定義の新規ファイル] ダイアログボックスの [OK] をクリックします。
- 5 [Engineering Manager] の [コントローラ] で MECHATROLINK 接続モジュールをプルダウンメニューから選択します。
モジュールが使用しているスロット番号に対応する番号で設定してください。
MECHATROLINK 接続モジュールを選択すると、[Engineering Manager] の [モジュール詳細] に設定内容が表示されます。
- 6 [モジュール詳細] の [回線番号] に「01」を入力します。
表示器の回線番号と同じ値を設定します。
- 7 [詳細] の [MECHATROLINK] をダブルクリックします。
- 8 [リンク割付] タブをクリックし、[ST#] の [01] を以下のように設定します。

設定項目	設定値
TYPE	使用する Σ -V シリーズの機種を選択します。

MEMO • 設定する [ST#] は Σ -V シリーズの局アドレスによって決まります。
局アドレスが 41H の場合、ST#01 を設定します。

- 9 [Engineering Manager] の [コントローラ] で CPU を選択します。
- 10 [モジュール詳細] で通信モジュールの No. をダブルクリックします。
- 11 [伝送パラメータ設定] を以下のように設定します。

設定項目	設定値
IP アドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0

- 12 [ファイル] メニューから [保存] を選択して設定内容を保存し、[Engineering Manager] を終了します。

13 設定内容を MP シリーズに書込みます。

重 要

- 設定を書込む際は「転送後にフラッシュ保存を実行」に必ずチェックを付けてください。
チェックを付けずに転送すると、接続機器を再起動した場合に転送したデータが消えてしまいます。

◆ Σ-V シリーズの設定

通信設定はディップスイッチ（SW2）とロータリースイッチ（SW1）で行います。例えば SW2-3 が OFF、SW1 が 1 の場合、局アドレスは 41H になります。

通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- ディップスイッチ（SW2）の設定

ディップスイッチ	設定値	設定内容
1	ON	通信速度：10Mbps(MECHATROLINK-II)
2	任意	データの転送サイズを設定します。 ON:32 バイトデータ転送 OFF:17 バイトデータ転送
3	OFF	ロータリースイッチ（SW1）との組み合わせで局番号を設定します。 ON: 局アドレスの十の位が 0x5 OFF: 局アドレスの十の位が 0x4
4	OFF	常時 OFF

- ロータリースイッチ（SW1）の設定

ディップスイッチ（SW2）の 3 番との組み合わせで局番号を設定します。

ロータリースイッチ	設定値	設定内容
SW1	1	局アドレスの一の位

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。

3.7 設定例 7

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト] メニューの [システム設定]-[接続機器設定] をクリックします。

重要

- ・ Σ -V シリーズを 1:n 接続する場合は送信ウェイトを 100ms 以上に設定する必要があります。

◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

通信設定は MP シリーズと Σ -V シリーズの両方で行います。

◆ MP シリーズの設定

通信設定はラダーソフト（MPE720）で行います。

通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 プロジェクトファイルを作成します。
- 3 ツリービューの [モジュール構成] をダブルクリックします。
[Engineering Manager] が起動します。
- 4 [モジュール構成定義の新規ファイル] ダイアログボックスの [OK] をクリックします。
- 5 [Engineering Manager] の [コントローラ] で MECHATROLINK 接続モジュールをプルダウンメニューから選択します。
モジュールが使用しているスロット番号に対応する番号で設定してください。
MECHATROLINK 接続モジュールを選択すると、[Engineering Manager] の [モジュール詳細] に設定内容が表示されます。
- 6 [モジュール詳細] の [回線番号] に「01」を入力します。
表示器の回線番号と同じ値を設定します。
- 7 [詳細] の [MECHATROLINK] をダブルクリックします。
- 8 [リンク割付] タブをクリックし、[ST#] の [01] を以下のように設定します。

設定項目	設定値
ADR	03H
ExADR	00
VENDOR	Yaskawa Electric co.
DEVICE	Σ -V シリーズの機種

MEMO ・ [PROFILE]、[BYTE]、[SCAN] は自動的に設定されます。

- 9 [Engineering Manager] の [コントローラ] で CPU を選択します。
- 10 [モジュール詳細] で通信モジュールの No. をダブルクリックします。
- 11 [伝送パラメータ設定] を以下のように設定します。

設定項目	設定値
IP アドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0

- 12 [ファイル] メニューから [保存] を選択して設定内容を保存し、[Engineering Manager] を終了します。

13 設定内容を MP シリーズに書込みます。

重 要

- 設定を書込む際は「転送後にフラッシュ保存を実行」には必ずチェックを付けてください。
チェックを付けずに転送すると、接続機器を再起動した場合に転送したデータが消えてしまいます。

◆Σ-V シリーズの設定

通信設定はロータリースイッチ（S1 と S2）で行います。

通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

ロータリー スイッチ	設定値	設定内容
S1 (×16)	0	局アドレス
S2 (×1)	3	

◆注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。

3.8 設定例 8

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト] メニューの [システム設定]-[接続機器設定] をクリックします。

重要

- ・ Σ -V シリーズを 1:n 接続する場合は送信ウェイトを 100ms 以上に設定する必要があります。

◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

通信設定は MP シリーズと Σ -V シリーズの両方で行います。

◆ MP シリーズの設定

通信設定はラダーソフト（MPE720）で行います。

通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 プロジェクトファイルを作成します。
- 3 ツリービューの [モジュール構成] をダブルクリックします。
[Engineering Manager] が起動します。
- 4 [モジュール構成定義の新規ファイル] ダイアログボックスの [OK] をクリックします。
- 5 [Engineering Manager] の [コントローラ] で MECHATROLINK 接続モジュールをプルダウンメニューから選択します。
モジュールが使用しているスロット番号に対応する番号で設定してください。
MECHATROLINK 接続モジュールを選択すると、[Engineering Manager] の [モジュール詳細] に設定内容が表示されます。
- 6 [モジュール詳細] の [回線番号] に「01」を入力します。
表示器の回線番号と同じ値を設定します。
- 7 [詳細] の [MECHATROLINK] をダブルクリックします。
- 8 [リンク割付] タブをクリックし、[ST#] の [01] を以下のように設定します。

設定項目	設定値
ADR	03H
ExADR	00
VENDOR	Yaskawa Electric co.
DEVICE	Σ -V シリーズの機種

MEMO ・ [PROFILE]、[BYTE]、[SCAN] は自動的に設定されます。

- 9 [Engineering Manager] の [コントローラ] で CPU を選択します。
- 10 [モジュール詳細] で通信モジュールの No. をダブルクリックします。
- 11 [伝送パラメータ設定] を以下のように設定します。

設定項目	設定値
IP アドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0

- 12 [ファイル] メニューから [保存] を選択して設定内容を保存し、[Engineering Manager] を終了します。

13 設定内容を MP シリーズに書込みます。

重 要

- 設定を書込む際は「転送後にフラッシュ保存を実行」には必ずチェックを付けてください。
チェックを付けずに転送すると、接続機器を再起動した場合に転送したデータが消えてしまいます。

◆Σ-V シリーズの設定

通信設定はロータリースイッチ（S1 と S2）で行います。

通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

ロータリー スイッチ	設定値	設定内容
S1 (×16)	0	局アドレス
S2 (×1)	3	

◆注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。

3.9 設定例 9

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト] メニューの [システム設定]-[接続機器設定] をクリックします。

◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

通信設定はラダーソフト（MP720 Ver.7）で行います。

通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 プロジェクトファイルを作成します。
- 3 [モジュール構成] をクリックして [MC-Configurator] を起動します。
- 4 使用する CPU の [218IFD] をダブルクリックします。
- 5 [パラメータ設定] タブをクリックします。
- 6 「伝送パラメータ設定」の「IP アドレス」と「サブネットマスク」を設定します。

設定項目	設定値
IP アドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0

- 7 設定内容を接続機器に書込みます。
- 8 接続機器の電源を再投入します。

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。

3.10 設定例 10

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト] メニューの [システム設定]-[接続機器設定] をクリックします。

◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

◆ 設定手順

- 1 アップキーを押してセットアップモード画面を表示します。ENTER キーを押してセットアップモードへ移行します。
- 2 アップキーを押して設定項目を表示します。ENTER キーを押して設定画面へ移行します。
- 3 アップキーおよび RESET キーを押して設定値を選択します。ENTER キーを押して設定内容を確認します。

◆ 設定内容

設定項目	設定値	内容
b1-02 ^{*1}	3	運転指令選択（オプションカード）
F6-20	21	MECHATROLINK 局アドレス
F6-22	0	MECHATROLINK リンク速度（10Mbps）

*1 MECHATROLINK 経由で周波数を設定する場合は b1-01 に 3 を設定します。

3.11 設定例 11

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト] メニューの [システム設定]-[接続機器設定] をクリックします。

◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

◆ 設定手順

- 1 アップキーを押してセットアップモード画面を表示します。ENTER キーを押してセットアップモードへ移行します。
- 2 アップキーを押して設定項目を表示します。ENTER キーを押して設定画面へ移行します。
- 3 アップキーおよび RESET キーを押して設定値を選択します。ENTER キーを押して設定内容を確認します。

◆ 設定内容

設定項目	設定値	内容
b1-02 ^{*1}	3	運転指令選択（オプションカード）
F6-20	21	MECHATROLINK 局アドレス
F6-22	0	MECHATROLINK リンク速度（10Mbps）

*1 MECHATROLINK 経由で周波数を設定する場合は b1-01 に 3 を設定します。

3.12 設定例 12

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト] メニューの [システム設定]-[接続機器設定] をクリックします。

◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

通信設定はラダーソフト（MP720 Ver.7）で行います。

通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 プロジェクトファイルを作成します。[機種] からメイン CPU の機種を選択します。
- 3 ツリービューの [モジュール構成] をダブルクリックします。
[MC-Configurator] が起動します。
- 4 使用する CPU の [218IFD] をダブルクリックします。
- 5 [パラメータ設定] タブをクリックします。
- 6 「伝送パラメータ設定」の「IP アドレス」と「サブネットマスク」を設定します。

設定項目	設定値
IP アドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0

- 7 [MC-Configurator] で MPU-01 を装着しているオプションスロットに対応しているモジュール番号をダブルクリックします。
- 8 [モジュール] ダイアログボックスで [MPU-01] を選択し、[OK] をクリックします。
- 9 [MC-Configurator] に表示された MPU-01 の回線を「3」に設定します。
表示器で設定した回線番号と同じ値を設定します。
- 10 設定内容を接続機器に書込みます。

重要

- ・ 設定を書込む際は「転送後にフラッシュ保存を実行」には必ずチェックを付けてください。
チェックを付けずに転送すると、接続機器を再起動した場合に転送したデータが消えてしまいます。

◆ 注意事項

- ・ IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。

3.13 設定例 13

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト] メニューの [システム設定]-[接続機器設定] をクリックします。

◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

通信設定はラダーソフト（MP720 Ver.7）で行います。次の内容を設定します。

- (1) メイン CPU の設定
- (2) MPU-01 の設定
- (3) Σ -V シリーズの設定

通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

◆ メイン CPU の設定

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 プロジェクトファイルを作成します。[機種] からメイン CPU の機種を選択します。
- 3 ツリービューの [モジュール構成] をダブルクリックします。
[MC-Configurator] が起動します。
- 4 使用する CPU の [218IFD] をダブルクリックします。
- 5 [パラメータ設定] タブをクリックします。
- 6 「伝送パラメータ設定」の「IP アドレス」と「サブネットマスク」を設定します。

設定項目	設定値
IP アドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0

- 7 [MC-Configurator] で MPU-01 を装着しているオプションスロットに対応しているモジュール番号をダブルクリックします。
- 8 [モジュール] ダイアログボックスで [MPU-01] を選択し、[OK] をクリックします。
- 9 [MC-Configurator] に表示された MPU-01 の回線を「3」に設定します。
表示器で設定した回線番号と同じ値を設定します。
- 10 設定内容をメイン CPU に書込みます。

重要

- ・ 設定を書込む際は「転送後にフラッシュ保存を実行」には必ずチェックを付けてください。
チェックを付けずに転送すると、接続機器を再起動した場合に転送したデータが消えてしまいます。

◆ MPU-01 の設定

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 プロジェクトファイルを作成します。[機種] から「MPU-01」を選択します。
- 3 ツリービューの [モジュール構成] をダブルクリックします。
[MC-Configurator] が起動します。
- 4 [MPU-01] モジュールの [SVC] を展開し、[01 UNDEFINED] をダブルクリックします。
- 5 [スレーブ] ダイアログボックスで使用している Σ -V シリーズを選択し、[OK] をクリックします。
- 6 [SVC] の回線番号を「1」に設定します。
- 7 追加した Σ -V シリーズの局アドレスを「3」に設定します。

8 設定内容を MPU-01 シリーズに書込みます。

重 要

- 設定を書込む際は「転送後にフラッシュ保存を実行」には必ずチェックを付けてください。
チェックを付けずに転送すると、接続機器を再起動した場合に転送したデータが消えてしまいます。

◆Σ-V シリーズの設定

通信設定はロータリースイッチ（S1 と S2）で行います。

通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

ロータリー スイッチ	設定値	設定内容
S1 (×16)	0	局アドレス
S2 (×1)	3	

◆注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。

3.14 設定例 14

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト] メニューの [システム設定]-[接続機器設定] をクリックします。

◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

通信設定はラダーソフト（MP720 Ver.7）で行います。次の内容を設定します。

- (1) メイン CPU の設定
- (2) MPU-01 の設定
- (3) Σ -V シリーズの設定

通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

◆ メイン CPU の設定

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 プロジェクトファイルを作成します。[機種] からメイン CPU の機種を選択します。
- 3 ツリービューの [モジュール構成] をダブルクリックします。
[MC-Configurator] が起動します。
- 4 使用する CPU の [218IFD] をダブルクリックします。
- 5 [パラメータ設定] タブをクリックします。
- 6 「伝送パラメータ設定」の「IP アドレス」と「サブネットマスク」を設定します。

設定項目	設定値
IP アドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0

- 7 [MC-Configurator] で MPU-01 を装着しているオプションスロットに対応しているモジュール番号をダブルクリックします。
- 8 [モジュール] ダイアログボックスで [MPU-01] を選択し、[OK] をクリックします。
- 9 [MC-Configurator] に表示された MPU-01 の回線を「3」に設定します。
表示器で設定した回線番号と同じ値を設定します。
- 10 設定内容をメイン CPU に書込みます。

重要

- ・ 設定を書込む際は「転送後にフラッシュ保存を実行」には必ずチェックを付けてください。
チェックを付けずに転送すると、接続機器を再起動した場合に転送したデータが消えてしまいます。

◆ MPU-01 の設定

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 プロジェクトファイルを作成します。[機種] から「MPU-01」を選択します。
- 3 ツリービューの [モジュール構成] をダブルクリックします。
[MC-Configurator] が起動します。
- 4 [MPU-01] モジュールの [SVC] を展開し、[01 UNDEFINED] をダブルクリックします。
- 5 [スレーブ] ダイアログボックスで使用している Σ -V シリーズを選択し、[OK] をクリックします。
- 6 [SVC] の回線番号を「1」に設定します。
- 7 追加した Σ -V シリーズの局アドレスを「3」に設定します。

8 設定内容を MPU-01 シリーズに書込みます。

重 要

- 設定を書込む際は「転送後にフラッシュ保存を実行」には必ずチェックを付けてください。
チェックを付けずに転送すると、接続機器を再起動した場合に転送したデータが消えてしまいます。

◆Σ-V シリーズの設定

通信設定はロータリースイッチ（S1 と S2）で行います。

通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

ロータリー スイッチ	設定値	設定内容
S1 (×16)	0	局アドレス
S2 (×1)	3	

◆注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。

3.15 設定例 15

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト] メニューの [システム設定]-[接続機器設定] をクリックします。

◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

通信設定はラダーソフト（MP720 Ver.7）で行います。

通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 プロジェクトファイルを作成します。[機種] からメイン CPU の機種を選択します。
- 3 ツリービューの [モジュール構成] をダブルクリックします。
[MC-Configurator] が起動します。
- 4 使用する CPU の [218IFD] をダブルクリックします。
- 5 [パラメータ設定] タブをクリックします。
- 6 「伝送パラメータ設定」の「IP アドレス」と「サブネットマスク」を設定します。

設定項目	設定値
IP アドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0

- 7 [MC-Configurator] でサブ CPU を装着しているモジュール番号をダブルクリックします。
- 8 [モジュール] ダイアログボックスで使用するサブ CPU を選択し、[OK] をクリックします。
- 9 [MC-Configurator] に表示されたサブ CPU の回線を「5」に設定します。
表示器で設定した回線番号と同じ値を設定します。
- 10 設定内容を接続機器に書込みます。

重要

- 設定を書込む際は「転送後にフラッシュ保存を実行」には必ずチェックを付けてください。
チェックを付けずに転送すると、接続機器を再起動した場合に転送したデータが消えてしまいます。

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。

3.16 設定例 16

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト] メニューの [システム設定]-[接続機器設定] をクリックします。

接続機器1

概要

メーカー (株)安川電機 シリーズ MP Ethernet/メカトロリンク ポート イーサネット(UDP)

文字列データモード 1 変更

通信設定

ポート番号 1024 自動割当 ☒

タイムアウト 3 (sec)

リトライ 2

送信ウェイト 0 (ms) 初期設定

機器別設定

接続可能台数 32台 機器を追加 接続可能台数の拡張

No	機器名	設定
1	PLC1	シリーズ=Σ-Vシリーズ回転形モータ(M-III) IPアドレス=

間接機器 追加

◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。

個別機器設定

PLC1

製品 サーボ

シリーズ Σ-Vシリーズ回転形モータ(M-III)

製品またはシリーズを変更した場合は、すでに使用されているアドレスを再確認してください。

局アドレス(サーボ) 3

中継コントローラ設定

IPアドレス 192.168.0.1

デバイス種別 回線番号

1 Sub CPU 5

2 MECHATROLINK 1

初期設定

OK(O) キャンセル

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

通信設定はラダーソフト（MP720 Ver.7）で行います。次の内容を設定します。

- (1) メイン CPU の設定
- (2) サブ CPU の設定
- (3) Σ -V シリーズの設定

通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

◆ メイン CPU の設定

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 プロジェクトファイルを作成します。[機種] からメイン CPU の機種を選択します。
- 3 ツリービューの [モジュール構成] をダブルクリックします。
[MC-Configurator] が起動します。
- 4 使用する CPU の [218IFD] をダブルクリックします。
- 5 [パラメータ設定] タブをクリックします。
- 6 「伝送パラメータ設定」の「IP アドレス」と「サブネットマスク」を設定します。

設定項目	設定値
IP アドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0

- 7 [MC-Configurator] でサブ CPU を装着しているモジュール番号をダブルクリックします。
- 8 [モジュール] ダイアログボックスで使用するサブ CPU を選択し、[OK] をクリックします。
- 9 [MC-Configurator] に表示されたサブ CPU の回線を「5」に設定します。
表示器で設定した回線番号と同じ値を設定します。
- 10 設定内容をメイン CPU に書込みます。

重 要 ・ 設定を書込む際は「転送後にフラッシュ保存を実行」には必ずチェックを付けてください。
チェックを付けずに転送すると、接続機器を再起動した場合に転送したデータが消えてしまいます。

◆ サブ CPU の設定

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 プロジェクトファイルを作成します。[機種] から使用するサブ CPU を選択します。
- 3 ツリービューの [モジュール構成] をダブルクリックします。
[MC-Configurator] が起動します。
- 4 サブ CPU の [SVC] を展開し、[01 UNDEFINED] をダブルクリックします。
- 5 [スレーブ] ダイアログボックスで使用している Σ -V シリーズを選択し、[OK] をクリックします。
- 6 [SVC] の回線番号を「1」に設定します。
- 7 追加した Σ -V シリーズの局アドレスを「3」に設定します。

8 設定内容をサブ CPU に書込みます。

重 要

- 設定を書込む際は「転送後にフラッシュ保存を実行」には必ずチェックを付けてください。
チェックを付けずに転送すると、接続機器を再起動した場合に転送したデータが消えてしまいます。

◆Σ-V シリーズの設定

通信設定はロータリースイッチ（S1 と S2）で行います。

通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

ロータリー スイッチ	設定値	設定内容
S1 (×16)	0	局アドレス
S2 (×1)	3	

◆注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。

3.17 設定例 17

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト] メニューの [システム設定]-[接続機器設定] をクリックします。

◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

通信設定はラダーソフト（MP720 Ver.7）で行います。次の内容を設定します。

- (1) メイン CPU の設定
- (2) サブ CPU の設定
- (3) Σ -V シリーズの設定

通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

◆ メイン CPU の設定

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 プロジェクトファイルを作成します。[機種] からメイン CPU の機種を選択します。
- 3 ツリービューの [モジュール構成] をダブルクリックします。
[MC-Configurator] が起動します。
- 4 使用する CPU の [218IFD] をダブルクリックします。
- 5 [パラメータ設定] タブをクリックします。
- 6 「伝送パラメータ設定」の「IP アドレス」と「サブネットマスク」を設定します。

設定項目	設定値
IP アドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0

- 7 [MC-Configurator] でサブ CPU を装着しているモジュール番号をダブルクリックします。
- 8 [モジュール] ダイアログボックスで使用するサブ CPU を選択し、[OK] をクリックします。
- 9 [MC-Configurator] に表示されたサブ CPU の回線を「5」に設定します。
表示器で設定した回線番号と同じ値を設定します。
- 10 設定内容をメイン CPU に書込みます。

重 要 ・ 設定を書込む際は「転送後にフラッシュ保存を実行」には必ずチェックを付けてください。
チェックを付けずに転送すると、接続機器を再起動した場合に転送したデータが消えてしまいます。

◆ サブ CPU の設定

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 プロジェクトファイルを作成します。[機種] から使用するサブ CPU を選択します。
- 3 ツリービューの [モジュール構成] をダブルクリックします。
[MC-Configurator] が起動します。
- 4 サブ CPU の [SVC] を展開し、[01 UNDEFINED] をダブルクリックします。
- 5 [スレーブ] ダイアログボックスで使用している Σ -V シリーズを選択し、[OK] をクリックします。
- 6 [SVC] の回線番号を「1」に設定します。
- 7 追加した Σ -V シリーズの局アドレスを「3」に設定します。

8 設定内容をサブ CPU に書込みます。

重 要

- 設定を書込む際は「転送後にフラッシュ保存を実行」には必ずチェックを付けてください。
チェックを付けずに転送すると、接続機器を再起動した場合に転送したデータが消えてしまいます。

◆Σ-V シリーズの設定

通信設定はロータリースイッチ（S1 と S2）で行います。

通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

ロータリー スイッチ	設定値	設定内容
S1 (×16)	0	局アドレス
S2 (×1)	3	

◆注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。

3.18 設定例 18

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト] メニューの [システム設定]-[接続機器設定] をクリックします。

重要

- ・ Σ -7 シリーズを 1:n 接続する場合は送信ウェイトを 100ms 以上に設定する必要があります。

◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

通信設定は MP シリーズと Σ -7 シリーズの両方で行います。

◆ MP シリーズの設定

通信設定はラダーソフト（MPE720）で行います。

通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 プロジェクトファイルを作成します。
- 3 ツリービューの [モジュール構成] をダブルクリックします。
[Engineering Manager] が起動します。
- 4 [モジュール構成定義の新規ファイル] ダイアログボックスの [OK] をクリックします。
- 5 [Engineering Manager] の [コントローラ] で MECHATROLINK 接続モジュールをプルダウンメニューから選択します。
モジュールが使用しているスロット番号に対応する番号で設定してください。
MECHATROLINK 接続モジュールを選択すると、[Engineering Manager] の [モジュール詳細] に設定内容が表示されます。
- 6 [モジュール詳細] の [回線番号] に「01」を入力します。
表示器の回線番号と同じ値を設定します。
- 7 [詳細] の [MECHATROLINK] をダブルクリックします。
- 8 [リンク割付] タブをクリックし、[ST#] の [01] を以下のように設定します。

設定項目	設定値
TYPE	使用する Σ -7 シリーズの機種を選択します。

MEMO • 設定する [ST#] は Σ -7 シリーズの局アドレスによって決まります。
局アドレスが 41H の場合、ST#01 を設定します。

- 9 [Engineering Manager] の [コントローラ] で CPU を選択します。
- 10 [モジュール詳細] で通信モジュールの No. をダブルクリックします。
- 11 [伝送パラメータ設定] を以下のように設定します。

設定項目	設定値
IP アドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0

- 12 [ファイル] メニューから [保存] を選択して設定内容を保存し、[Engineering Manager] を終了します。

13 設定内容を MP シリーズに書込みます。

重 要

- 設定を書込む際は「転送後にフラッシュ保存を実行」に必ずチェックを付けてください。
チェックを付けずに転送すると、接続機器を再起動した場合に転送したデータが消えてしまいます。

◆Σ-7 シリーズの設定

通信設定はディップスイッチ（SW2）とロータリースイッチ（SW1）で行います。例えば SW2-3 が OFF、SW1 が 1 の場合、局アドレスは 41H になります。

通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- ディップスイッチ（SW2）の設定

ディップスイッチ	設定値	設定内容
1	ON	通信速度：10Mbps(MECHATROLINK-II)
2	任意	データの転送サイズを設定します。 ON:32 バイトデータ転送 OFF:17 バイトデータ転送
3	OFF	ロータリースイッチ（SW1）との組み合わせで局番号を設定します。 ON: 局アドレスの十の位が 0x5 OFF: 局アドレスの十の位が 0x4
4	OFF	常時 OFF

- ロータリースイッチ（SW1）の設定

ディップスイッチ（SW2）の 3 番との組み合わせで局番号を設定します。

ロータリー スイッチ	設定値	設定内容
SW1	1	局アドレスの一の位

◆注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。

3.19 設定例 19

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト] メニューの [システム設定]-[接続機器設定] をクリックします。

重要

- ・ Σ -7 シリーズを 1:n 接続する場合は送信ウェイトを 100ms 以上に設定する必要があります。

◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

通信設定は MP シリーズと Σ -7 シリーズの両方で行います。

◆ MP シリーズの設定

通信設定はラダーソフト（MPE720）で行います。

通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 プロジェクトファイルを作成します。
- 3 ツリービューの [モジュール構成] をダブルクリックします。
[Engineering Manager] が起動します。
- 4 [モジュール構成定義の新規ファイル] ダイアログボックスの [OK] をクリックします。
- 5 [Engineering Manager] の [コントローラ] で MECHATROLINK 接続モジュールをプルダウンメニューから選択します。
モジュールが使用しているスロット番号に対応する番号で設定してください。
MECHATROLINK 接続モジュールを選択すると、[Engineering Manager] の [モジュール詳細] に設定内容が表示されます。
- 6 [モジュール詳細] の [回線番号] に「01」を入力します。
表示器の回線番号と同じ値を設定します。
- 7 [詳細] の [MECHATROLINK] をダブルクリックします。
- 8 [リンク割付] タブをクリックし、[ST#] の [01] を以下のように設定します。

設定項目	設定値
ADR	03H
ExADR	00
VENDOR	Yaskawa Electric co.
DEVICE	Σ -7 シリーズの機種

MEMO ・ [PROFILE]、[BYTE]、[SCAN] は自動的に設定されます。

- 9 [Engineering Manager] の [コントローラ] で CPU を選択します。
- 10 [モジュール詳細] で通信モジュールの No. をダブルクリックします。
- 11 [伝送パラメータ設定] を以下のように設定します。

設定項目	設定値
IP アドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0

- 12 [ファイル] メニューから [保存] を選択して設定内容を保存し、[Engineering Manager] を終了します。

13 設定内容を MP シリーズに書込みます。

重 要

- 設定を書込む際は「転送後にフラッシュ保存を実行」には必ずチェックを付けてください。
チェックを付けずに転送すると、接続機器を再起動した場合に転送したデータが消えてしまいます。

◆Σ-7 シリーズの設定

通信設定はロータリースイッチ（S1 と S2）で行います。

通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

ロータリー スイッチ	設定値	設定内容
S1 (×16)	0	局アドレス
S2 (×1)	3	

◆注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。

3.20 設定例 20

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト] メニューの [システム設定]-[接続機器設定] をクリックします。

◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

通信設定はラダーソフト（MP720 Ver.7）で行います。次の内容を設定します。

- (1) メイン CPU の設定
- (2) MPU-01 の設定
- (3) Σ -7 シリーズの設定

通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

◆ メイン CPU の設定

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 プロジェクトファイルを作成します。[機種] からメイン CPU の機種を選択します。
- 3 ツリービューの [モジュール構成] をダブルクリックします。
[MC-Configurator] が起動します。
- 4 使用する CPU の [218IFD] をダブルクリックします。
- 5 [パラメータ設定] タブをクリックします。
- 6 「伝送パラメータ設定」の「IP アドレス」と「サブネットマスク」を設定します。

設定項目	設定値
IP アドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0

- 7 [MC-Configurator] で MPU-01 を装着しているオプションスロットに対応しているモジュール番号をダブルクリックします。
- 8 [モジュール] ダイアログボックスで [MPU-01] を選択し、[OK] をクリックします。
- 9 [MC-Configurator] に表示された MPU-01 の回線を「3」に設定します。
表示器で設定した回線番号と同じ値を設定します。
- 10 設定内容をメイン CPU に書込みます。

重要 ・ 設定を書込む際は「転送後にフラッシュ保存を実行」には必ずチェックを付けてください。
チェックを付けずに転送すると、接続機器を再起動した場合に転送したデータが消えてしまいます。

◆ MPU-01 の設定

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 プロジェクトファイルを作成します。[機種] から「MPU-01」を選択します。
- 3 ツリービューの [モジュール構成] をダブルクリックします。
[MC-Configurator] が起動します。
- 4 [MPU-01] モジュールの [SVC] を展開し、[01 UNDEFINED] をダブルクリックします。
- 5 [スレーブ] ダイアログボックスで使用している Σ -7 シリーズを選択し、[OK] をクリックします。
- 6 [SVC] の回線番号を「1」に設定します。
- 7 追加した Σ -7 シリーズの局アドレスを「3」に設定します。

8 設定内容を MPU-01 シリーズに書込みます。

重 要

- 設定を書込む際は「転送後にフラッシュ保存を実行」には必ずチェックを付けてください。
チェックを付けずに転送すると、接続機器を再起動した場合に転送したデータが消えてしまいます。

◆Σ-7 シリーズの設定

通信設定はロータリースイッチ（S1 と S2）で行います。

通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

ロータリー スイッチ	設定値	設定内容
S1 (×16)	0	局アドレス
S2 (×1)	3	

◆注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。

3.21 設定例 21

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト] メニューの [システム設定]-[接続機器設定] をクリックします。

◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

通信設定はラダーソフト（MP720 Ver.7）で行います。次の内容を設定します。

- (1) メイン CPU の設定
- (2) サブ CPU の設定
- (3) Σ -7 シリーズの設定

通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

◆ メイン CPU の設定

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 プロジェクトファイルを作成します。[機種] からメイン CPU の機種を選択します。
- 3 ツリービューの [モジュール構成] をダブルクリックします。
[MC-Configurator] が起動します。
- 4 使用する CPU の [218IFD] をダブルクリックします。
- 5 [パラメータ設定] タブをクリックします。
- 6 「伝送パラメータ設定」の「IP アドレス」と「サブネットマスク」を設定します。

設定項目	設定値
IP アドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0

- 7 [MC-Configurator] でサブ CPU を装着しているモジュール番号をダブルクリックします。
- 8 [モジュール] ダイアログボックスで使用するサブ CPU を選択し、[OK] をクリックします。
- 9 [MC-Configurator] に表示されたサブ CPU の回線を「5」に設定します。
表示器で設定した回線番号と同じ値を設定します。
- 10 設定内容をメイン CPU に書込みます。

重要

- ・ 設定を書込む際は「転送後にフラッシュ保存を実行」には必ずチェックを付けてください。
チェックを付けずに転送すると、接続機器を再起動した場合に転送したデータが消えてしまいます。

◆ サブ CPU の設定

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 プロジェクトファイルを作成します。[機種] から使用するサブ CPU を選択します。
- 3 ツリービューの [モジュール構成] をダブルクリックします。
[MC-Configurator] が起動します。
- 4 サブ CPU の [SVC] を展開し、[01 UNDEFINED] をダブルクリックします。
- 5 [スレーブ] ダイアログボックスで使用している Σ -7 シリーズを選択し、[OK] をクリックします。
- 6 [SVC] の回線番号を「1」に設定します。
- 7 追加した Σ -7 シリーズの局アドレスを「3」に設定します。

8 設定内容をサブ CPU に書込みます。

重 要

- 設定を書込む際は「転送後にフラッシュ保存を実行」には必ずチェックを付けてください。
チェックを付けずに転送すると、接続機器を再起動した場合に転送したデータが消えてしまいます。

◆Σ-7 シリーズの設定

通信設定はロータリースイッチ（S1 と S2）で行います。

通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

ロータリー スイッチ	設定値	設定内容
S1 (×16)	0	局アドレス
S2 (×1)	3	

◆注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。

3.22 設定例 22

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト] メニューの [システム設定]-[接続機器設定] をクリックします。

重要

- ・ Σ -7 シリーズを 1:n 接続する場合は送信ウェイトを 100ms 以上に設定する必要があります。

◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

通信設定は MP シリーズと Σ -7 シリーズの両方で行います。

◆ MP シリーズの設定

通信設定はラダーソフト（MPE720）で行います。

通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 プロジェクトファイルを作成します。
- 3 ツリービューの [モジュール構成] をダブルクリックします。
[Engineering Manager] が起動します。
- 4 [モジュール構成定義の新規ファイル] ダイアログボックスの [OK] をクリックします。
- 5 [Engineering Manager] の [コントローラ] で MECHATROLINK 接続モジュールをプルダウンメニューから選択します。
モジュールが使用しているスロット番号に対応する番号で設定してください。
MECHATROLINK 接続モジュールを選択すると、[Engineering Manager] の [モジュール詳細] に設定内容が表示されます。
- 6 [モジュール詳細] の [回線番号] に「01」を入力します。
表示器の回線番号と同じ値を設定します。
- 7 [詳細] の [MECHATROLINK] をダブルクリックします。
- 8 [リンク割付] タブをクリックし、[ST#] の [01] を以下のように設定します。

設定項目	設定値
ADR	03H
ExADR	00
VENDOR	Yaskawa Electric co.
DEVICE	Σ -7 シリーズの機種

MEMO ・ [PROFILE]、[BYTE]、[SCAN] は自動的に設定されます。

- 9 [Engineering Manager] の [コントローラ] で CPU を選択します。
- 10 [モジュール詳細] で通信モジュールの No. をダブルクリックします。
- 11 [伝送パラメータ設定] を以下のように設定します。

設定項目	設定値
IP アドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0

- 12 [ファイル] メニューから [保存] を選択して設定内容を保存し、[Engineering Manager] を終了します。

13 設定内容を MP シリーズに書込みます。

重 要

- 設定を書込む際は「転送後にフラッシュ保存を実行」には必ずチェックを付けてください。
チェックを付けずに転送すると、接続機器を再起動した場合に転送したデータが消えてしまいます。

◆Σ-7 シリーズの設定

通信設定はロータリースイッチ（S1 と S2）で行います。

通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

ロータリー スイッチ	設定値	設定内容
S1 (×16)	0	局アドレス
S2 (×1)	3	

◆注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。

3.23 設定例 23

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト] メニューの [システム設定]-[接続機器設定] をクリックします。

接続機器1

概要 [接続機器変更](#)

メーカー (株)安川電機 シリーズ MP Ethernet/メカトロリンク ポート イーサネット(UDP)

文字列データモード 1 [変更](#)

通信設定

ポート番号 1024 ☒ 自動割当

タイムアウト 3 (sec)

リトライ 2

送信ウェイト 0 (ms) [初期設定](#)

機器別設定

接続可能台数 32台 [機器を追加](#) [接続可能台数の拡張](#)

No	機器名	設定
1	PLC1	シリーズ=Σ-7WSシリーズサーボパック(M-III),IPアドレス=

[間接機器追加](#)

◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。

個別機器設定

PLC1

製品 サーボ

シリーズ Σ-7WSシリーズサーボパック(M-III)

製品またはシリーズを変更した場合は、すでに使用されているアドレスを再確認してください。

局アドレス(サーボ) 3 軸番号 1

中継コントローラ設定

IPアドレス 192.168.0.1

デバイス種別 回線番号

1 MPU-01 3

2 MECHATROLINK 1

[初期設定](#)

[OK\(O\)](#) [キャンセル](#)

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

通信設定はラダーソフト（MP720 Ver.7）で行います。次の内容を設定します。

- (1) メイン CPU の設定
- (2) MPU-01 の設定
- (3) Σ -7 シリーズの設定

通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

◆ メイン CPU の設定

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 プロジェクトファイルを作成します。[機種] からメイン CPU の機種を選択します。
- 3 ツリービューの [モジュール構成] をダブルクリックします。
[MC-Configurator] が起動します。
- 4 使用する CPU の [218IFD] をダブルクリックします。
- 5 [パラメータ設定] タブをクリックします。
- 6 「伝送パラメータ設定」の「IP アドレス」と「サブネットマスク」を設定します。

設定項目	設定値
IP アドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0

- 7 [MC-Configurator] で MPU-01 を装着しているオプションスロットに対応しているモジュール番号をダブルクリックします。
- 8 [モジュール] ダイアログボックスで [MPU-01] を選択し、[OK] をクリックします。
- 9 [MC-Configurator] に表示された MPU-01 の回線を「3」に設定します。
表示器で設定した回線番号と同じ値を設定します。
- 10 設定内容をメイン CPU に書込みます。

重要

- ・ 設定を書込む際は「転送後にフラッシュ保存を実行」には必ずチェックを付けてください。
チェックを付けずに転送すると、接続機器を再起動した場合に転送したデータが消えてしまいます。

◆ MPU-01 の設定

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 プロジェクトファイルを作成します。[機種] から「MPU-01」を選択します。
- 3 ツリービューの [モジュール構成] をダブルクリックします。
[MC-Configurator] が起動します。
- 4 [MPU-01] モジュールの [SVC] を展開し、[01 UNDEFINED] をダブルクリックします。
- 5 [スレーブ] ダイアログボックスで使用している Σ -7 シリーズを選択し、[OK] をクリックします。
- 6 [SVC] の回線番号を「1」に設定します。
- 7 追加した Σ -7 シリーズの局アドレスを「3」に設定します。

8 設定内容を MPU-01 シリーズに書込みます。

重 要

- 設定を書込む際は「転送後にフラッシュ保存を実行」には必ずチェックを付けてください。
チェックを付けずに転送すると、接続機器を再起動した場合に転送したデータが消えてしまいます。

◆Σ-7 シリーズの設定

通信設定はロータリースイッチ（S1 と S2）で行います。

通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

ロータリー スイッチ	設定値	設定内容
S1 (×16)	0	局アドレス
S2 (×1)	3	

◆注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。

3.24 設定例 24

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト] メニューの [システム設定]-[接続機器設定] をクリックします。

◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

通信設定はラダーソフト（MP720 Ver.7）で行います。次の内容を設定します。

- (1) メイン CPU の設定
- (2) サブ CPU の設定
- (3) Σ -7 シリーズの設定

通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

◆ メイン CPU の設定

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 プロジェクトファイルを作成します。[機種] からメイン CPU の機種を選択します。
- 3 ツリービューの [モジュール構成] をダブルクリックします。
[MC-Configurator] が起動します。
- 4 使用する CPU の [218IFD] をダブルクリックします。
- 5 [パラメータ設定] タブをクリックします。
- 6 「伝送パラメータ設定」の「IP アドレス」と「サブネットマスク」を設定します。

設定項目	設定値
IP アドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0

- 7 [MC-Configurator] でサブ CPU を装着しているモジュール番号をダブルクリックします。
- 8 [モジュール] ダイアログボックスで使用するサブ CPU を選択し、[OK] をクリックします。
- 9 [MC-Configurator] に表示されたサブ CPU の回線を「5」に設定します。
表示器で設定した回線番号と同じ値を設定します。
- 10 設定内容をメイン CPU に書込みます。

重要

- ・ 設定を書込む際は「転送後にフラッシュ保存を実行」には必ずチェックを付けてください。
チェックを付けずに転送すると、接続機器を再起動した場合に転送したデータが消えてしまいます。

◆ サブ CPU の設定

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 プロジェクトファイルを作成します。[機種] から使用するサブ CPU を選択します。
- 3 ツリービューの [モジュール構成] をダブルクリックします。
[MC-Configurator] が起動します。
- 4 サブ CPU の [SVC] を展開し、[01 UNDEFINED] をダブルクリックします。
- 5 [スレーブ] ダイアログボックスで使用している Σ -7 シリーズを選択し、[OK] をクリックします。
- 6 [SVC] の回線番号を「1」に設定します。
- 7 追加した Σ -7 シリーズの局アドレスを「3」に設定します。

8 設定内容をサブ CPU に書込みます。

重 要

- 設定を書込む際は「転送後にフラッシュ保存を実行」には必ずチェックを付けてください。
チェックを付けずに転送すると、接続機器を再起動した場合に転送したデータが消えてしまいます。

◆Σ-7 シリーズの設定

通信設定はロータリースイッチ（S1 と S2）で行います。

通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

ロータリー スイッチ	設定値	設定内容
S1 (×16)	0	局アドレス
S2 (×1)	3	

◆注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。

3.25 設定例 25

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト] メニューの [システム設定]-[接続機器設定] をクリックします。

重要

- ・ リモート I/O シリーズを 1:n 接続する場合は送信ウェイトを 100ms 以上に設定する必要があります。

◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

通信設定はラダーソフト（MP720 Ver.7）で行います。次の内容を設定します。

(1) メイン CPU の設定

(2) リモート I/O の設定

通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

◆ メイン CPU の設定

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 プロジェクトファイルを作成します。[機種] からメイン CPU の機種を選択します。
- 3 [Start] タブの [モジュール構成定義] をクリックします。
[MC-Configurator] が起動します。
- 4 使用する CPU の [218IFD] をダブルクリックします。
- 5 [パラメータ設定] タブをクリックします。
- 6 「伝送パラメータ設定」の「IP アドレス」と「サブネットマスク」を設定します。

設定項目	設定値
IP アドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0

- 7 使用する CPU の [SVC32] の回線番号を「1」に設定します。
表示器で設定した回線番号と同じ値を設定します。
- 8 使用する CPU の [SVC32] を開き、[01 UNDEFINED] をダブルクリックします。
- 9 ツリービューの [I/O]-[Other] から「WILDCARD I/O」を選択し、「OK」をクリックします。
- 10 WILDCARD I/O の局番号に「3」を設定します。
- 11 設定内容をメイン CPU に書込みます。

重 要

- 設定を書込む際は「転送後にフラッシュ保存を実行」には必ずチェックを付けてください。
チェックを付けずに転送すると、接続機器を再起動した場合に転送したデータが消えてしまいます。

◆ リモート I/O の設定

通信設定はロータリースイッチ（S1 と S2）で行います。

通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

ロータリー スイッチ	設定値	設定内容
S1 (×16)	0	局アドレス
S2 (×1)	3	

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。

3.26 設定例 26

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト] メニューの [システム設定]-[接続機器設定] をクリックします。

◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

通信設定はラダーソフト（MP720 Ver.7）で行います。次の内容を設定します。

- (1) メイン CPU の設定
- (2) MPU-01 の設定
- (3) リモート I/O の設定

通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

◆ メイン CPU の設定

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 プロジェクトファイルを作成します。[機種] からメイン CPU の機種を選択します。
- 3 [Start] タブの [モジュール構成定義] をクリックします。
[MC-Configurator] が起動します。
- 4 使用する CPU の [218IFD] をダブルクリックします。
- 5 [パラメータ設定] タブをクリックします。
- 6 「伝送パラメータ設定」の「IP アドレス」と「サブネットマスク」を設定します。

設定項目	設定値
IP アドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0

- 7 [MC-Configurator] で MPU-01 を装着しているオプションスロットに対応しているモジュール番号をダブルクリックします。
- 8 [モジュール] ダイアログボックスで [MPU-01] を選択し、[OK] をクリックします。
- 9 [MC-Configurator] に表示された MPU-01 の回線を「3」に設定します。
表示器で設定した回線番号と同じ値を設定します。
- 10 設定内容をメイン CPU に書込みます。

重要 ・ 設定を書込む際は「転送後にフラッシュ保存を実行」には必ずチェックを付けてください。
チェックを付けずに転送すると、接続機器を再起動した場合に転送したデータが消えてしまいます。

◆ MPU-01 の設定

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 プロジェクトファイルを作成します。[機種] から「MPU-01」を選択します。
- 3 [Start] タブの [モジュール構成定義] をクリックします。
[MC-Configurator] が起動します。
- 4 [MPU-01] モジュールの [SVC] を展開し、[01 UNDEFINED] をダブルクリックします。
- 5 [スレーブ] ダイアログボックスで使用している リモート I/O を選択し、[OK] をクリックします。
- 6 [SVC] の回線番号を「1」に設定します。
- 7 追加した リモート I/O の局アドレスを「3」に設定します。

8 設定内容を MPU-01 シリーズに書込みます。

重 要

- 設定を書込む際は「転送後にフラッシュ保存を実行」には必ずチェックを付けてください。
チェックを付けずに転送すると、接続機器を再起動した場合に転送したデータが消えてしまいます。

◆ リモート I/O の設定

通信設定はロータリースイッチ（S1 と S2）で行います。

通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

ロータリー スイッチ	設定値	設定内容
S1 (×16)	0	局アドレス
S2 (×1)	3	

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。

3.27 設定例 27

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト] メニューの [システム設定]-[接続機器設定] をクリックします。

◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

通信設定はラダーソフト（MP720 Ver.7）で行います。次の内容を設定します。

- (1) メイン CPU の設定
- (2) サブ CPU の設定
- (3) リモート I/O の設定

通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

◆ メイン CPU の設定

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 プロジェクトファイルを作成します。[機種] からメイン CPU の機種を選択します。
- 3 [Start] タブの [モジュール構成定義] をクリックします。
[MC-Configurator] が起動します。
- 4 使用する CPU の [218IFD] をダブルクリックします。
- 5 [パラメータ設定] タブをクリックします。
- 6 「伝送パラメータ設定」の「IP アドレス」と「サブネットマスク」を設定します。

設定項目	設定値
IP アドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0

- 7 [MC-Configurator] でサブ CPU を装着しているモジュール番号をダブルクリックします。
- 8 [モジュール] ダイアログボックスで使用するサブ CPU を選択し、[OK] をクリックします。
- 9 [MC-Configurator] に表示されたサブ CPU の回線を「5」に設定します。
表示器で設定した回線番号と同じ値を設定します。
- 10 設定内容をメイン CPU に書込みます。

重 要 ・ 設定を書込む際は「転送後にフラッシュ保存を実行」には必ずチェックを付けてください。
チェックを付けずに転送すると、接続機器を再起動した場合に転送したデータが消えてしまいます。

◆ サブ CPU の設定

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 プロジェクトファイルを作成します。[機種] から使用するサブ CPU を選択します。
- 3 [Start] タブの [モジュール構成定義] をクリックします。
[MC-Configurator] が起動します。
- 4 サブ CPU の [SVC] を展開し、[01 UNDEFINED] をダブルクリックします。
- 5 [スレーブ] ダイアログボックスで使用しているリモート I/O を選択し、[OK] をクリックします。
- 6 [SVC] の回線番号を「1」に設定します。
- 7 追加したリモート I/O の局アドレスを「3」に設定します。

8 設定内容をサブ CPU に書込みます。

重 要

- 設定を書込む際は「転送後にフラッシュ保存を実行」には必ずチェックを付けてください。
チェックを付けずに転送すると、接続機器を再起動した場合に転送したデータが消えてしまいます。

◆ リモート I/O の設定

通信設定はロータリースイッチ（S1 と S2）で行います。

通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

ロータリー スイッチ	設定値	設定内容
S1 (×16)	0	局アドレス
S2 (×1)	3	

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。

3.28 設定例 28

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト] メニューの [システム設定]-[接続機器設定] をクリックします。

重 要

- K1G シリーズを 1:n 接続する場合は送信ウェイトを 100ms 以上に設定する必要があります。

◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

通信設定はラダーソフト（MP720 Ver.7）で行います。次の内容を設定します。

(1) メイン CPU の設定

(2) コントローラの設定

通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

◆ メイン CPU の設定

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 プロジェクトファイルを作成します。[機種] からメイン CPU の機種を選択します。
- 3 [Start] タブの [モジュール構成定義] をクリックします。
[MC-Configurator] が起動します。
- 4 使用する CPU の [218IFD] をダブルクリックします。
- 5 [パラメータ設定] タブをクリックします。
- 6 「伝送パラメータ設定」の「IP アドレス」と「サブネットマスク」を設定します。

設定項目	設定値
IP アドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0

- 7 使用する CPU の [SVC32] の回線番号を「1」に設定します。
表示器で設定した回線番号と同じ値を設定します。
- 8 使用する CPU の [SVC32] を開き、[01 UNDEFINED] をダブルクリックします。
- 9 ツリービューの [I/O]-[Other] から「WILDCARD I/O」を選択し、「OK」をクリックします。
- 10 WILDCARD I/O の局番号に「3」を設定します。
- 11 設定内容をメイン CPU に書込みます。

重 要

- 設定を書込む際は「転送後にフラッシュ保存を実行」には必ずチェックを付けてください。
チェックを付けずに転送すると、接続機器を再起動した場合に転送したデータが消えてしまいます。

◆ コントローラの設定

接続機器の通信設定は CPU ユニットの Run キー、para キー、enter キーおよびカーソルキーで設定します。

詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

手順

- 1 [Run] が点灯している時に Run キーを長押し（3 秒）し、[Run] を消灯（Ready 状態）します。
- 2 para キーを押し、パラメータを表示します。
- 3 アップ／ダウンキーを押し、設定する項目を表示します。（設定項目が点滅します。）
- 4 enter キーを押し、設定する項目を選択します。
- 5 カーソルキーで設定値を選択します。（設定値が点滅します。）
- 6 enter キーを押し、設定値を確定します。
- 7 Run キーを押し、[Run] を点灯状態にします。

設定値

設定項目	設定値	設定内容
A09	3	MECHATROLINK-III 局アドレス

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。

3.29 設定例 29

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト] メニューの [システム設定]-[接続機器設定] をクリックします。

◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

通信設定はラダーソフト（MP720 Ver.7）で行います。次の内容を設定します。

- (1) メイン CPU の設定
- (2) MPU-01 の設定
- (3) コントローラの設定

通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

◆ メイン CPU の設定

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 プロジェクトファイルを作成します。[機種] からメイン CPU の機種を選択します。
- 3 [Start] タブの [モジュール構成定義] をクリックします。
[MC-Configurator] が起動します。
- 4 使用する CPU の [218IFD] をダブルクリックします。
- 5 [パラメータ設定] タブをクリックします。
- 6 「伝送パラメータ設定」の「IP アドレス」と「サブネットマスク」を設定します。

設定項目	設定値
IP アドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0

- 7 [MC-Configurator] で MPU-01 を装着しているオプションスロットに対応しているモジュール番号をダブルクリックします。
- 8 [モジュール] ダイアログボックスで [MPU-01] を選択し、[OK] をクリックします。
- 9 [MC-Configurator] に表示された MPU-01 の回線を「3」に設定します。
表示器で設定した回線番号と同じ値を設定します。
- 10 設定内容をメイン CPU に書込みます。

重要 ・ 設定を書込む際は「転送後にフラッシュ保存を実行」には必ずチェックを付けてください。
チェックを付けずに転送すると、接続機器を再起動した場合に転送したデータが消えてしまいます。

◆ MPU-01 の設定

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 プロジェクトファイルを作成します。[機種] から「MPU-01」を選択します。
- 3 [Start] タブの [モジュール構成定義] をクリックします。
[MC-Configurator] が起動します。
- 4 [MPU-01] モジュールの [SVC] を展開し、[01 UNDEFINED] をダブルクリックします。
- 5 [スレーブ] ダイアログボックスで使用している コントローラを選択し、[OK] をクリックします。
- 6 [SVC] の回線番号を「1」に設定します。
- 7 追加した コントローラの局アドレスを「3」に設定します。

8 設定内容を MPU-01 シリーズに書込みます。

重 要

- 設定を書込む際は「転送後にフラッシュ保存を実行」には必ずチェックを付けてください。
チェックを付けずに転送すると、接続機器を再起動した場合に転送したデータが消えてしまいます。

◆コントローラの設定

接続機器の通信設定は CPU ユニットの Run キー、para キー、enter キーおよびカーソルキーで設定します。

詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

手順

- 1 [Run] が点灯している時に Run キーを長押し（3 秒）し、[Run] を消灯（Ready 状態）します。
- 2 para キーを押し、パラメータを表示します。
- 3 アップ／ダウンキーを押し、設定する項目を表示します。（設定項目が点滅します。）
- 4 enter キーを押し、設定する項目を選択します。
- 5 カーソルキーで設定値を選択します。（設定値が点滅します。）
- 6 enter キーを押し、設定値を確定します。
- 7 Run キーを押し、[Run] を点灯状態にします。

設定値

設定項目	設定値	設定内容
A09	3	MECHATROLINK-III 局アドレス

◆注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。

3.30 設定例 30

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト] メニューの [システム設定]-[接続機器設定] をクリックします。

◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

通信設定はラダーソフト（MP720 Ver.7）で行います。次の内容を設定します。

- (1) メイン CPU の設定
- (2) サブ CPU の設定
- (3) コントローラの設定

通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

◆ メイン CPU の設定

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 プロジェクトファイルを作成します。[機種] からメイン CPU の機種を選択します。
- 3 [Start] タブの [モジュール構成定義] をクリックします。
[MC-Configurator] が起動します。
- 4 使用する CPU の [218IFD] をダブルクリックします。
- 5 [パラメータ設定] タブをクリックします。
- 6 「伝送パラメータ設定」の「IP アドレス」と「サブネットマスク」を設定します。

設定項目	設定値
IP アドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0

- 7 [MC-Configurator] でサブ CPU を装着しているモジュール番号をダブルクリックします。
- 8 [モジュール] ダイアログボックスで使用するサブ CPU を選択し、[OK] をクリックします。
- 9 [MC-Configurator] に表示されたサブ CPU の回線を「5」に設定します。
表示器で設定した回線番号と同じ値を設定します。
- 10 設定内容をメイン CPU に書込みます。

重要

- ・ 設定を書込む際は「転送後にフラッシュ保存を実行」には必ずチェックを付けてください。
チェックを付けずに転送すると、接続機器を再起動した場合に転送したデータが消えてしまいます。

◆ サブ CPU の設定

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 プロジェクトファイルを作成します。[機種] から使用するサブ CPU を選択します。
- 3 [Start] タブの [モジュール構成定義] をクリックします。
[MC-Configurator] が起動します。
- 4 サブ CPU の [SVC] を展開し、[01 UNDEFINED] をダブルクリックします。
- 5 [スレーブ] ダイアログボックスで使用しているコントローラを選択し、[OK] をクリックします。
- 6 [SVC] の回線番号を「1」に設定します。
- 7 追加したコントローラの局アドレスを「3」に設定します。

8 設定内容をサブ CPU に書込みます。

重 要

- 設定を書込む際は「転送後にフラッシュ保存を実行」には必ずチェックを付けてください。
チェックを付けずに転送すると、接続機器を再起動した場合に転送したデータが消えてしまいます。

◆コントローラの設定

接続機器の通信設定は CPU ユニットの Run キー、para キー、enter キーおよびカーソルキーで設定します。

詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

手順

- 1 [Run] が点灯している時に Run キーを長押し（3 秒）し、[Run] を消灯（Ready 状態）します。
- 2 para キーを押し、パラメータを表示します。
- 3 アップ／ダウンキーを押し、設定する項目を表示します。（設定項目が点滅します。）
- 4 enter キーを押し、設定する項目を選択します。
- 5 カーソルキーで設定値を選択します。（設定値が点滅します。）
- 6 enter キーを押し、設定値を確定します。
- 7 Run キーを押し、[Run] を点灯状態にします。

設定値

設定項目	設定値	設定内容
A09	3	MECHATROLINK-III 局アドレス

◆注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。

3.31 設定例 31

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト] メニューの [システム設定]-[接続機器設定] をクリックします。

重要

- ・ AZ シリーズを 1:n 接続する場合は送信ウェイトを 100ms 以上に設定する必要があります。

◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

通信設定はラダーソフト（MP720 Ver.7.33.0100）で行います。次の内容を設定します。

(1) メイン CPU の設定

(2) ステッピングモーターの設定

通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

◆ メイン CPU の設定

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 プロジェクトファイルを作成します。[機種] からメイン CPU の機種を選択します。
- 3 [Start] タブの [モジュール構成定義] をクリックします。
[MC-Configurator] が起動します。
- 4 使用する CPU の [218IFD] をダブルクリックします。
- 5 [パラメータ設定] タブをクリックします。
- 6 「伝送パラメータ設定」の「IP アドレス」と「サブネットマスク」を設定します。

設定項目	設定値
IP アドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0

- 7 使用する CPU の [SVC32] の回線番号を「1」に設定します。
表示器で設定した回線番号と同じ値を設定します。
- 8 使用する CPU の [SVC32] を開き、[01 UNDEFINED] をダブルクリックします。
- 9 ツリービューの [Stepping] から「Wild Card SteppingMotorDRV」を選択し、「OK」をクリックします。
- 10 Wild Card SteppingMotorDRV の局番号に「3」を設定します。
- 11 設定内容をメイン CPU に書込みます。

重 要

- 設定を書込む際は「転送後にフラッシュ保存を実行」には必ずチェックを付けてください。
チェックを付けずに転送すると、接続機器を再起動した場合に転送したデータが消えてしまいます。

◆ ステッピングモーターの設定

通信設定はロータリースイッチ（S1 と S2）で行います。

通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

ロータリー スイッチ	設定値	設定内容
S1 (×10)	0	局アドレス
S2 (×1)	3	

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。

3.32 設定例 32

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト] メニューの [システム設定]-[接続機器設定] をクリックします。

◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

通信設定はラダーソフト（MP720 Ver.7.33.0100）で行います。次の内容を設定します。

- (1) メイン CPU の設定
- (2) MPU-01 の設定
- (3) ステッピングモーターの設定

通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

◆ メイン CPU の設定

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 プロジェクトファイルを作成します。[機種] からメイン CPU の機種を選択します。
- 3 [Start] タブの [モジュール構成定義] をクリックします。
[MC-Configurator] が起動します。
- 4 使用する CPU の [218IFD] をダブルクリックします。
- 5 [パラメータ設定] タブをクリックします。
- 6 「伝送パラメータ設定」の「IP アドレス」と「サブネットマスク」を設定します。

設定項目	設定値
IP アドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0

- 7 [MC-Configurator] で MPU-01 を装着しているオプションスロットに対応しているモジュール番号をダブルクリックします。
- 8 [モジュール] ダイアログボックスで [MPU-01] を選択し、[OK] をクリックします。
- 9 [MC-Configurator] に表示された MPU-01 の回線を「3」に設定します。
表示器で設定した回線番号と同じ値を設定します。
- 10 設定内容をメイン CPU に書込みます。

重要 ・ 設定を書込む際は「転送後にフラッシュ保存を実行」には必ずチェックを付けてください。
チェックを付けずに転送すると、接続機器を再起動した場合に転送したデータが消えてしまいます。

◆ MPU-01 の設定

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 プロジェクトファイルを作成します。[機種] から「MPU-01」を選択します。
- 3 [Start] タブの [モジュール構成定義] をクリックします。
[MC-Configurator] が起動します。
- 4 [MPU-01] モジュールの [SVC] を展開し、[01 UNDEFINED] をダブルクリックします。
- 5 [スレーブ] ダイアログボックスでツリービューの [Stepping] から「Wild Card SteppingMotorDRV」を選択し、[OK] をクリックします。
- 6 [SVC] の回線番号を「1」に設定します。
- 7 追加した Wild Card SteppingMotorDRV の局アドレスを「3」に設定します。

8 設定内容を MPU-01 シリーズに書込みます。

重 要

- 設定を書込む際は「転送後にフラッシュ保存を実行」には必ずチェックを付けてください。
チェックを付けずに転送すると、接続機器を再起動した場合に転送したデータが消えてしまいます。

◆ ステッピングモーターの設定

通信設定はロータリースイッチ（S1 と S2）で行います。

通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

ロータリー スイッチ	設定値	設定内容
S1 (×10)	0	局アドレス
S2 (×1)	3	

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。

3.33 設定例 33

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト] メニューの [システム設定]-[接続機器設定] をクリックします。

◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

通信設定はラダーソフト（MP720 Ver.7.33.0100）で行います。次の内容を設定します。

- (1) メイン CPU の設定
- (2) サブ CPU の設定
- (3) ステッピングモーターの設定

通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

◆ メイン CPU の設定

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 プロジェクトファイルを作成します。[機種] からメイン CPU の機種を選択します。
- 3 [Start] タブの [モジュール構成定義] をクリックします。
[MC-Configurator] が起動します。
- 4 使用する CPU の [218IFD] をダブルクリックします。
- 5 [パラメータ設定] タブをクリックします。
- 6 「伝送パラメータ設定」の「IP アドレス」と「サブネットマスク」を設定します。

設定項目	設定値
IP アドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0

- 7 [MC-Configurator] でサブ CPU を装着しているモジュール番号をダブルクリックします。
- 8 [モジュール] ダイアログボックスで使用するサブ CPU を選択し、[OK] をクリックします。
- 9 [MC-Configurator] に表示されたサブ CPU の回線を「5」に設定します。
表示器で設定した回線番号と同じ値を設定します。
- 10 設定内容をメイン CPU に書込みます。

重要

- ・ 設定を書込む際は「転送後にフラッシュ保存を実行」には必ずチェックを付けてください。
チェックを付けずに転送すると、接続機器を再起動した場合に転送したデータが消えてしまいます。

◆ サブ CPU の設定

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 プロジェクトファイルを作成します。[機種] から使用するサブ CPU を選択します。
- 3 [Start] タブの [モジュール構成定義] をクリックします。
[MC-Configurator] が起動します。
- 4 サブ CPU の [SVC] を展開し、[01 UNDEFINED] をダブルクリックします。
- 5 [スレーブ] ダイアログボックスでツリービューの [Stepping] から「Wild Card SteppingMotorDRV」を選択し、[OK] をクリックします。
- 6 [SVC] の回線番号を「1」に設定します。
- 7 追加した Wild Card SteppingMotorDRV の局アドレスを「3」に設定します。

8 設定内容をサブ CPU に書込みます。

重 要

- 設定を書込む際は「転送後にフラッシュ保存を実行」には必ずチェックを付けてください。
チェックを付けずに転送すると、接続機器を再起動した場合に転送したデータが消えてしまいます。

◆ステッピングモーターの設定

通信設定はロータリースイッチ（S1 と S2）で行います。

通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

ロータリー スイッチ	設定値	設定内容
S1 (×10)	0	局アドレス
S2 (×1)	3	

◆注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。

3.34 設定例 34

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト] メニューの [システム設定]-[接続機器設定] をクリックします。

重要

- ・ リモート I/O シリーズを 1:n 接続する場合は送信ウェイトを 100ms 以上に設定する必要があります。

◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

通信設定はラダーソフト（MP720 Ver.7）で行います。次の内容を設定します。

(1) メイン CPU の設定

(2) リモート I/O の設定

通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

◆ メイン CPU の設定

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 プロジェクトファイルを作成します。[機種] からメイン CPU の機種を選択します。
- 3 [Start] タブの [モジュール構成定義] をクリックします。
[MC-Configurator] が起動します。
- 4 使用する CPU の [218IFD] をダブルクリックします。
- 5 [パラメータ設定] タブをクリックします。
- 6 「伝送パラメータ設定」の「IP アドレス」と「サブネットマスク」を設定します。

設定項目	設定値
IP アドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0

- 7 使用する CPU の [SVC32] の回線番号を「1」に設定します。
表示器で設定した回線番号と同じ値を設定します。
- 8 使用する CPU の [SVC32] を開き、[01 UNDEFINED] をダブルクリックします。
- 9 ツリービューの [I/O]-[Other] から「WILDCARD I/O」を選択し、「OK」をクリックします。
- 10 WILDCARD I/O の局番号に「3」を設定します。
- 11 設定内容をメイン CPU に書込みます。

重 要

- 設定を書込む際は「転送後にフラッシュ保存を実行」には必ずチェックを付けてください。
チェックを付けずに転送すると、接続機器を再起動した場合に転送したデータが消えてしまいます。

◆ リモート I/O の設定

通信設定はロータリースイッチ（S1 と S2）で行います。

通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

ロータリー スイッチ	設定値	設定内容
S1 (×16)	0	局アドレス
S2 (×1)	3	

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。

3.35 設定例 35

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト] メニューの [システム設定]-[接続機器設定] をクリックします。

◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

通信設定はラダーソフト（MP720 Ver.7）で行います。次の内容を設定します。

- (1) メイン CPU の設定
- (2) MPU-01 の設定
- (3) リモート I/O の設定

通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

◆ メイン CPU の設定

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 プロジェクトファイルを作成します。[機種] からメイン CPU の機種を選択します。
- 3 [Start] タブの [モジュール構成定義] をクリックします。
[MC-Configurator] が起動します。
- 4 使用する CPU の [218IFD] をダブルクリックします。
- 5 [パラメータ設定] タブをクリックします。
- 6 「伝送パラメータ設定」の「IP アドレス」と「サブネットマスク」を設定します。

設定項目	設定値
IP アドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0

- 7 [MC-Configurator] で MPU-01 を装着しているオプションスロットに対応しているモジュール番号をダブルクリックします。
- 8 [モジュール] ダイアログボックスで [MPU-01] を選択し、[OK] をクリックします。
- 9 [MC-Configurator] に表示された MPU-01 の回線を「3」に設定します。
表示器で設定した回線番号と同じ値を設定します。
- 10 設定内容をメイン CPU に書込みます。

重要

- ・ 設定を書込む際は「転送後にフラッシュ保存を実行」には必ずチェックを付けてください。
チェックを付けずに転送すると、接続機器を再起動した場合に転送したデータが消えてしまいます。

◆ MPU-01 の設定

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 プロジェクトファイルを作成します。[機種] から「MPU-01」を選択します。
- 3 [Start] タブの [モジュール構成定義] をクリックします。
[MC-Configurator] が起動します。
- 4 [MPU-01] モジュールの [SVC] を展開し、[01 UNDEFINED] をダブルクリックします。
- 5 [スレーブ] ダイアログボックスで使用している リモート I/O を選択し、[OK] をクリックします。
- 6 [SVC] の回線番号を「1」に設定します。
- 7 追加した リモート I/O の局アドレスを「3」に設定します。

8 設定内容を MPU-01 シリーズに書込みます。

重 要

- 設定を書込む際は「転送後にフラッシュ保存を実行」には必ずチェックを付けてください。
チェックを付けずに転送すると、接続機器を再起動した場合に転送したデータが消えてしまいます。

◆ リモート I/O の設定

通信設定はロータリースイッチ（S1 と S2）で行います。

通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

ロータリー スイッチ	設定値	設定内容
S1 (×16)	0	局アドレス
S2 (×1)	3	

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。

3.36 設定例 36

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト] メニューの [システム設定]-[接続機器設定] をクリックします。

◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

通信設定はラダーソフト（MP720 Ver.7）で行います。次の内容を設定します。

- (1) メイン CPU の設定
- (2) サブ CPU の設定
- (3) リモート I/O の設定

通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

◆ メイン CPU の設定

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 プロジェクトファイルを作成します。[機種] からメイン CPU の機種を選択します。
- 3 [Start] タブの [モジュール構成定義] をクリックします。
[MC-Configurator] が起動します。
- 4 使用する CPU の [218IFD] をダブルクリックします。
- 5 [パラメータ設定] タブをクリックします。
- 6 「伝送パラメータ設定」の「IP アドレス」と「サブネットマスク」を設定します。

設定項目	設定値
IP アドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0

- 7 [MC-Configurator] でサブ CPU を装着しているモジュール番号をダブルクリックします。
- 8 [モジュール] ダイアログボックスで使用するサブ CPU を選択し、[OK] をクリックします。
- 9 [MC-Configurator] に表示されたサブ CPU の回線を「5」に設定します。
表示器で設定した回線番号と同じ値を設定します。
- 10 設定内容をメイン CPU に書込みます。

重要

- ・ 設定を書込む際は「転送後にフラッシュ保存を実行」には必ずチェックを付けてください。
チェックを付けずに転送すると、接続機器を再起動した場合に転送したデータが消えてしまいます。

◆ サブ CPU の設定

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 プロジェクトファイルを作成します。[機種] から使用するサブ CPU を選択します。
- 3 [Start] タブの [モジュール構成定義] をクリックします。
[MC-Configurator] が起動します。
- 4 サブ CPU の [SVC] を展開し、[01 UNDEFINED] をダブルクリックします。
- 5 [スレーブ] ダイアログボックスで使用しているリモート I/O を選択し、[OK] をクリックします。
- 6 [SVC] の回線番号を「1」に設定します。
- 7 追加したリモート I/O の局アドレスを「3」に設定します。

8 設定内容をサブ CPU に書込みます。

重 要

- 設定を書込む際は「転送後にフラッシュ保存を実行」には必ずチェックを付けてください。
チェックを付けずに転送すると、接続機器を再起動した場合に転送したデータが消えてしまいます。

◆ リモート I/O の設定

通信設定はロータリースイッチ（S1 と S2）で行います。

通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

ロータリー スイッチ	設定値	設定内容
S1 (×16)	0	局アドレス
S2 (×1)	3	

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。

3.37 設定例 37

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト] メニューの [システム設定]-[接続機器設定] をクリックします。

重要

- ・ リモート I/O シリーズを 1:n 接続する場合は送信ウェイトを 100ms 以上に設定する必要があります。

◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

通信設定はラダーソフト（MP720 Ver.7）で行います。次の内容を設定します。

(1) メイン CPU の設定

(2) リモート I/O の設定

通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

◆ メイン CPU の設定

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 プロジェクトファイルを作成します。[機種] からメイン CPU の機種を選択します。
- 3 [Start] タブの [モジュール構成定義] をクリックします。
[MC-Configurator] が起動します。
- 4 使用する CPU の [218IFD] をダブルクリックします。
- 5 [パラメータ設定] タブをクリックします。
- 6 「伝送パラメータ設定」の「IP アドレス」と「サブネットマスク」を設定します。

設定項目	設定値
IP アドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0

- 7 使用する CPU の [SVC32] の回線番号を「1」に設定します。
表示器で設定した回線番号と同じ値を設定します。
- 8 使用する CPU の [SVC32] を開き、[01 UNDEFINED] をダブルクリックします。
- 9 ツリービューの [I/O]-[Other] から「WILDCARD I/O」を選択し、「OK」をクリックします。
- 10 WILDCARD I/O の局番号に「3」を設定します。
- 11 設定内容をメイン CPU に書込みます。

重 要

- 設定を書込む際は「転送後にフラッシュ保存を実行」には必ずチェックを付けてください。
チェックを付けずに転送すると、接続機器を再起動した場合に転送したデータが消えてしまいます。

◆ リモート I/O の設定

通信設定はロータリースイッチ（S1 と S2）で行います。

通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

ロータリー スイッチ	設定値	設定内容
S1 (×16)	0	局アドレス
S2 (×1)	3	

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。

3.38 設定例 38

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト] メニューの [システム設定]-[接続機器設定] をクリックします。

◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

通信設定はラダーソフト（MP720 Ver.7）で行います。次の内容を設定します。

- (1) メイン CPU の設定
- (2) MPU-01 の設定
- (3) リモート I/O の設定

通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

◆ メイン CPU の設定

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 プロジェクトファイルを作成します。[機種] からメイン CPU の機種を選択します。
- 3 [Start] タブの [モジュール構成定義] をクリックします。
[MC-Configurator] が起動します。
- 4 使用する CPU の [218IFD] をダブルクリックします。
- 5 [パラメータ設定] タブをクリックします。
- 6 「伝送パラメータ設定」の「IP アドレス」と「サブネットマスク」を設定します。

設定項目	設定値
IP アドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0

- 7 [MC-Configurator] で MPU-01 を装着しているオプションスロットに対応しているモジュール番号をダブルクリックします。
- 8 [モジュール] ダイアログボックスで [MPU-01] を選択し、[OK] をクリックします。
- 9 [MC-Configurator] に表示された MPU-01 の回線を「3」に設定します。
表示器で設定した回線番号と同じ値を設定します。
- 10 設定内容をメイン CPU に書込みます。

重要

- ・ 設定を書込む際は「転送後にフラッシュ保存を実行」には必ずチェックを付けてください。
チェックを付けずに転送すると、接続機器を再起動した場合に転送したデータが消えてしまいます。

◆ MPU-01 の設定

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 プロジェクトファイルを作成します。[機種] から「MPU-01」を選択します。
- 3 [Start] タブの [モジュール構成定義] をクリックします。
[MC-Configurator] が起動します。
- 4 [MPU-01] モジュールの [SVC] を展開し、[01 UNDEFINED] をダブルクリックします。
- 5 [スレーブ] ダイアログボックスで使用している リモート I/O を選択し、[OK] をクリックします。
- 6 [SVC] の回線番号を「1」に設定します。
- 7 追加した リモート I/O の局アドレスを「3」に設定します。

8 設定内容を MPU-01 シリーズに書込みます。

重 要

- 設定を書込む際は「転送後にフラッシュ保存を実行」には必ずチェックを付けてください。
チェックを付けずに転送すると、接続機器を再起動した場合に転送したデータが消えてしまいます。

◆ リモート I/O の設定

通信設定はロータリースイッチ（S1 と S2）で行います。

通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

ロータリー スイッチ	設定値	設定内容
S1 (×16)	0	局アドレス
S2 (×1)	3	

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。

3.39 設定例 39

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト] メニューの [システム設定]-[接続機器設定] をクリックします。

◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

通信設定はラダーソフト（MP720 Ver.7）で行います。次の内容を設定します。

- (1) メイン CPU の設定
- (2) サブ CPU の設定
- (3) リモート I/O の設定

通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

◆ メイン CPU の設定

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 プロジェクトファイルを作成します。[機種] からメイン CPU の機種を選択します。
- 3 [Start] タブの [モジュール構成定義] をクリックします。
[MC-Configurator] が起動します。
- 4 使用する CPU の [218IFD] をダブルクリックします。
- 5 [パラメータ設定] タブをクリックします。
- 6 「伝送パラメータ設定」の「IP アドレス」と「サブネットマスク」を設定します。

設定項目	設定値
IP アドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0

- 7 [MC-Configurator] でサブ CPU を装着しているモジュール番号をダブルクリックします。
- 8 [モジュール] ダイアログボックスで使用するサブ CPU を選択し、[OK] をクリックします。
- 9 [MC-Configurator] に表示されたサブ CPU の回線を「5」に設定します。
表示器で設定した回線番号と同じ値を設定します。
- 10 設定内容をメイン CPU に書込みます。

重要

- ・ 設定を書込む際は「転送後にフラッシュ保存を実行」には必ずチェックを付けてください。
チェックを付けずに転送すると、接続機器を再起動した場合に転送したデータが消えてしまいます。

◆ サブ CPU の設定

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 プロジェクトファイルを作成します。[機種] から使用するサブ CPU を選択します。
- 3 [Start] タブの [モジュール構成定義] をクリックします。
[MC-Configurator] が起動します。
- 4 サブ CPU の [SVC] を展開し、[01 UNDEFINED] をダブルクリックします。
- 5 [スレーブ] ダイアログボックスで使用しているリモート I/O を選択し、[OK] をクリックします。
- 6 [SVC] の回線番号を「1」に設定します。
- 7 追加したリモート I/O の局アドレスを「3」に設定します。

8 設定内容をサブ CPU に書込みます。

重 要

- 設定を書込む際は「転送後にフラッシュ保存を実行」には必ずチェックを付けてください。
チェックを付けずに転送すると、接続機器を再起動した場合に転送したデータが消えてしまいます。

◆ リモート I/O の設定

通信設定はロータリースイッチ（S1 と S2）で行います。

通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

ロータリー スイッチ	設定値	設定内容
S1 (×16)	0	局アドレス
S2 (×1)	3	

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。

3.40 設定例 40

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト] メニューの [システム設定]-[接続機器設定] をクリックします。

◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

通信設定はラダーソフト（MP720 Ver.7）で行います。

通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 プロジェクトファイルを作成します。
「機種選択」の「シリーズ」と「機種」を設定します。

設定項目	設定値
シリーズ	MP3000
機種	SIGMA-7C

- 3 [モジュール構成] をクリックして [MC-Configurator] を起動します。
- 4 使用する CPU の [218IFD] をダブルクリックします。
- 5 [パラメータ設定] タブをクリックします。
- 6 「伝送パラメータ設定」の「IP アドレス」と「サブネットマスク」を設定します。

設定項目	設定値
IP アドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0

- 7 [MC-Configurator] で使用する CPU の [SVD] を「回線番号 1」に設定します。
- 8 設定内容を接続機器に書込みます。
- 9 接続機器の電源を再投入します。

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。

3.41 設定例 41

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト] メニューの [システム設定]-[接続機器設定] をクリックします。

重要

- ・ Σ -X シリーズを 1:n 接続する場合は送信ウェイトを 100ms 以上に設定する必要があります。

◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

通信設定は MP シリーズと Σ -X シリーズの両方で行います。

◆ MP シリーズの設定

通信設定はラダーソフト（MPE720）で行います。

通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 プロジェクトファイルを作成します。
- 3 ツリービューの [モジュール構成] をダブルクリックします。
[Engineering Manager] が起動します。
- 4 [モジュール構成定義の新規ファイル] ダイアログボックスの [OK] をクリックします。
- 5 [Engineering Manager] の [コントローラ] で MECHATROLINK 接続モジュールをプルダウンメニューから選択します。
モジュールが使用しているスロット番号に対応する番号で設定してください。
MECHATROLINK 接続モジュールを選択すると、[Engineering Manager] の [モジュール詳細] に設定内容が表示されます。
- 6 [モジュール詳細] の [回線番号] に「01」を入力します。
表示器の回線番号と同じ値を設定します。
- 7 [詳細] の [MECHATROLINK] をダブルクリックします。
- 8 [リンク割付] タブをクリックし、[ST#] の [01] を以下のように設定します。

設定項目	設定値
ADR	03H
ExADR	00
VENDOR	Yaskawa Electric co.
DEVICE	Σ -X シリーズの機種

MEMO ・ [PROFILE]、[BYTE]、[SCAN] は自動的に設定されます。

- 9 [Engineering Manager] の [コントローラ] で CPU を選択します。
- 10 [モジュール詳細] で通信モジュールの No. をダブルクリックします。
- 11 [伝送パラメータ設定] を以下のように設定します。

設定項目	設定値
IP アドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0

- 12 [ファイル] メニューから [保存] を選択して設定内容を保存し、[Engineering Manager] を終了します。

13 設定内容を MP シリーズに書込みます。

重 要

- 設定を書込む際は「転送後にフラッシュ保存を実行」には必ずチェックを付けてください。
チェックを付けずに転送すると、接続機器を再起動した場合に転送したデータが消えてしまいます。

◆ Σ-X シリーズの設定

通信設定はディップスイッチ（S3）とロータリースイッチ（S1 と S2）で行います。

通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- ディップスイッチ（S3）の設定

ディップスイッチ	設定値	設定内容
1	任意	伝送バイト数を設定します。
2	任意	
3	OFF	通信プロトコル : MECHATROLINK-III
4	OFF	常時 OFF

- ロータリースイッチ（S1 と S2）の設定

ロータリースイッチ	設定値	設定内容
S1 (×16)	0	局アドレス
S2 (×1)	3	

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。

3.42 設定例 42

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト] メニューの [システム設定]-[接続機器設定] をクリックします。

◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

通信設定はラダーソフト（MP720 Ver.7）で行います。次の内容を設定します。

- (1) メイン CPU の設定
- (2) MPU-01 の設定
- (3) Σ -X シリーズの設定

通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

◆ メイン CPU の設定

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 プロジェクトファイルを作成します。[機種] からメイン CPU の機種を選択します。
- 3 ツリービューの [モジュール構成] をダブルクリックします。
[MC-Configurator] が起動します。
- 4 使用する CPU の [218IFD] をダブルクリックします。
- 5 [パラメータ設定] タブをクリックします。
- 6 「伝送パラメータ設定」の「IP アドレス」と「サブネットマスク」を設定します。

設定項目	設定値
IP アドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0

- 7 [MC-Configurator] で MPU-01 を装着しているオプションスロットに対応しているモジュール番号をダブルクリックします。
- 8 [モジュール] ダイアログボックスで [MPU-01] を選択し、[OK] をクリックします。
- 9 [MC-Configurator] に表示された MPU-01 の回線を「3」に設定します。
表示器で設定した回線番号と同じ値を設定します。
- 10 設定内容をメイン CPU に書込みます。

重要

- ・ 設定を書込む際は「転送後にフラッシュ保存を実行」には必ずチェックを付けてください。
チェックを付けずに転送すると、接続機器を再起動した場合に転送したデータが消えてしまいます。

◆ MPU-01 の設定

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 プロジェクトファイルを作成します。[機種] から「MPU-01」を選択します。
- 3 ツリービューの [モジュール構成] をダブルクリックします。
[MC-Configurator] が起動します。
- 4 [MPU-01] モジュールの [SVC] を展開し、[01 UNDEFINED] をダブルクリックします。
- 5 [スレーブ] ダイアログボックスで使用している Σ -X シリーズを選択し、[OK] をクリックします。
- 6 [SVC] の回線番号を「1」に設定します。
- 7 追加した Σ -X シリーズの局アドレスを「3」に設定します。

8 設定内容を MPU-01 シリーズに書込みます。

重 要

- 設定を書込む際は「転送後にフラッシュ保存を実行」には必ずチェックを付けてください。
チェックを付けずに転送すると、接続機器を再起動した場合に転送したデータが消えてしまいます。

◆Σ-X シリーズの設定

通信設定はディップスイッチ（S3）とロータリースイッチ（S1 と S2）で行います。

通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- ディップスイッチ（S3）の設定

ディップスイッチ	設定値	設定内容
1	任意	伝送バイト数を設定します。
2	任意	
3	OFF	通信プロトコル : MECHATROLINK-III
4	OFF	常時 OFF

- ロータリースイッチ（S1 と S2）の設定

ロータリースイッチ	設定値	設定内容
S1 (×16)	0	局アドレス
S2 (×1)	3	

◆注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。

3.43 設定例 43

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト] メニューの [システム設定]-[接続機器設定] をクリックします。

◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

通信設定はラダーソフト（MP720 Ver.7）で行います。次の内容を設定します。

- (1) メイン CPU の設定
- (2) サブ CPU の設定
- (3) Σ -X シリーズの設定

通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

◆ メイン CPU の設定

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 プロジェクトファイルを作成します。[機種] からメイン CPU の機種を選択します。
- 3 ツリービューの [モジュール構成] をダブルクリックします。
[MC-Configurator] が起動します。
- 4 使用する CPU の [218IFD] をダブルクリックします。
- 5 [パラメータ設定] タブをクリックします。
- 6 「伝送パラメータ設定」の「IP アドレス」と「サブネットマスク」を設定します。

設定項目	設定値
IP アドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0

- 7 [MC-Configurator] でサブ CPU を装着しているモジュール番号をダブルクリックします。
- 8 [モジュール] ダイアログボックスで使用するサブ CPU を選択し、[OK] をクリックします。
- 9 [MC-Configurator] に表示されたサブ CPU の回線を「5」に設定します。
表示器で設定した回線番号と同じ値を設定します。
- 10 設定内容をメイン CPU に書込みます。

重要

- ・ 設定を書込む際は「転送後にフラッシュ保存を実行」には必ずチェックを付けてください。
チェックを付けずに転送すると、接続機器を再起動した場合に転送したデータが消えてしまいます。

◆ サブ CPU の設定

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 プロジェクトファイルを作成します。[機種] から使用するサブ CPU を選択します。
- 3 ツリービューの [モジュール構成] をダブルクリックします。
[MC-Configurator] が起動します。
- 4 サブ CPU の [SVC] を展開し、[01 UNDEFINED] をダブルクリックします。
- 5 [スレーブ] ダイアログボックスで使用している Σ -X シリーズを選択し、[OK] をクリックします。
- 6 [SVC] の回線番号を「1」に設定します。
- 7 追加した Σ -X シリーズの局アドレスを「3」に設定します。

8 設定内容をサブ CPU に書込みます。

重 要

- 設定を書込む際は「転送後にフラッシュ保存を実行」には必ずチェックを付けてください。
チェックを付けずに転送すると、接続機器を再起動した場合に転送したデータが消えてしまいます。

◆Σ-X シリーズの設定

通信設定はディップスイッチ（S3）とロータリースイッチ（S1 と S2）で行います。

通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- ディップスイッチ（S3）の設定

ディップスイッチ	設定値	設定内容
1	任意	伝送バイト数を設定します。
2	任意	
3	OFF	通信プロトコル : MECHATROLINK-III
4	OFF	常時 OFF

- ロータリースイッチ（S1 と S2）の設定

ロータリー スイッチ	設定値	設定内容
S1 (×16)	0	局アドレス
S2 (×1)	3	

◆注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。

3.44 設定例 44

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト] メニューの [システム設定]-[接続機器設定] をクリックします。

重 要

- ・ Σ -X シリーズを 1:n 接続する場合は送信ウェイトを 100ms 以上に設定する必要があります。

◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

通信設定は MP シリーズと Σ -X シリーズの両方で行います。

◆ MP シリーズの設定

通信設定はラダーソフト（MPE720）で行います。

通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 プロジェクトファイルを作成します。
- 3 ツリービューの [モジュール構成] をダブルクリックします。
[Engineering Manager] が起動します。
- 4 [モジュール構成定義の新規ファイル] ダイアログボックスの [OK] をクリックします。
- 5 [Engineering Manager] の [コントローラ] で MECHATROLINK 接続モジュールをプルダウンメニューから選択します。
モジュールが使用しているスロット番号に対応する番号で設定してください。
MECHATROLINK 接続モジュールを選択すると、[Engineering Manager] の [モジュール詳細] に設定内容が表示されます。
- 6 [モジュール詳細] の [回線番号] に「01」を入力します。
表示器の回線番号と同じ値を設定します。
- 7 [詳細] の [MECHATROLINK] をダブルクリックします。
- 8 [リンク割付] タブをクリックし、[ST#] の [01] を以下のように設定します。

設定項目	設定値
ADR	03H
ExADR	00
VENDOR	Yaskawa Electric co.
DEVICE	Σ -X シリーズの機種

MEMO ・ [PROFILE]、[BYTE]、[SCAN] は自動的に設定されます。

- 9 [Engineering Manager] の [コントローラ] で CPU を選択します。
- 10 [モジュール詳細] で通信モジュールの No. をダブルクリックします。
- 11 [伝送パラメータ設定] を以下のように設定します。

設定項目	設定値
IP アドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0

- 12 [ファイル] メニューから [保存] を選択して設定内容を保存し、[Engineering Manager] を終了します。

13 設定内容を MP シリーズに書込みます。

重 要

- 設定を書込む際は「転送後にフラッシュ保存を実行」には必ずチェックを付けてください。
チェックを付けずに転送すると、接続機器を再起動した場合に転送したデータが消えてしまいます。

◆ Σ-X シリーズの設定

通信設定はディップスイッチ（S3）とロータリースイッチ（S1 と S2）で行います。

通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- ディップスイッチ（S3）の設定

ディップスイッチ	設定値	設定内容
1	任意	伝送バイト数を設定します。
2	任意	
3	OFF	通信プロトコル : MECHATROLINK-III
4	OFF	常時 OFF

- ロータリースイッチ（S1 と S2）の設定

ロータリースイッチ	設定値	設定内容
S1 (×16)	0	局アドレス
S2 (×1)	3	

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。

3.45 設定例 45

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト] メニューの [システム設定]-[接続機器設定] をクリックします。

◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

通信設定はラダーソフト（MP720 Ver.7）で行います。次の内容を設定します。

- (1) メイン CPU の設定
- (2) MPU-01 の設定
- (3) Σ -X シリーズの設定

通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

◆ メイン CPU の設定

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 プロジェクトファイルを作成します。[機種] からメイン CPU の機種を選択します。
- 3 ツリービューの [モジュール構成] をダブルクリックします。
[MC-Configurator] が起動します。
- 4 使用する CPU の [218IFD] をダブルクリックします。
- 5 [パラメータ設定] タブをクリックします。
- 6 「伝送パラメータ設定」の「IP アドレス」と「サブネットマスク」を設定します。

設定項目	設定値
IP アドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0

- 7 [MC-Configurator] で MPU-01 を装着しているオプションスロットに対応しているモジュール番号をダブルクリックします。
- 8 [モジュール] ダイアログボックスで [MPU-01] を選択し、[OK] をクリックします。
- 9 [MC-Configurator] に表示された MPU-01 の回線を「3」に設定します。
表示器で設定した回線番号と同じ値を設定します。
- 10 設定内容をメイン CPU に書込みます。

重要 ・ 設定を書込む際は「転送後にフラッシュ保存を実行」には必ずチェックを付けてください。
チェックを付けずに転送すると、接続機器を再起動した場合に転送したデータが消えてしまいます。

◆ MPU-01 の設定

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 プロジェクトファイルを作成します。[機種] から「MPU-01」を選択します。
- 3 ツリービューの [モジュール構成] をダブルクリックします。
[MC-Configurator] が起動します。
- 4 [MPU-01] モジュールの [SVC] を展開し、[01 UNDEFINED] をダブルクリックします。
- 5 [スレーブ] ダイアログボックスで使用している Σ -X シリーズを選択し、[OK] をクリックします。
- 6 [SVC] の回線番号を「1」に設定します。
- 7 追加した Σ -X シリーズの局アドレスを「3」に設定します。

8 設定内容を MPU-01 シリーズに書込みます。

重 要

- 設定を書込む際は「転送後にフラッシュ保存を実行」には必ずチェックを付けてください。
チェックを付けずに転送すると、接続機器を再起動した場合に転送したデータが消えてしまいます。

◆Σ-X シリーズの設定

通信設定はディップスイッチ（S3）とロータリースイッチ（S1 と S2）で行います。

通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- ディップスイッチ（S3）の設定

ディップスイッチ	設定値	設定内容
1	任意	伝送バイト数を設定します。
2	任意	
3	OFF	通信プロトコル : MECHATROLINK-III
4	OFF	常時 OFF

- ロータリースイッチ（S1 と S2）の設定

ロータリー スイッチ	設定値	設定内容
S1 (×16)	0	局アドレス
S2 (×1)	3	

◆注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。

3.46 設定例 46

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト] メニューの [システム設定]-[接続機器設定] をクリックします。

◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

通信設定はラダーソフト（MP720 Ver.7）で行います。次の内容を設定します。

- (1) メイン CPU の設定
- (2) サブ CPU の設定
- (3) Σ -X シリーズの設定

通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

◆ メイン CPU の設定

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 プロジェクトファイルを作成します。[機種] からメイン CPU の機種を選択します。
- 3 ツリービューの [モジュール構成] をダブルクリックします。
[MC-Configurator] が起動します。
- 4 使用する CPU の [218IFD] をダブルクリックします。
- 5 [パラメータ設定] タブをクリックします。
- 6 「伝送パラメータ設定」の「IP アドレス」と「サブネットマスク」を設定します。

設定項目	設定値
IP アドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0

- 7 [MC-Configurator] でサブ CPU を装着しているモジュール番号をダブルクリックします。
- 8 [モジュール] ダイアログボックスで使用するサブ CPU を選択し、[OK] をクリックします。
- 9 [MC-Configurator] に表示されたサブ CPU の回線を「5」に設定します。
表示器で設定した回線番号と同じ値を設定します。
- 10 設定内容をメイン CPU に書込みます。

重要

- ・ 設定を書込む際は「転送後にフラッシュ保存を実行」には必ずチェックを付けてください。
チェックを付けずに転送すると、接続機器を再起動した場合に転送したデータが消えてしまいます。

◆ サブ CPU の設定

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 プロジェクトファイルを作成します。[機種] から使用するサブ CPU を選択します。
- 3 ツリービューの [モジュール構成] をダブルクリックします。
[MC-Configurator] が起動します。
- 4 サブ CPU の [SVC] を展開し、[01 UNDEFINED] をダブルクリックします。
- 5 [スレーブ] ダイアログボックスで使用している Σ -X シリーズを選択し、[OK] をクリックします。
- 6 [SVC] の回線番号を「1」に設定します。
- 7 追加した Σ -X シリーズの局アドレスを「3」に設定します。

8 設定内容をサブ CPU に書込みます。

重 要

- 設定を書込む際は「転送後にフラッシュ保存を実行」には必ずチェックを付けてください。
チェックを付けずに転送すると、接続機器を再起動した場合に転送したデータが消えてしまいます。

◆Σ-X シリーズの設定

通信設定はディップスイッチ（S3）とロータリースイッチ（S1 と S2）で行います。

通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- ディップスイッチ（S3）の設定

ディップスイッチ	設定値	設定内容
1	任意	伝送バイト数を設定します。
2	任意	
3	OFF	通信プロトコル : MECHATROLINK-III
4	OFF	常時 OFF

- ロータリースイッチ（S1 と S2）の設定

ロータリー スイッチ	設定値	設定内容
S1 (×16)	0	局アドレス
S2 (×1)	3	

◆注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。

3.47 設定例 47

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト] メニューの [システム設定]-[接続機器設定] をクリックします。

◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

通信設定はラダーソフト（MPE720）で行います。

通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 プロジェクトファイルを作成します。
- 3 [モジュール構成] をクリックして [MC-Configurator] を起動します。
- 4 使用する CPU の [Ethernet] または [EtherNet/IP] をダブルクリックします。
- 5 [パラメータ設定] タブをクリックします。
- 6 「伝送パラメータ設定」の「IP アドレス」と「サブネットマスク」を設定します。

設定項目	設定値
IP アドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0

- 7 設定内容を接続機器に書込みます。
- 8 接続機器の電源を再投入します。

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。

3.48 設定例 48

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト] メニューの [システム設定]-[接続機器設定] をクリックします。

◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

通信設定はラダーソフト（MPE720）で行います。

通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 プロジェクトファイルを作成します。
- 3 [モジュール構成] をクリックして [MC-Configurator] を起動します。
- 4 使用する CPU の [Ethernet] または [EtherNet/IP] をダブルクリックします。
- 5 [パラメータ設定] タブをクリックします。
- 6 「伝送パラメータ設定」の「IP アドレス」と「サブネットマスク」を設定します。

設定項目	設定値
IP アドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0

- 7 設定内容を接続機器に書込みます。
- 8 接続機器の電源を再投入します。

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。

3.49 設定例 49

■ GP-Pro EX の設定

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト] メニューの [システム設定]-[接続機器設定] をクリックします。

重要

- ・ Σ -XS シリーズサーボパック FT 仕様 (M-III / M-4) を 1:n 接続する場合は送信ウェイトを 100ms 以上に設定する必要があります。

◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。

 Σ -XS シリーズサーボパック FT 仕様 (M-III)

 Σ -XS シリーズサーボパック FT 仕様 (M-4)

◆ 注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。
- 個別機器設定の IP アドレスは、接続機器側の IP アドレスを設定してください。
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

■ 接続機器の設定

通信設定は MP シリーズと Σ -XS シリーズサーボパック FT 仕様 (M-III / M-4) の両方で行います。

◆ MP シリーズの設定

通信設定はラダーソフト (MPE720) で行います。

通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

- 1 ラダーソフトを起動します。
- 2 プロジェクトファイルを作成します。
- 3 ツリービューの [モジュール構成] をダブルクリックします。
[Engineering Manager] が起動します。
- 4 [モジュール構成定義の新規ファイル] ダイアログボックスの [OK] をクリックします。
- 5 [Engineering Manager] の [コントローラ] で MECHATROLINK 接続モジュールをプルダウンメニューから選択します。
モジュールが使用しているスロット番号に対応する番号で設定してください。
MECHATROLINK 接続モジュールを選択すると、[Engineering Manager] の [モジュール詳細] に設定内容が表示されます。
- 6 [モジュール詳細] の [回線番号] に「01」を入力します。
表示器の回線番号と同じ値を設定します。
- 7 [詳細] の [MECHATROLINK] をダブルクリックします。
- 8 [リンク割付] タブをクリックし、[ST#] の [01] を以下のように設定します。

設定項目	設定値
ADR	03H
ExADR	00
VENDOR	Yaskawa Electric co.
DEVICE	Σ -XS シリーズサーボパック FT 仕様 (M-III / M-4) の機種

MEMO • [PROFILE]、[BYTE]、[SCAN] は自動的に設定されます。

- 9 [Engineering Manager] の [コントローラ] で CPU を選択します。
- 10 [モジュール詳細] で通信モジュールの No. をダブルクリックします。
- 11 [伝送パラメータ設定] を以下のように設定します。

設定項目	設定値
IP アドレス	192.168.0.1
サブネットマスク	255.255.255.0

- 12 [ファイル]メニューから[保存]を選択して設定内容を保存し、[Engineering Manager]を終了します。
- 13 設定内容を MP シリーズに書込みます。

重 要

- 設定を書込む際は「転送後にフラッシュ保存を実行」には必ずチェックを付けてください。
チェックを付けずに転送すると、接続機器を再起動した場合に転送したデータが消えてしまいます。

◆Σ-XS シリーズサーボパック FT 仕様 (M-III / M-4) の設定

通信設定はディップスイッチ (S3) とロータリースイッチ (S1 と S2) で行います。
通信設定に関する詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

• ディップスイッチ (S3) の設定

ディップスイッチ	設定値	設定内容
1	任意	伝送バイト数を設定します。
2	任意	
3	ON	通信プロトコル: MECHATROLINK-4
	OFF	通信プロトコル: MECHATROLINK-III
4	OFF	常時 OFF

• ロータリースイッチ (S1 と S2) の設定

ロータリースイッチ	設定値	設定内容
S1 (×16)	0	局アドレス
S2 (×1)	3	

◆注意事項

- IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。同一ネットワークで重複する IP アドレスを設定しないでください。

4 設定項目

表示器の通信設定は GP-Pro EX、または表示器のオフラインモードで設定します。

各項目の設定は接続機器の設定と一致させる必要があります。

☞ 「3 通信設定例」(29 ページ)

MEMO

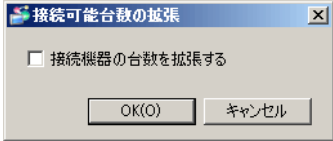
- 表示器の IP アドレスは、表示器のオフラインモードで設定する必要があります。

参照 : 保守 / トラブル解決ガイド「イーサネット設定」

4.1 GP-Pro EX での設定項目

■ 通信設定

設定画面を表示するには、[プロジェクト] メニューの [システム設定]-[接続機器設定] をクリックします。

設定項目	設定内容
ポート番号	表示器のポート番号を「1024～65535」で入力します。 [自動割当] にチェックを入れた場合、ポート番号は自動で設定されます。
タイムアウト	表示器が接続機器からの応答を待つ時間 (sec) を「1～127」で入力します。
リトライ	接続機器からの応答がない場合に、表示器がコマンドを再送信する回数を「0～255」で入力します。
送信ウェイト	表示器がパケットを受信してから、次のコマンドを送信するまでの待機時間 (ms) を「0～255」で入力します。
接続可能台数の拡張	クリックすると [接続可能台数の拡張] ダイアログボックスが表示されます。 [接続機器の台数を拡張する] にチェックを入れると接続可能台数を 64 台に拡張できます。 

MEMO

- 間接機器については GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。

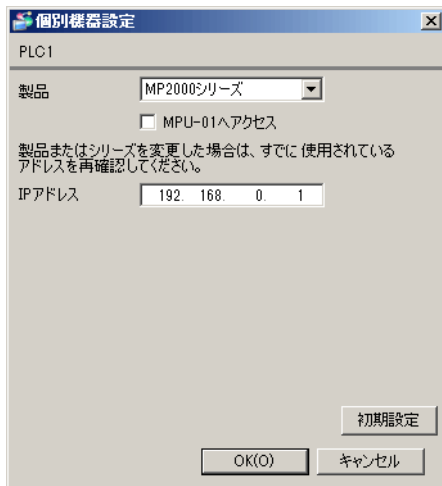
参照 : GP-Pro EX リファレンスマニュアル「運転中に接続機器を切り替えたい (間接機器指定)」

◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[接続機器設定] の [機器別設定] から設定したい接続機器の  ([設定]) をクリックします。

複数の接続機器を接続する場合は、[接続機器設定] の [機器別設定] から [機器を追加] をクリックすることで、接続機器を増やすことができます。

MP2000 シリーズ



個別機器設定

PLC1

製品 MP2000シリーズ

☐ MPU-01ヘアクセス

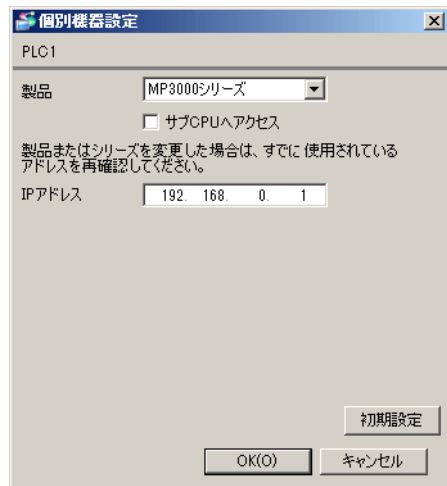
製品またはシリーズを変更した場合は、すでに使用されているアドレスを再確認してください。

IPアドレス 192. 168. 0. 1

初期設定

OK(O) キャンセル

MP3000 シリーズ



個別機器設定

PLC1

製品 MP3000シリーズ

☐ サブCPUヘアクセス

製品またはシリーズを変更した場合は、すでに使用されているアドレスを再確認してください。

IPアドレス 192. 168. 0. 1

初期設定

OK(O) キャンセル

MPX1000 シリーズ



個別機器設定

PLC1

製品 MPX1000シリーズ

☐ サブCPUヘアクセス

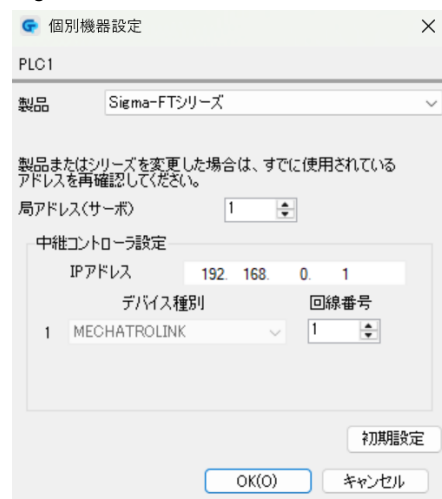
製品またはシリーズを変更した場合は、すでに使用されているアドレスを再確認してください。

IPアドレス 192. 168. 0. 1

初期設定

OK(O) キャンセル

Sigma-FT シリーズ



個別機器設定

PLC1

製品 Sigma-FTシリーズ

局アドレス(サーボ) 1

中継コントロール設定

IPアドレス 192. 168. 0. 1

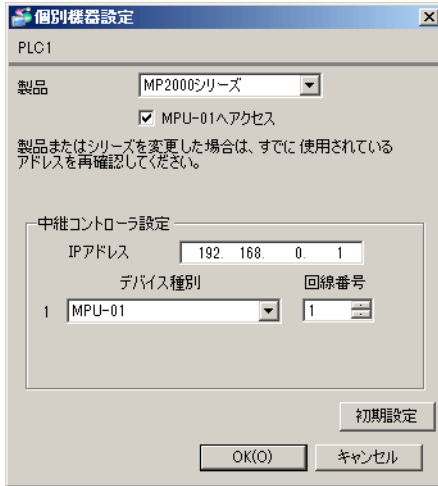
デバイス種別 MECHATROLINK 回線番号 1

初期設定

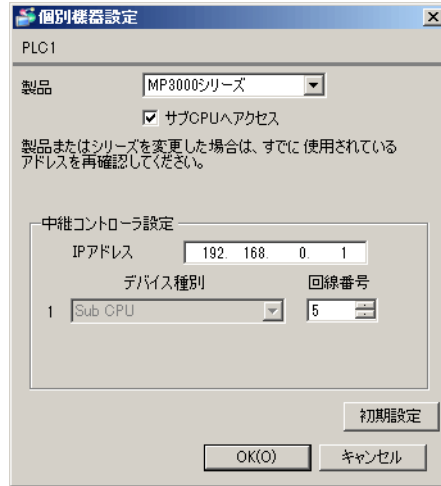
OK(O) キャンセル

設定項目	設定内容
製品	接続する製品を選択します。
MPU-01 ヘアクセス / サブ CPU ヘアクセス	MP2000/MP3000/MPX1000 シリーズと通信する場合はチェックを外します。
IP アドレス	接続機器の IP アドレスを入力します。 MEMO IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。重複する IP アドレスは設定しないでください。

MPU-01

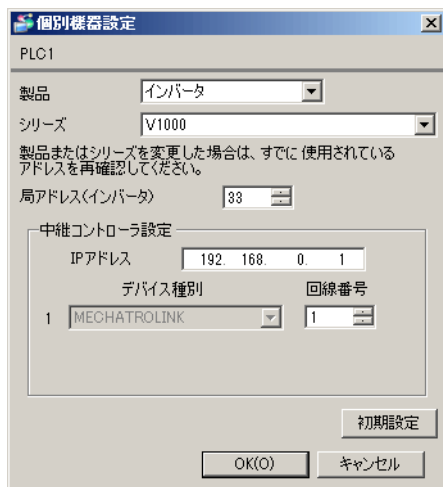


サブ CPU

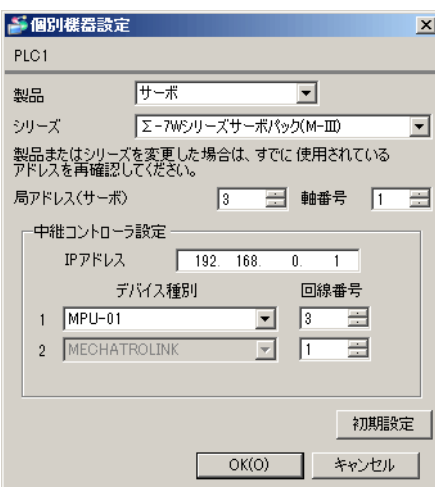


設定項目	設定内容
製品	接続する製品を選択します。
MPU-01 へアクセス / サブ CPU へアクセス	MPU-01 およびサブ CPU を使用する場合にチェックします。 MEMO サブ CPU 上のイーサネットポートを使用する場合はチェックを外してください。
IP アドレス	中継機器 (MP シリーズ /Σ-7C(コントローラ部)) の IP アドレスを入力します。 MEMO IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。重複する IP アドレスは設定しないでください。
デバイス種別	中継に使用するデバイス種別を選択します。
回線番号	回線番号を「1 ～ 16」で入力します。

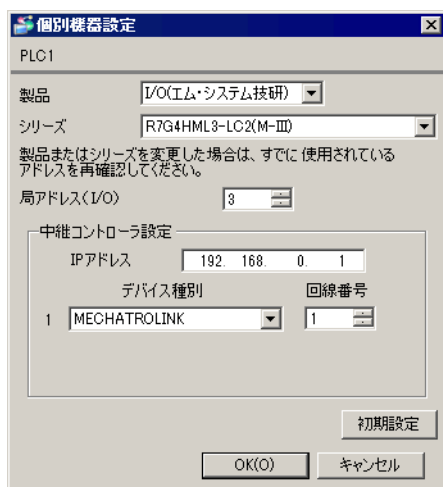
インバータ



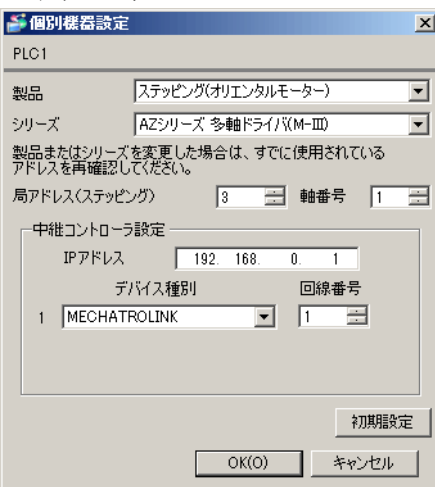
サーボ



I/O



ステッピング



設定項目	設定内容
製品	接続する製品を選択します。
シリーズ	接続機器のシリーズを選択します。
局アドレス	インバータの場合は号機番号を「1～255」で入力します。 サーボの場合は局アドレスを次のように入力します。 MECHATROLINK-II：「65～79」、「80～95」 MECHATROLINK-III：「3～239」 MECHATROLINK-4：「0～255」 I/Oの場合は局アドレスを「3～239」で入力します。 ステッピングの場合は局アドレスを「3～239」で入力します。
軸番号	Σ-7W/Σ-7C/Σ-XW シリーズを選択した場合はサーボの軸番号を「1～2」で入力します。 AZ シリーズを選択した場合はステッピングの軸番号を「1～255」で入力します。
IP アドレス	中継機器 (MP シリーズ /Σ-7C(コントローラ部)) の IP アドレスを入力します。 MEMO IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。重複する IP アドレスは設定しないでください。

設定項目	設定内容
デバイス種別	中継に使用するデバイス種別を選択します。
回線番号	回線番号を「1 ～ 16」で入力します。

重 要

- ・ サーボと通信する場合、サブネットマスクの第 3 オクテットまでを 255 に設定する必要があります。
例：255.255.255.0 など

4.2 オフラインモードでの設定項目

MEMO

- ・ オフラインモードへの入り方や操作方法は、保守 / トラブル解決ガイドを参照してください。

参照 : 保守 / トラブル解決ガイド「オフラインモードについて」

- ・ オフラインモードは使用する表示器によって 1 画面に表示できる設定項目数が異なります。詳細はリファレンスマニュアルを参照してください。

◆ 通信設定

設定画面を表示するには、オフラインモードの [周辺機器設定] から [接続機器設定] をタッチします。表示された一覧から設定したい接続機器をタッチします。

通信設定	機器設定			
MP Ethernet/メカトロリンク		[UDP]	Page 1/1	
ポート番号	☐ 固定 ☒ 自動 1024 ▼ ▲			
タイムアウト(s)	3 ▼ ▲			
リトライ	2 ▼ ▲			
送信ウェイト(ms)	0 ▼ ▲			
終了		戻る	2014/11/19 17:34:23	

設定項目	設定内容
ポート番号	表示器のポート番号を設定します。 「固定」「自動」のいずれかを選択します。 「固定」を選択した場合は表示器のポート番号を「1024 ～ 65535」で入力します。 「自動」を選択した場合は入力した値に関わらず自動的に割り当てられます。
タイムアウト	表示器が接続機器からの応答を待つ時間 (sec) を「1 ～ 127」で入力します。
リトライ	接続機器からの応答がない場合に、表示器がコマンドを再送信する回数を「0 ～ 255」で入力します。
送信ウェイト	表示器がパケットを受信してから、次のコマンドを送信するまでの待機時間 (ms) を「0 ～ 255」で入力します。

◆ 機器設定

設定画面を表示するには、[周辺機器設定] から [接続機器設定] をタッチします。表示された一覧から設定したい接続機器をタッチし、[機器設定] をタッチします。

通信設定	機器設定			
MP Ethernet/メカトロリンク		[UDP]	Page 1/6	
接続機器名	PLC1			
シリーズ	MP2000シリーズ			
IPアドレス	192 168 0 1			
				➡
終了		戻る		2014/11/19 17:34:27

設定項目	設定内容
接続機器名	設定する接続機器を選択します。接続機器名は GP-Pro EX で設定する接続機器の名称です。(初期値 [PLC1])
シリーズ	接続機器のシリーズを表示します。
IP アドレス	接続機器または中継機器 (MP シリーズ /Σ-7C(コントローラ部)) の IP アドレスを表示します。 MEMO IP アドレスに関してはネットワーク管理者に確認してください。重複する IP アドレスは設定しないでください。

- MP2000/MP3000/MPX1000/Sigma-FT シリーズ (Page 2 ～ 3)

通信設定	機器設定			
MP Ethernet/メカトロリンク		[UDP]	Page 3/6	
接続機器名		PLC1		
製品		MP3000シリーズ		
サブCPUへアクセス		ON		
デバイス種別		回線番号		
1 Sub CPU		5		
		← →		
終了		戻る		2014/11/19 17:27:35

設定項目	設定内容
接続機器名	設定する接続機器を選択します。接続機器名は GP-Pro EX で設定する接続機器の名称です。(初期値 [PLC1])
製品	接続する製品を表示します。
MPU-01 へアクセス / サブ CPU へアクセス	設定状態を表示します。
デバイス種別	中継に使用するデバイス種別を表示します。
回線番号	回線番号を表示します。

- サーボ (Page 4)

通信設定	機器設定			
MP Ethernet/メカトロリンク		[UDP]	Page 4/6	
接続機器名		PLC1		
製品	サーボ			
局アドレス	65			
軸番号	----			
デバイス種別	回線番号			
1 MECHATROLINK-II	1			
2 ----	----			
3 ----	----			
				◀ ▶
終了		戻る		2014/11/19 17:16:49

設定項目	設定内容
接続機器名	設定する接続機器を選択します。接続機器名は GP-Pro EX で設定する接続機器の名称です。(初期値 [PLC1])
製品	接続する製品を表示します。
局アドレス	局アドレスを表示します。
軸番号	サーボの軸番号を表示します。Σ-7W/Σ-7C/Σ-XW シリーズを選択した場合のみ表示されます。
デバイス種別	中継に使用するデバイス種別を表示します。
回線番号	回線番号を表示します。

- インバータ / I/O / ステッピング (Page 5 ～ 6)

通信設定	機器設定			
MP Ethernet/メカトロリンク		[UDP]	Page 6/6	
接続機器名		PLC1		
製品		I/O(エム・システム技研)		
局アドレス		3		
デバイス種別		回線番号		
1 MECHATROLINK-III		1		
2 ----		----		
3 ----		----		
				←
終了		戻る		2015/07/13 14:13:37

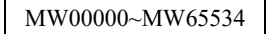
設定項目	設定内容
接続機器名	設定する接続機器を選択します。接続機器名は GP-Pro EX で設定する接続機器の名称です。(初期値 [PLC1])
製品	接続する製品を表示します。
局アドレス	局アドレスを表示します。
デバイス種別	中継に使用するデバイス種別を表示します。
回線番号	回線番号を表示します。

5 使用可能デバイス

使用可能なデバイスアドレスの範囲を下表に示します。ただし、実際にサポートされるデバイスの範囲は接続機器によって異なりますので、ご使用の接続機器のマニュアルで確認してください。

5.1 MP2000 シリーズ /MPU-01

 はシステムデータエリアに指定できます。

デバイス	ビットアドレス	ワードアドレス	32 bits	備考
システムレジスタ	SB000000~SB08191F	SW00000~SW08191	 [L/H]	
入力レジスタ	IB00000~IBFFFFF	IW0000~IWFFFF		*1
出力レジスタ	OB00000~OBFFFFF	OW0000~OWFFFF		*1
データレジスタ	MB000000~MB65534F	 MW00000~MW65534		

*1 入出力レジスタに関しては、0x9000 ~ 0xFFFF は書き込みません。

MEMO

- システムデータエリアについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。

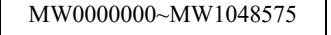
参照 : GP-Pro EX リファレンスマニュアル「LS エリア（ダイレクトアクセス方式専用エリア）」

- 表中のアイコンについてはマニュアル表記上の注意を参照してください。

 「表記のルール」

5.2 MP3000 シリーズ / サブ CPU

 はシステムデータエリアに指定できます。

デバイス	ビットアドレス	ワードアドレス	32 bits	備考
システムレジスタ	SB000000~SB65534F	SW00000~SW65534	 [L/H]	
入力レジスタ	IB000000~IB27FFFF	IW00000~IW27FFF		*1
出力レジスタ	OB000000~OB27FFFF	OW00000~OW27FFF		*1
データレジスタ	MB00000000~MB1048575F	 MW0000000~MW1048575		
G レジスタ	GB000000000~GB02097151F	GW00000000~GW02097151		

*1 入出力レジスタに関しては、0x9000 ~ 0xFFFF は書き込みません。

MEMO

- システムデータエリアについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。

参照 : GP-Pro EX リファレンスマニュアル「LS エリア（ダイレクトアクセス方式専用エリア）」

- 表中のアイコンについてはマニュアル表記上の注意を参照してください。

 「表記のルール」

5.3 MPX1000 シリーズ / サブ CPU

 はシステムデータエリアに指定できます。

デバイス	ビットアドレス	ワードアドレス	32 bits	備考
システムレジスタ	SB0000000~SB131071F	SW000000~SW131071	 [L/H]	
入力レジスタ	IB000000~IB3FFFFFF	IW00000~IW3FFFF		*1
出力レジスタ	OB000000~OB3FFFFFF	OW00000~OW3FFFF		
データレジスタ	MB00000000~MB1048575F	 MW0000000~MW1048575		
G レジスタ	GB000000000~GB67108863F	GW00000000~GW67108863		

*1 入力レジスタに関しては、0x8000 ~ 0xFFFF は書き込みません。

MEMO

- システムデータエリアについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。

参照 : GP-Pro EX リファレンスマニュアル「LS エリア（ダイレクトアクセス方式専用エリア）」

- 表中のアイコンについてはマニュアル表記上の注意を参照してください。

 「表記のルール」

5.4 Sigma-FT シリーズ

 はシステムデータエリアに指定できます。

デバイス	ビットアドレス	ワードアドレス	32 bit	備考
システムレジスタ	SB000000~SB65535F	SW00000~SW65535	 [L/H]	
入力レジスタ	IB000000~IB003FFF	IW00000~IW003FF		
出力レジスタ	OB000000~OB003FFF	OW00000~OW003FF		
データレジスタ	MB0000000~MB524287F	 MW000000~MW524287		
G レジスタ	GB00000000~GB1048575F	GW0000000~GW1048575		

MEMO

- 接続機器で使用できるシステムエリア設定は読み込みエリアサイズのみです。読み込みエリアサイズについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。
- システムデータエリアについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。

参照 : GP-Pro EX リファレンスマニュアル「LS エリア（ダイレクトアクセス方式専用エリア）」

- 表中のアイコンについてはマニュアル表記上の注意を参照してください。

 「表記のルール」

5.5 インバータ

 はシステムデータエリアに指定できます。

デバイス	ビットアドレス	ワードアドレス	32 bit	備考
ビットレジスタ ^{*1}	BR0000.0~ BR195C.F	-	-	^{*2}
レジスタ ^{*1}	-	0000~195C		 ^{*2}

^{*1} インバータ内ではビットレジスタとレジスタは同じデバイスを構成します。ビットレジスタはビットアドレスにのみ使用されます。
 なお、ビット指定時のアクセス方法はデバイスによって異なります。

ビットレジスタ BR0000.0~BR195C.F

レジスタ 

^{*2} 使用できるレジスタ番号と読出し／書込みが可能かどうかは、接続機器により異なります。詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

MEMO

- 接続機器で使用できるシステムエリア設定は読込みエリアサイズのみです。読込みエリアサイズについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。
- システムデータエリアについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。

参照 : GP-Pro EX リファレンスマニュアル「LS エリア（ダイレクトアクセス方式専用エリア）」

- 表中のアイコンについてはマニュアル表記上の注意を参照してください。

 「表記のルール」

5.6 Σ-V シリーズ

 はシステムデータエリアに指定できます。

デバイス	ビットアドレス	ワードアドレス	32 bit	備考
通常パラメータエリア	0000.0~0FFF.F	0000~0FFF		*1 *2
一時パラメータエリア	1000.0~1FFF.F	1000~1FFF		*1 *2
モニタエリア	E000.0~EFFF.F	E000~EFFF		*1 *2

*1 ビット書込みを行うと、いったん表示器が接続機器の該当するワードアドレスを読み、読んだワードアドレスにビットを立てて接続機器に戻します。表示器が接続機器のデータを読込んで返す間に、そのワードアドレスへ接続機器で書込み処理を行うと、正しいデータが書込めない場合があります。

*2 以下のアドレスは 32bit 長のパラメータです。2 ワード単位で読み出し / 書き込みしてください。

・ 通常パラメータエリア

020AH / 020EH / 0210H / 0212H / 0282H / 051BH / 0520H / 0522H / 0524H / 0526H / 0531H / 0804H / 0806H / 0808H / 0814H / 0819H / 0820H / 0822H / 0834H / 0836H / 0838H / 083AH / 083CH / 083EH / 0840H / 0890H / 0892H / 0894H / 0896H / 0898H / 089AH / 089CH / 089EH / 08A0H / 08A2H / 08A4H / 08A6H / 08A8H / 08AAH / 08ACH / 08AEH / 08B0H / 08B2H / 08B4H / 08B6H / 08B8H / 08BAH / 08BCH / 08BEH / 0A02H / 0A04H / 0A06H / 0A08H / 0A0AH / 0A0CH / 0A0EH / 0A10H / 0A12H / 0A14H / 0A16H / 0A18H / 0A42H / 0A44H / 0A46H / 0A48H / 0A4AH / 0A4CH / 0A4EH / 0A50H / 0A52H / 0A82H / 0A84H / 0A86H / 0A88H / 0A8AH / 0A8CH / 0A8EH / 0A90H / 0A92H / 0AC2H / 0AC4H / 0AC6H / 0AC8H / 0ACAH / 0ACCH / 0ACEH / 0B02H / 0B04H / 0B06H / 0B08H / 0B0AH / 0B0CH / 0B0EH / 0B10H / 0B12H / 0B14H / 0B16H / 0B18H / 0B1AH / 0B1CH / 0B1EH / 0B20H / 0B22H / 0B24H / 0B26H /

・ 一時パラメータエリア

120AH / 120EH / 1210H / 1212H / 1282H / 151BH / 1520H / 1522H / 1524H / 1526H / 1531H / 1804H / 1806H / 1808H / 1814H / 1819H / 1820H / 1822H / 1834H / 1836H / 1838H / 183AH / 183CH / 183EH / 1840H / 1890H / 1892H / 1894H / 1896H / 1898H / 189AH / 189CH / 189EH / 18A0H / 18A2H / 18A4H / 18A6H / 18A8H / 18AAH / 18ACH / 18AEH / 18B0H / 18B2H / 18B4H / 18B6H / 18B8H / 18BAH / 18BCH / 18BEH / 1A02H / 1A04H / 1A06H / 1A08H / 1A0AH / 1A0CH / 1A0EH / 1A10H / 1A12H / 1A14H / 1A16H / 1A18H / 1A42H / 1A44H / 1A46H / 1A48H / 1A4AH / 1A4CH / 1A4EH / 1A50H / 1A52H / 1A82H / 1A84H / 1A86H / 1A88H / 1A8AH / 1A8CH / 1A8EH / 1A90H / 1A92H / 1AC2H / 1AC4H / 1AC6H / 1AC8H / 1ACAH / 1ACCH / 1ACEH / 1B02H / 1B04H / 1B06H / 1B08H / 1B0AH / 1B0CH / 1B0EH / 1B10H / 1B12H / 1B14H / 1B16H / 1B18H / 1B1AH / 1B1CH / 1B1EH / 1B20H / 1B22H / 1B24H / 1B26H /

・ モニタエリア

E003H / E009H / E00EH / E010H / E012H / E016H / E01BH / E084H / E52AH / E52CH / E52EH / E530H / E532H / E534H / E536H / E538H / E53AH / E53CH / E601H / E603H / E605H / E707H

MEMO

- ・ 接続機器で使用できるシステムエリア設定は読み込みエリアサイズのみです。読み込みエリアサイズについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。
- ・ システムデータエリアについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。

参照 : GP-Pro EX リファレンスマニュアル「LS エリア (ダイレクトアクセス方式専用エリア)」

- ・ 表中のアイコンについてはマニュアル表記上の注意を参照してください。

 「表記のルール」

■ 通常パラメータエリア

接続機器のユーザ定数パラメータを配置するエリアです。レジスタ番号は Pn 番号にオフセット値を加算した値です。通常パラメータエリアのオフセット値は 0000H です。

Pn 番号やレジスタ配置の詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

操作	内容
読出し	揮発メモリ（RAM など）の値を読出します。不揮発メモリ（EEPROM など）の値は読出できません。
書込み	揮発メモリ（RAM など）と不揮発メモリ（EEPROM など）へ値を書込みます。

MEMO

- 異なるレジスタグループの連続読出し / 連続書込みはできません。
例：07FFH から 0800H を連続読出しまたは連続書込みした場合、「データ整合エラー（33H）」または「アクセス制限エラー（31H）」になります。
- 存在しないレジスタ番号を指定すると「アクセス制限エラー（31H）」になります。

■ 一時パラメータエリア

接続機器のユーザ定数パラメータを配置するエリアです。レジスタ番号は Pn 番号にオフセット値を加算した値です。一時パラメータエリアのオフセット値は 1000H です。

Pn 番号やレジスタ配置の詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

操作	内容
読出し	揮発メモリ（RAM など）の値を読出します。
書込み	揮発メモリ（RAM など）へ値を書込みます。

一時パラメータエリアへの書込みは揮発メモリ（RAM など）に書込まれるため、接続機器の電源を OFF にすると値が消去されます。

サーボチューニングなどメモリへの書込み回数が増える操作を一時パラメータエリアで行うと次のような利点があります。

- 不揮発メモリの素子の劣化を抑えられる
- 処理時間を短縮できる

MEMO

- 異なるレジスタグループの連続読出し / 連続書込みはできません。
例：17FFH から 1800H を連続読出しまたは連続書込みした場合、「データ整合エラー（33H）」または「アクセス制限エラー（31H）」になります。
- 存在しないレジスタ番号を指定すると「アクセス制限エラー（31H）」になります。

■ モニタエリア

接続機器の内部情報（運転状況、アラームなどのステータス、各種状態フラグなど）を参照するための領域です。レジスタ番号の値を参照することで接続機器の状態を確認することができます。接続機器が動作している間は常にレジスタの値が変化します。

レジスタ番号	名称	単位	レジスタ数	符号	備考
E000H	モータ回転／移動速度	回転形 :min ⁻¹	1	S	Un000
		リニア形 :mm/s			
E001H	指令速度	回転形 :min ⁻¹	1	S	Un001
		リニア形 :mm/s			
E002H	内部トルク／推力指令	%	1	S	Un002
E003H	回転角 1（原点よりのパルス数）	Pulse	2	U	Un003
E005H	回転角 2（原点よりの角度）	deg	1	U	Un004
E006H	入力信号モニタ	—	1	—	Un005
E007H	出力信号モニタ	—	1	—	Un006
E008H	入力指令パルス速度	回転形 :min ⁻¹	1	S	Un007
		リニア形 :mm/s			
E009H	偏差カウンタ（位置偏差量）	指令単位	2	S	Un008
E00BH	累積負荷率	%(周期 10s)	1	U	Un009
E00CH	回生負荷率	%(周期 10s)	1	U	Un00A
E00DH	DB 抵抗消費電力	%(周期 10s)	1	U	Un00B
E00EH	入力指令パルスカウンタ	Pulse	2	S	Un00C
E010H	フィードバックパルスカウンタ	Pulse	2	S	Un00D
E012H	フルクローズドフィードバックパルスカウンタ	Pulse	2	S	Un00E
E016H	延べ稼働時間	100ms	2	U	Un012
E018H	モータ最大速度上限（リニア）	mm/s	1	U	Un010 (リニア形専用)
E019H	分周出力設定上限（リニア）	Pulse/Pitch	1	U	Un010 (リニア形専用)
E01AH	ホールセンサ情報	—	1	—	Un011
E01BH	フィードバックパルスカウンタ	指令単位	2	S	Un013
E01DH	有効ゲインモニタ	—	1	U	Un014
E01EH	セーフティ入出力信号モニタ	—	1	—	Un015
E084H	リニアスケールピッチ	pm	2	U	Un084
E086H	リニアスケールピッチ指数	10 のべき乗	1	S	Un085
E500H	異常トレースバックデータ 異常発生番号 =0	コード	1	U	Fn000-0
E501H	異常トレースバックデータ 異常発生番号 =1	コード	1	U	Fn000-1

レジスタ 番号	名称	単位	レジスタ 数	符号	備考
E502H	異常トレースバックデータ 異常発生番号=2	コード	1	U	Fn000-2
E503H	異常トレースバックデータ 異常発生番号=3	コード	1	U	Fn000-3
E504H	異常トレースバックデータ 異常発生番号=4	コード	1	U	Fn000-4
E505H	異常トレースバックデータ 異常発生番号=5	コード	1	U	Fn000-5
E506H	異常トレースバックデータ 異常発生番号=6	コード	1	U	Fn000-6
E507H	異常トレースバックデータ 異常発生番号=7	コード	1	U	Fn000-7
E508H	異常トレースバックデータ 異常発生番号=8	コード	1	U	Fn000-8
E509H	異常トレースバックデータ 異常発生番号=9	コード	1	U	Fn000-9
E50AH	現在のアラーム状態	コード	1	U	
E51BH	サーボステータスモニタ	—	1	U	
E51CH	制御モードモニタ	—	1	U	
E52AH	異常トレースバックタイムスタンプ 異常発生番号=0	100ms	2	U	
E52CH	異常トレースバックタイムスタンプ 異常発生番号=1	100ms	2	U	
E52EH	異常トレースバックタイムスタンプ 異常発生番号=2	100ms	2	U	
E530H	異常トレースバックタイムスタンプ 異常発生番号=3	100ms	2	U	
E532H	異常トレースバックタイムスタンプ 異常発生番号=4	100ms	2	U	
E534H	異常トレースバックタイムスタンプ 異常発生番号=5	100ms	2	U	
E536H	異常トレースバックタイムスタンプ 異常発生番号=6	100ms	2	U	
E538H	異常トレースバックタイムスタンプ 異常発生番号=7	100ms	2	U	
E53AH	異常トレースバックタイムスタンプ 異常発生番号=8	100ms	2	U	
E53CH	異常トレースバックタイムスタンプ 異常発生番号=9	100ms	2	U	

- 入力信号モニタ (E006H)

MECHATROLINK 形

Bit	状態信号	論理	Un 番号
0	SI0(CN1-13)	0=Lo(閉) 1=Hi(開)	Un005
1	SI1(CN1-7)	0=Lo(閉) 1=Hi(開)	
2	SI2(CN1-8)	0=Lo(閉) 1=Hi(開)	
3	SI3(CN1-9)	0=Lo(閉) 1=Hi(開)	
4	SI4(CN1-10)	0=Lo(閉) 1=Hi(開)	
5	SI5(CN1-11)	0=Lo(閉) 1=Hi(開)	
6	SI6(CN1-12)	0=Lo(閉) 1=Hi(開)	
7	予備		

- 出力信号モニタ (E007H)

MECHATROLINK 形

Bit	状態信号	論理	Un 番号
0	ALM(CN1-3,4)	0=Lo(閉) 1=Hi(開)	Un006
1	SO1(CN1-1,2)	0=Lo(閉) 1=Hi(開)	
2	SO2(CN1-23,24)	0=Lo(閉) 1=Hi(開)	
3	SO3(CN1-25,26)	0=Lo(閉) 1=Hi(開)	
4	予備		
5	予備		
6	予備		
7	予備		

- セーフティ入出力信号モニタ (E01EH)

Bit	状態信号	論理	Un 番号
0	/HWBB1(CN8-3,4)	0=Lo(開) 1=Hi(閉)	Un015
1	/HWBB2(CN8-5,6)	0=Lo(開) 1=Hi(閉)	
2 ~ 7	予備		

MEMO

- /HWBB1、/HWBB2 はセーフティオプションカード未接続時のみ有効です。セーフティオプションカード接続時は不定となります。

- サーボステータスモニタ (E51BH)

参照値	内容
0000H	予約 (イニシャル)
0001H	アラーム発生中 (A.***)
0002H	ハードワイヤードベースブロック状態からの通電復帰待機中 (HBB)
0003H	正・逆駆動禁止中 (PTNT)
0004H	正転側駆動禁止中 (P-OT)
0005H	逆転側駆動禁止中 (N-OT)
0006H	モータ非通電中 (BB)
0007H	モータ通電中 (RUN)
0008H	磁極検出中 (PDET)

- 制御モードモニタ (E51CH)

参照値	内容
0000H	速度制御モード
0001H	位置制御モード
0002H	トルク制御モード

MEMO

- JOG 運転モード、原点サーチモード、内部設定速度制御モード（接点指令）は速度制御モードになります。
- プログラム JOG 運転モード、アドバンスオートチューニングモード、EasyFFT モードは位置制御モードになります。

5.7 Σ-7 シリーズ

 はシステムデータエリアに指定できます。

デバイス	ビットアドレス	ワードアドレス	32 bit	備考
通常パラメータエリア	0000.0~0FFF.F	0000~0FFF		*1 *2 *3
一時パラメータエリア	1000.0~1FFF.F	1000~1FFF		*1 *2 *3
モニタエリア	E000.0~EFFF.F	E000~EFFF		*1 *3

- *1 ビット書込みを行うと、いったん表示器が接続機器の該当するワードアドレスを読み、読込んだワードアドレスにビットを立てて接続機器に戻します。表示器が接続機器のデータを読込んで返す間に、そのワードアドレスへ接続機器で書込み処理を行うと、正しいデータが書込めない場合があります。
- *2 以下のアドレスの間は、連続して読み出し / 書き込みができません。
07FFH ~ 0800H
17FFH ~ 1800H
- *3 以下のアドレスは 32bit 長のパラメータです。2 ワード単位で読み出し / 書き込みしてください。
- 通常パラメータエリア
020AH / 020EH / 0210H / 0212H / 0231H / 0282H / 051BH / 0520H / 0522H / 0524H / 0526H / 0531H / 0804H / 0806H / 0808H / 0814H / 0819H / 0820H / 0822H / 0834H / 0836H / 0838H / 083AH / 083CH / 083EH / 0840H / 0842H / 0844H / 0890H / 08A8H / 0A02H / 0A04H / 0A06H / 0A08H / 0A0AH / 0A0CH / 0A0EH / 0A10H / 0A12H / 0A14H / 0A16H / 0A18H / 0A42H / 0A44H / 0A46H / 0A48H / 0A4AH / 0A4CH / 0A4EH / 0A50H / 0A52H / 0A82H / 0A84H / 0A86H / 0A88H / 0A8AH / 0A8CH / 0A8EH / 0A90H / 0A92H / 0AC2H / 0AC4H / 0AC6H / 0AC8H / 0ACAH / 0ACCH / 0ACEH / 0B02H / 0B04H / 0B06H / 0B08H / 0B0AH / 0B0CH / 0B0EH / 0B10H / 0B12H / 0B14H / 0B16H / 0B18H / 0B1AH / 0B1CH / 0B1EH / 0B20H / 0B22H / 0B24H / 0B26H /
 - 一時パラメータエリア
120AH / 120EH / 1210H / 1212H / 1282H / 151BH / 1520H / 1522H / 1524H / 1526H / 1531H / 1804H / 1806H / 1808H / 1814H / 1819H / 1820H / 1822H / 1834H / 1836H / 1838H / 183AH / 183CH / 183EH / 1840H / 1890H / 1892H / 1894H / 1896H / 1898H / 189AH / 189CH / 189EH / 18A0H / 18A2H / 18A4H / 18A6H / 18A8H / 18AAH / 18ACH / 18AEH / 18B0H / 18B2H / 18B4H / 18B6H / 18B8H / 18BAH / 18BCH / 18BEH / 1A02H / 1A04H / 1A06H / 1A08H / 1A0AH / 1A0CH / 1A0EH / 1A10H / 1A12H / 1A14H / 1A16H / 1A18H / 1A42H / 1A44H / 1A46H / 1A48H / 1A4AH / 1A4CH / 1A4EH / 1A50H / 1A52H / 1A82H / 1A84H / 1A86H / 1A88H / 1A8AH / 1A8CH / 1A8EH / 1A90H / 1A92H / 1AC2H / 1AC4H / 1AC6H / 1AC8H / 1ACAH / 1ACCH / 1ACEH / 1B02H / 1B04H / 1B06H / 1B08H / 1B0AH / 1B0CH / 1B0EH / 1B10H / 1B12H / 1B14H / 1B16H / 1B18H / 1B1AH / 1B1CH / 1B1EH / 1B20H / 1B22H / 1B24H / 1B26H /
 - モニタエリア
E003H / E009H / E00EH / E010H / E012H / E016H / E01BH / E030H / E032H / E035H / E037H / E084H / E52AH / E52CH / E52EH / E530H / E532H / E534H / E536H / E538H / E53AH / E53CH / E548H / E54AH / E54CH / E54EH / E550H / E552H / E554H / E556H / EC00H / EC02H / EC04H / EC06H / EC08H / EC0AH / EC0CH / EC0EH / EC10H / EC12H / EC14H / EC16H

MEMO

- ・ 接続機器で使用できるシステムエリア設定は読み込みエリアサイズのみです。読み込みエリアサイズについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。
- ・ システムデータエリアについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。

参照 : GP-Pro EX リファレンスマニュアル「LS エリア（ダイレクトアクセス方式専用エリア）」

- ・ 表中のアイコンについてはマニュアル表記上の注意を参照してください。

 「表記のルール」

■ 通常パラメータエリア

接続機器のユーザ定数パラメータを配置するエリアです。レジスタ番号は Pn 番号にオフセット値を加算した値です。通常パラメータエリアのオフセット値は 0000H です。

Pn 番号やレジスタ配置の詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

操作	内容
読出し	揮発メモリ（RAM など）の値を読出します。不揮発メモリ（EEPROM など）の値は読出できません。
書込み	揮発メモリ（RAM など）と不揮発メモリ（EEPROM など）へ値を書込みます。

MEMO

- ・ 異なるレジスタグループの連続読出し / 連続書込みはできません。
例 : 07FFH から 0800H を連続読出しまたは連続書込みした場合、「データ整合エラー (33H)」または「アクセス制限エラー (31H)」になります。
- ・ 存在しないレジスタ番号を指定すると「アクセス制限エラー (31H)」になります。

■ 一時パラメータエリア

接続機器のユーザ定数パラメータを配置するエリアです。レジスタ番号は Pn 番号にオフセット値を加算した値です。一時パラメータエリアのオフセット値は 1000H です。

Pn 番号やレジスタ配置の詳細は接続機器のマニュアルを参照してください。

操作	内容
読出し	揮発メモリ（RAM など）の値を読出します。
書込み	揮発メモリ（RAM など）へ値を書込みます。

一時パラメータエリアへの書込みは揮発メモリ（RAM など）に書込まれるため、接続機器の電源を OFF にすると値が消去されます。

サーボチューニングなどメモリへの書込み回数が増える操作を一時パラメータエリアで行うと次のような利点があります。

- ・ 不揮発メモリの素子の劣化を抑えられる
- ・ 処理時間を短縮できる

MEMO

- ・ 異なるレジスタグループの連続読出し / 連続書込みはできません。
例 : 17FFH から 1800H を連続読出しまたは連続書込みした場合、「データ整合エラー (33H)」または「アクセス制限エラー (31H)」になります。
- ・ 存在しないレジスタ番号を指定すると「アクセス制限エラー (31H)」になります。

■ モニタエリア

接続機器の内部情報（運転状況、アラームなどのステータス、各種状態フラグなど）を参照するための領域です。レジスタ番号の値を参照することで接続機器の状態を確認することができます。接続機器が動作している間は常にレジスタの値が変化します。

レジスタ番号	名称	単位	レジスタ数	符号	備考
E000H	モータ回転／移動速度	回転形 :min ⁻¹	1	S	Un000 64ms 平均
		リニア形 :mm/s			
E001H	指令速度	回転形 :min ⁻¹	1	S	Un001
		リニア形 :mm/s			
E002H	内部トルク／推力指令	%	1	S	Un002
E003H	回転角 1（原点よりのパルス数）	Pulse	2	U	Un003
E005H	回転角 2（原点よりの角度）	deg	1	U	Un004
E006H	入力信号モニタ	—	1	—	Un005
E007H	出力信号モニタ	—	1	—	Un006
E008H	位置指令速度	回転形 :min ⁻¹	1	S	Un007 64ms 平均
		リニア形 :mm/s			
E009H	位置偏差量（偏差カウンタ）	指令単位	2	S	Un008
E00BH	累積負荷率	%(周期 10s)	1	U	Un009
E00CH	回生負荷率	%(周期 10s)	1	U	Un00A
E00DH	DB 抵抗消費電力	%(周期 10s)	1	U	Un00B
E00EH	入力指令パルスカウンタ （現在指令位置）	Pulse	2	S	Un00C
E010H	フィードバックパルスカウンタ （モータ位置）	Pulse	2	S	Un00D
E012H	フルクローズドフィードバック パルスカウンタ	Pulse	2	S	Un00E
E016H	延べ稼働時間	100ms	2	U	Un012
E018H	モータ最大速度上限	mm/s	1	U	Un010 （リニア形専用）
E019H	分周出力設定上限	Pulse/Pitch	1	U	Un010 （リニア形専用）
E01AH	ホールセンサ情報	—	1	—	Un011
E01BH	フィードバック位置	指令単位	2	S	Un013
E01DH	有効ゲインモニタ	—	1	U	Un014
E01EH	セーフティ入出力信号モニタ	—	1	—	Un015
E02CH	サーボバック設定環境モニタ	%	1	S	Un025
E02DH	モータ設定環境モニタ	%	1	S	Un026
E02EH	主回路電圧値	V	1	S	Un023
E030H	バックラッシュ補正量	指令単位	2	S	Un030

レジスタ 番号	名称	単位	レジスタ 数	符号	備考
E032H	バックラッシュ補正量設定制限値	指令単位	2	U	Un031
E034H	消費電力	[W]	1	S	Un032
E035H	消費電力量	[Wh]	2	S	Un033
E037H	累積消費電力量（整数部）	[Wh]	2	S	Un034
E039H	累積消費電力量（小数部）	[0.001Wh]	1	S	
E050H	内蔵 FAN 寿命モニタ	0.01%	1	U	Un027
E051H	コンデンサ寿命モニタ	0.01%	1	U	Un028
E052H	突防回路寿命モニタ	0.01%	1	U	Un029
E053H	DB 回路寿命モニタ	0.01%	1	U	Un02A
E084H	リニアスケールピッチ	pm	2	U	Un084
E086H	リニアスケールピッチ指数	10 のべき乗	1	S	Un085
E500H	異常トレースバックデータ 0	コード	1	U	Fn000-0
E501H	異常トレースバックデータ 1	コード	1	U	Fn000-1
E502H	異常トレースバックデータ 2	コード	1	U	Fn000-2
E503H	異常トレースバックデータ 3	コード	1	U	Fn000-3
E504H	異常トレースバックデータ 4	コード	1	U	Fn000-4
E505H	異常トレースバックデータ 5	コード	1	U	Fn000-5
E506H	異常トレースバックデータ 6	コード	1	U	Fn000-6
E507H	異常トレースバックデータ 7	コード	1	U	Fn000-7
E508H	異常トレースバックデータ 8	コード	1	U	Fn000-8
E509H	異常トレースバックデータ 9	コード	1	U	Fn000-9
E50AH	現在のアラーム状態	コード	1	U	
E51BH	サーボステータスモニタ	—	1	U	
E51CH	制御モードモニタ	—	1	U	
E52AH	異常トレースバックタイムスタンプ 0	100ms	2	U	
E52CH	異常トレースバックタイムスタンプ 1	100ms	2	U	
E52EH	異常トレースバックタイムスタンプ 2	100ms	2	U	
E530H	異常トレースバックタイムスタンプ 3	100ms	2	U	
E532H	異常トレースバックタイムスタンプ 4	100ms	2	U	
E534H	異常トレースバックタイムスタンプ 5	100ms	2	U	
E536H	異常トレースバックタイムスタンプ 6	100ms	2	U	

レジスタ 番号	名称	単位	レジスタ 数	符号	備考
E538H	異常トレースバックタイムスタンプ 7	100ms	2	U	
E53AH	異常トレースバックタイムスタンプ 8	100ms	2	U	
E53CH	異常トレースバックタイムスタンプ 9	100ms	2	U	
E53EH	異常トレースバックカウンタ 0		1	U	
E53FH	異常トレースバックカウンタ 1		1	U	
E540H	異常トレースバックカウンタ 2		1	U	
E541H	異常トレースバックカウンタ 3		1	U	
E542H	異常トレースバックカウンタ 4		1	U	
E543H	異常トレースバックカウンタ 5		1	U	
E544H	異常トレースバックカウンタ 6		1	U	
E545H	異常トレースバックカウンタ 7		1	U	
E546H	異常トレースバックカウンタ 8		1	U	
E547H	異常トレースバックカウンタ 9		1	U	
E548H	アラームトレースデータアドレス 0		2	U	
E54AH	アラームトレースデータアドレス 1		2	U	
E54CH	アラームトレースデータアドレス 2		2	U	
E54EH	アラームトレースデータアドレス 3		2	U	
E550H	アラームトレースデータアドレス 4		2	U	
E552H	アラームトレースデータアドレス 5		2	U	
E554H	アラームトレースデータアドレス 6		2	U	
E556H	アラームトレースデータアドレス 7		2	U	
EC00H	フィードバック位置 (APOS)	指令単位	2	S	
EC02H	現在指令位置 (CPOS)	指令単位	2	S	
EC04H	位置偏差 (PERR)	指令単位	2	S	
EC06H	目標位置 (TPOS)	指令単位	2	S	
EC08H	ラッチ位置 1 (LPOS1)	指令単位	2	S	
EC0AH	ラッチ位置 2 (LPOS2)	指令単位	2	S	
EC0CH	ラッチ位置 3 (LPOS3)	指令単位	2	S	
EC0EH	目標速度 (TSPD)	速度指令単位	2	S	
EC10H	フィードバック速度 (FSPD)	速度指令単位	2	S	
EC12H	現在位置指令速度 (CSPD)	速度指令単位	2	S	
EC14H	トルク制限値 (TRQ_LIM)	トルク指令単位	2	U	
EC16H	速度制限値 (SPD_LIM)	速度指令単位	2	U	

レジスタ 番号	名称	単位	レジスタ 数	符号	備考
EC18H	M-III 通信フェーズ		1	U	M-III のみ
EC19H	M-III 現在実行コマンドコード (RCMD)		1	U	M-III のみ、 16 進表示
EC1AH	M-III 現在実行サブコマンドコード (SUB_RCMD)		1	U	M-III のみ、 16 進表示

- 入力信号モニタ (E006H)

Σ-7S シリーズ

Bit	状態信号	論理	Un 番号
0	SI0	0=Lo(閉) 1=Hi(開)	Un005
1	SI1	0=Lo(閉) 1=Hi(開)	
2	SI2	0=Lo(閉) 1=Hi(開)	
3	SI3	0=Lo(閉) 1=Hi(開)	
4	SI4	0=Lo(閉) 1=Hi(開)	
5	SI5	0=Lo(閉) 1=Hi(開)	
6	SI6	0=Lo(閉) 1=Hi(開)	
8 ~ 15	予約		

Σ-7W/Σ-7C シリーズ

Bit	状態信号	論理	Un 番号
0	SI0	0=Lo(閉) 1=Hi(開)	Un005
1	SI1	0=Lo(閉) 1=Hi(開)	
2	SI2	0=Lo(閉) 1=Hi(開)	
3	SI3	0=Lo(閉) 1=Hi(開)	
4	SI4	0=Lo(閉) 1=Hi(開)	
5	SI5	0=Lo(閉) 1=Hi(開)	
6	SI6	0=Lo(閉) 1=Hi(開)	
7	SI7	0=Lo(閉) 1=Hi(開)	
8	SI8	0=Lo(閉) 1=Hi(開)	
9	SI9	0=Lo(閉) 1=Hi(開)	
10	SI10	0=Lo(閉) 1=Hi(開)	
11	SI11	0=Lo(閉) 1=Hi(開)	
12 ~ 15	予約		

- 出力信号モニタ (E007H)

Σ-7S シリーズ

Bit	状態信号	論理	Un 番号
0	ALM	0=Lo(閉) 1=Hi(開)	Un006
1	SO1	0=Lo(閉) 1=Hi(開)	
2	SO2	0=Lo(閉) 1=Hi(開)	
3	SO3	0=Lo(閉) 1=Hi(開)	
7 ~ 15	予約		

Σ-7W/Σ-7C シリーズ

Bit	状態信号	論理	Un 番号
0	ALM	0=Lo(閉) 1=Hi(開)	Un006
1	SO1	0=Lo(閉) 1=Hi(開)	
2	SO2	0=Lo(閉) 1=Hi(開)	
3	SO3	0=Lo(閉) 1=Hi(開)	
4	SO4	0=Lo(閉) 1=Hi(開)	
5	SO5	0=Lo(閉) 1=Hi(開)	
6	SO6	0=Lo(閉) 1=Hi(開)	
7 ~ 15	予約		

- セーフティ入出力信号モニタ (E01EH)

Bit	状態信号	論理	Un 番号
0	/HWBB1	0=Lo(開) 1=Hi(閉)	Un015
1	/HWBB2	0=Lo(開) 1=Hi(閉)	
2 ~ 15	予約		

MEMO

- /HWBB1、/HWBB2 はセーフティオプションカード未接続時のみ有効です。セーフティオプションカード接続時は不定となります。

- サーボステータスマニタ (E51BH)

参照値	内容
0000H	予約 (イニシャル)
0001H	アラーム発生中 (A.***)
0002H	ハードワイヤードベースブロック状態からの通電復帰待機中 (HBB)
0003H	正・逆駆動禁止中 (PTNT)
0004H	正転側駆動禁止中 (P-OT)
0005H	逆転側駆動禁止中 (N-OT)
0006H	モータ非通電中 (BB)
0007H	モータ通電中 (RUN)
0008H	磁極検出中 (PDET)
0009H	アクティブモード動作中 (ACT)
000AH	強制停止状態からの通電復帰待機中 (FSTP)
0103H	安全機能動作中、かつ、正・逆駆動禁止中 (PTNT)
0104H	安全機能動作中、かつ、正転側駆動禁止中 (P-OT)
0105H	安全機能動作中、かつ、逆転側駆動禁止中 (N-OT)
0106H	安全機能動作中、かつ、モータ非通電中 (BB)
0107H	安全機能動作中、かつ、モータ通電中 (RUN)
0108H	安全機能動作中、かつ、磁極検出中 (PDET)
0109H	安全機能動作中、かつ、アクティブモード動作中 (ACT)
010AH	安全機能動作中、かつ、強制停止中 (FSTP)
0203H	安全状態 (HWBB 状態以外)、かつ、正・逆駆動禁止中 (PTNT)
0204H	安全状態 (HWBB 状態以外)、かつ、正転側駆動禁止中 (P-OT)
0205H	安全状態 (HWBB 状態以外)、かつ、逆転側駆動禁止中 (N-OT)
0206H	安全状態 (HWBB 状態以外)、かつ、モータ非通電中 (BB)
0207H	安全状態 (HWBB 状態以外)、かつ、モータ通電中 (RUN)
0208H	安全状態 (HWBB 状態以外)、かつ、磁極検出中 (PDET)
0209H	安全状態 (HWBB 状態以外)、かつ、アクティブモード動作中 (ACT)
020AH	安全状態 (HWBB 状態以外)、かつ、強制停止中 (FSTP)

- 制御モードモニタ (E51CH)

参照値	内容
0000H	速度制御モード
0001H	位置制御モード
0002H	トルク制御モード

MEMO

- JOG 運転モード、原点サーチモード、内部設定速度制御モード（接点指令）は速度制御モードになります。
- プログラム JOG 運転モード、アドバンスオートチューニングモード、EasyFFT モードは位置制御モードになります。

5.8 Σ-X シリーズ、Σ-XS シリーズサーボパック FT 仕様 (M-III / M-4)

 はシステムデータエリアに指定できます。

デバイス	ビットアドレス	ワードアドレス	32 bit	備考
通常パラメータエリア	0000.0~0FFF.F	0000~0FFF		*1 *2
一時パラメータエリア	1000.0~1FFF.F	1000~1FFF		*1 *2
モニタエリア	E000.0~EFFF.F	E000~EFFF		*1
アラームトレースデータエリア	T0000.0~TFFFF.7	T0000~TFFFE		*1 *3

- *1 ビット書込みを行うと、いったん表示器が接続機器の該当するワードアドレスを読み込み、読込んだワードアドレスにビットを立てて接続機器に戻します。表示器が接続機器のデータを読込んで返す間に、そのワードアドレスへ接続機器で書込み処理を行うと、正しいデータが書込めない場合があります。
- *2 以下のアドレスの間は、連続して読み出し / 書き込みができません。
07FFH ~ 0800H
17FFH ~ 1800H
- *3 ワードアクセスの場合は、偶数アドレスのみの指定ができます。

MEMO

- 接続機器で使用できるシステムエリア設定は読み込みエリアサイズのみです。読み込みエリアサイズについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。
- システムデータエリアについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。

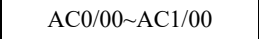
参照 : GP-Pro EX リファレンスマニュアル「LS エリア (ダイレクトアクセス方式専用エリア)」

- 表中のアイコンについてはマニュアル表記上の注意を参照してください。

 「表記のルール」

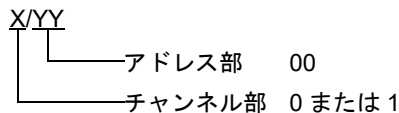
5.9 I/O(エム・システム技研) R7G4HML3-LC2(M-III) シリーズ

 はシステムデータエリアに指定できます。

デバイス	ビットアドレス	ワードアドレス	32 bit	備考
オートゼロ	-	AZ0/00~AZ1/00		*1 *2
ゼロ点調整	-	ZPA0/00~ZPA1/00		*1 *2
スパン点調整	-	SPA0/00~SPA1/00		*1 *2
平均回数設定	AC0/00.0~AC1/00.F	 AC0/00~AC1/00		 *2 *3
モニタ出力	-	MO0/00~MO1/00		*1 *2
モニタ出力解除	-	MOR0/00~MOR1/00		*1 *2
オフセットリセット	-	OR0/00~OR1/00		*1 *2
仮想メモリ空間	-	M0/0000~M0/019C		*4 *5
CR フィルタ設定	CR0/00.0	CR0/00		 *3
印可電圧設定	V0/00.0	V0/00		 *3

*1 読出し不可

*2 任意の値を書き込むことでそれぞれの処理が実行されます。
アドレスの形式：アドレス部とチャンネル部の2つから構成されます。



*3 ビット書込みを行うと、いったん表示器が接続機器の該当するワードアドレスを読み込み、読込んだワードアドレスにビットを立てて接続機器に戻します。表示器が接続機器のデータを読込んで返す間に、そのワードアドレスへ接続機器で書込み処理を行うと、正しいデータが書込めない場合があります。

*4 書込み不可

*5 32 ビットデバイス

MEMO

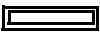
- 接続機器で使用できるシステムエリア設定は読み込みエリアサイズのみです。読み込みエリアサイズについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。
- システムデータエリアについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。

参照：GP-Pro EX リファレンスマニュアル「LS エリア（ダイレクトアクセス方式専用エリア）」

- 表中のアイコンについてはマニュアル表記上の注意を参照してください。

 「表記のルール」

5.10 I/O(エム・システム技研) R7G4HML3-STYVS1(M-III) シリーズ

 はシステムデータエリアに指定できます。

デバイス	ビットアドレス	ワードアドレス	32 bit	備考
角度オフセット	-	AAZ00~AAZ00	[L/H]	*1 *2
角度オフセット読出	-	AOR00~AOR00		*3
角度スパン設定	-	ARS00~ARS00		
仮想メモリ空間	-	M0000~M019C		*3 *4
リニアライズ数	LC00.0~LC00.F	LC00~LC00		*5
リニアライズ	L00.0~L63.F	L00~L63		*5 *6 *7
出力バイアス	OB00.0~OB00.F	OB00~OB00		*5
出力ゲイン	OG00.0~OG00.F	OG00~OG00		*5

*1 読出し不可

*2 任意の値を書き込むことで処理が実行されます。

*3 書込み不可

*4 32 ビットデバイス

*5 ビット書込みを行うと、いったん表示器が接続機器の該当するワードアドレスを読み、読込んだワードアドレスにビットを立てて接続機器に戻します。表示器が接続機器のデータを読込んで返す間に、そのワードアドレスへ接続機器で書込み処理を行うと、正しいデータが書込めない場合があります。

*6 表示器でアクセスできるリニアライズデバイスの最大数は 32 です。デバイスアドレスとリニアライズデバイスの対応は次のとおりです。

デバイスアドレス	リニアライズデバイス	説明
00	1.x	16 ビット値
01	1.y	
02	2.x	
03	2.y	
:	:	
62	32.x	
63	32.y	

*7 リニアライズデバイスはXとYを一組として読み書きされます。また常にL0から読み書きされます。指定したアドレスに書込みを行うと、いったん表示器が接続機器の L0 から該当するワードアドレスの範囲を読み、読込んだワードアドレスを変更して接続機器に戻します。表示器が接続機器のデータを読込んで返す間に、そのワードアドレスへラダープログラムで書込み処理を行うと、正しいデータが書込めない場合があります。

例：

L30(16.X) に書き込む場合、いったん L0(1.X) から L31(16.Y) を読みます。その後 L30 の値のみ変更して接続機器に戻します。

MEMO

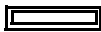
- 接続機器で利用できるシステムエリア設定は読み込みエリアサイズのみです。読み込みエリアサイズについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。
- システムデータエリアについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。

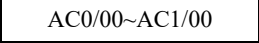
参照 : GP-Pro EX リファレンスマニュアル「LS エリア（ダイレクトアクセス方式専用エリア）」

- 表中のアイコンについてはマニュアル表記上の注意を参照してください。

 「表記のルール」

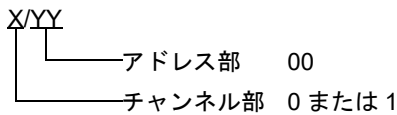
5.11 I/O(エム・システム技研) R7G4HML3-LC2A(M-III) シリーズ

 はシステムデータエリアに指定できます。

デバイス	ビットアドレス	ワードアドレス	32 bit	備考
オートゼロ	-	AZ0/00~AZ1/00		*1 *2
ゼロ点調整	-	ZPA0/00~ZPA1/00		*1 *2
スパン点調整	-	SPA0/00~SPA1/00		*1 *2
平均回数設定	AC0/00.0~AC1/00.F	 AC0/00~AC1/00		 *2 *3
モニタ出力	-	MO0/00~MO1/00		*1 *2
モニタ出力解除	-	MOR0/00~MOR1/00		*1 *2
オフセットリセット	-	OR0/00~OR1/00		*1 *2
仮想メモリ空間	-	M0/0000~M0/019C		*4 *5
CR フィルタ設定	CR0/00.0	CR0/00		 *3

*1 読出し不可

*2 任意の値を書き込むことでそれぞれの処理が実行されます。
アドレスの形式：アドレス部とチャンネル部の2つから構成されます。



*3 ビット書込みを行うと、いったん表示器が接続機器の該当するワードアドレスを読み込み、読込んだワードアドレスにビットを立てて接続機器に戻します。表示器が接続機器のデータを読込んで返す間に、そのワードアドレスへ接続機器で書込み処理を行うと、正しいデータが書込めない場合があります。

*4 書込み不可

*5 32 ビットデバイス

MEMO

- 接続機器で使用できるシステムエリア設定は読み込みエリアサイズのみです。読み込みエリアサイズについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。
- システムデータエリアについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。

参照：GP-Pro EX リファレンスマニュアル「LS エリア（ダイレクトアクセス方式専用エリア）」

- 表中のアイコンについてはマニュアル表記上の注意を参照してください。

 「表記のルール」

5.12 I/O(アズビル) K1G シリーズ

 はシステムデータエリアに指定できます。

デバイス	ビットアドレス	ワードアドレス	32 bit	備考
データ	04096,00~36863,15 61440,00~65535,15	04096~36863 61440~65535	 L/H	*1 *2

- *1 ビット書込みを行うと、いったん表示器が接続機器の該当するワードアドレスを読み、読込んだワードアドレスにビットを立てて接続機器に戻します。表示器が接続機器のデータを読込んで返す間に、そのワードアドレスへ接続機器で書込み処理を行うと、正しいデータが書込めない場合があります。
- *2 表示器は Modbus の一般的なアドレス形式を使用しています。対応する K1G シリーズのアドレスタイプと範囲は、以下の表を参照してください。

K1G シリーズ		表示器
アドレスタイプ	アドレス範囲	アドレス範囲
モニタ領域	0x1000~0x1FFF	04096~08191
設定領域	0x2000~0x2FFF	08192~12287
チャンネル 1 領域	0x3000~0x3FFF	12288~16383
チャンネル 2 領域	0x4000~0x4FFF	16384~20479
チャンネル 3 領域	0x5000~0x5FFF	20480~24575
チャンネル 4 領域	0x6000~0x6FFF	24576~28671
受光量領域	0x7000~0x7FFF	28672~32767
調整領域	0x8000~0x8FFF	32768~36863
特殊機能領域	0xF000~0xFFFF	61440~65535

接続機器には 32bit 長のアドレスがあります。32bit 長のアドレスは 32bit 単位で読出し / 書込みを行ってください。アドレスの長さについては接続機器のマニュアルを参照してください。

MEMO

- 接続機器で使用できるシステムエリア設定は読み込みエリアサイズのみです。読み込みエリアサイズについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。
- システムデータエリアについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。

参照 : GP-Pro EX リファレンスマニュアル「LS エリア (ダイレクトアクセス方式専用エリア)」

- 表中のアイコンについてはマニュアル表記上の注意を参照してください。

 「表記のルール」

5.13 ステッピング (オリエンタルモーター) AZ シリーズ

 はシステムデータエリアに指定できます。

デバイス	ビットアドレス	ワードアドレス	32 bit	備考
パラメータ No.	0000.00~008F.31 1020.00~1978.31	0000~008F 1020~1978	-	*1 *2

*1 ビット書込みを行うと、いったん表示器が接続機器の該当するワードアドレスを読み、読込んだワードアドレスにビットを立てて接続機器に戻します。表示器が接続機器のデータを読込んで返す間に、そのワードアドレスへ接続機器で書込み処理を行うと、正しいデータが書込めない場合があります。

*2 32 ビットデバイス

MEMO

- 接続機器で利用できるシステムエリア設定は読み込みエリアサイズのみです。読み込みエリアサイズについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。
- システムデータエリアについては GP-Pro EX リファレンスマニュアルを参照してください。

参照 : GP-Pro EX リファレンスマニュアル「LS エリア (ダイレクトアクセス方式専用エリア)」

- 表中のアイコンについてはマニュアル表記上の注意を参照してください。

 「表記のルール」

6 デバイスコードとアドレスコード

デバイスコードとアドレスコードは、データ表示器などのアドレスタイプで「デバイスタイプ&アドレス」を設定している場合に使用します。

6.1 MP2000 シリーズ /MPU-01

デバイス	デバイス名	デバイスコード (HEX)	備考
システムレジスタ	SW/SB	0080	ワードアドレス
入力レジスタ	IW/IB	0001	ワードアドレス
出力レジスタ	OW/OB	0081	ワードアドレス
データレジスタ	MW/MB	0000	ワードアドレス

6.2 MP3000 シリーズ / サブ CPU

デバイス	デバイス名	デバイスコード (HEX)	備考
システムレジスタ	SW/SB	0080	ワードアドレス
入力レジスタ	IW/IB	0001	ワードアドレス
出力レジスタ	OW/OB	0081	ワードアドレス
データレジスタ	MW/MB	0000	ワードアドレス
G レジスタ	GW/GB	0002	ワードアドレス

6.3 MPX1000 シリーズ / サブ CPU、Sigma-FT シリーズ

デバイス	デバイス名	デバイスコード (HEX)	備考
システムレジスタ	SW/SB	0080	ワードアドレス
入力レジスタ	IW/IB	0001	ワードアドレス
出力レジスタ	OW/OB	0081	ワードアドレス
データレジスタ	MW/MB	0000	ワードアドレス
G レジスタ	GW/GB	0002	ワードアドレス

6.4 インバータ

デバイス	デバイス名	デバイスコード (HEX)	備考
ビットレジスタ	BR	0080	アドレス
レジスタ	-	0000	アドレス

6.5 Σ -V シリーズ、 Σ -7 シリーズ

デバイス	デバイス名	デバイスコード (HEX)	アドレスコード
通常パラメータエリア	0	0000	ワードアドレス
一時パラメータエリア	1	0001	ワードアドレス
モニタエリア	E	0009	ワードアドレス

6.6 Σ -X シリーズ、 Σ -XS シリーズサーボパック FT 仕様 (M-III / M-4)

デバイス	デバイス名	デバイスコード (HEX)	アドレスコード
通常パラメータエリア	0	0000	ワードアドレス
一時パラメータエリア	1	0001	ワードアドレス
モニタエリア	E	0009	ワードアドレス
アラームトレースデータエリア	T	0022	ワードアドレス ÷ 2

6.7 I/O (エム・システム技研) R7G4HML3-LC2(M-III) シリーズ

デバイス	デバイス名	デバイスコード (HEX)	アドレスコード
オートゼロ	AZ	0001	チャンネル番号 × 0x10000 + ワードアドレスの値
ゼロ点調整	ZPA	0002	チャンネル番号 × 0x10000 + ワードアドレスの値
スパン点調整	SPA	0003	チャンネル番号 × 0x10000 + ワードアドレスの値
平均回数設定	AC	0000	チャンネル番号 × 0x10000 + ワードアドレスの値
モニタ出力	MO	0004	チャンネル番号 × 0x10000 + ワードアドレスの値
モニタ出力解除	MOR	0005	チャンネル番号 × 0x10000 + ワードアドレスの値
オフセットリセット	OR	0006	チャンネル番号 × 0x10000 + ワードアドレスの値
仮想メモリ空間	M	0009	ワードアドレス
CR フィルタ設定	CR	0007	ワードアドレス
印可電圧設定	V	0008	ワードアドレス

6.8 I/O(エム・システム技研) R7G4HML3-STYVS1(M-III) シリーズ

デバイス	デバイス名	デバイスコード (HEX)	アドレスコード
角度オフセット	AAZ	0001	ワードアドレス
角度スパン設定	ARS	0002	ワードアドレス
仮想メモリ空間	M	0009	ワードアドレス
リニアライズ数	LC	0000	ワードアドレス
リニアライズ	L	000A	ワードアドレス
出力バイアス	OB	000C	ワードアドレス
出力ゲイン	OG	000D	ワードアドレス

6.9 I/O(エム・システム技研) R7G4HML3-LC2A(M-III) シリーズ

デバイス	デバイス名	デバイスコード (HEX)	アドレスコード
オートゼロ	AZ	0001	チャンネル番号 × 0x10000 + ワードアドレスの値
ゼロ点調整	ZPA	0002	チャンネル番号 × 0x10000 + ワードアドレスの値
スパン点調整	SPA	0003	チャンネル番号 × 0x10000 + ワードアドレスの値
平均回数設定	AC	0000	チャンネル番号 × 0x10000 + ワードアドレスの値
モニタ出力	MO	0004	チャンネル番号 × 0x10000 + ワードアドレスの値
モニタ出力解除	MOR	0005	チャンネル番号 × 0x10000 + ワードアドレスの値
オフセットリセット	OR	0006	チャンネル番号 × 0x10000 + ワードアドレスの値
仮想メモリ空間	M	0009	ワードアドレス
CR フィルタ設定	CR	0007	ワードアドレス

6.10 I/O(アズビル) K1G シリーズ

デバイス	デバイス名	デバイスコード (HEX)	アドレスコード
データ	-	0000	ワードアドレス

6.11 ステッピング (オリエンタルモーター) AZ シリーズ

デバイス	デバイス名	デバイスコード (HEX)	アドレスコード
パラメータ No.	-	0000	ワードアドレス

7 エラーメッセージ

エラーメッセージは表示器の画面上に「番号:機器名:エラーメッセージ(エラー発生箇所)」のように表示されます。それぞれの内容は以下のとおりです。

項目	内容
番号	エラー番号
機器名	エラーが発生した接続機器の名称。接続機器名は GP-Pro EX で設定する接続機器の名称です。(初期値 [PLC1])
エラーメッセージ	発生したエラーに関するメッセージを表示します。
エラー発生箇所	エラーが発生した接続機器の IP アドレスやデバイスアドレス、接続機器から受信したエラーコードを表示します。 MEMO - IP アドレスは「IP アドレス (10 進数):MAC アドレス (16 進数)」のように表示されます。 - デバイスアドレスは「アドレス:デバイスアドレス」のように表示されます。 - 受信エラーコードは「10 進数 [16 進数]」のように表示されます。

エラーメッセージの表示例

「RHAA035:PLC1: 書き込み要求でエラー応答を受信しました (受信エラーコード:2[02H])」

- MEMO**
- 受信したエラーコードの詳細は、接続機器のマニュアルを参照してください。
 - ドライバ共通のエラーメッセージについては「保守/トラブル解決ガイド」の「表示器で表示されるエラー」を参照してください。

7.1 MP シリーズ

■ 接続機器特有のエラーコード

エラーコード	エラー内容
0x90	伝送エラー
0x92	伝文の内容に誤りがある
0x96	レジスタ番号が範囲を超えている
0x9C	他の装置によってファイルが変更された
0x9D	システム上のデータアクセスに異常が発見された

■ 接続機器特有のエラーメッセージ

メッセージ ID	エラーメッセージ	内 容
RHxx128	"(接続機器名):PLC は BUSY 状態のため要求を受け付けることができませんでした (エラーコード :[16 進数])"	PLC は BUSY 状態です
RHxx129	"(接続機器名): オプションモジュールが装着されていません (エラーコード :[16 進数])"	オプションモジュールが装着されていない
RHxx130	"(接続機器名): 対象のモジュールが正常に動作していません (エラーコード :[16 進数])"	モジュールが正常に動作していない
RHxx131	"(接続機器名):CPUがSTOP状態です(エラーコード:[16進数])"	CPU が STOP 状態
RHxx132	"(接続機器名): 書込み保護が " 書込み不可 " になっています (エラーコード :[16 進数])"	" 書込み不可 " になっています

7.2 インバータ

■ 接続機器特有のエラーコード

エラーコード	エラー内容
0x01	ファンクションコードエラー
0x02	無効なレジスタ番号エラー
0x03	無効な個数エラー
0x21	日付設定エラー
0x22	書込みモードエラー
0x23	書込み時の主回路低電圧 (UV) エラー
0x24	一定処理時の書込みエラー

7.3 サーボ

■ 接続機器特有のエラーコード

エラーコード	エラー内容
0x01	ファンクションコードエラー 対応していないファンクションコードまたはサブファンクションコード
0x02	レジスタ番号不良 アクセスしようとしたレジスタ番号が登録されていない
0x03	個数不良 - 読み出し、書き込みのデータ個数が1～最大個数（機種ごとに定義）でない - 書き込みモードで、メッセージ中のデータ数が指定した個数になっていない
0x30	レジスタ番号不良（レベル高） アクセスしようとしたレジスタ番号が登録されていない
0x31	アクセス制限エラー 指定したレジスタへのアクセスが許可されていない
0x32	設定値範囲外エラー 書き込みデータの設定値が上下限範囲を超えている
0x33	データ整合エラー - 複数レジスタ単位でのアクセスを規定されている領域に対して、一部のレジスタのみアクセスしようとした - レジスタグループを超えた複数レジスタにアクセスしようとした
0x34	条件エラー 指令メッセージ内容がレジスタ仕様規定の条件により処理できない
0x35	処理競合エラー 処理中（他チャンネルとの優先度の問題など）により処理できない
0x36	軸指定エラー（ Σ -7W/ Σ -7C シリーズのみ） 拡張アドレスに設定された軸が存在しない

7.4 I/O(エム・システム技研)

■ 接続機器特有のエラーコード

エラーコード	エラー内容
0x01	ファンクションコードエラー 対応していないファンクションコードまたはサブファンクションコードが使用されている
0x03	個数不良 - 読み出し、書き込みのデータ個数が 1 ～最大個数（機種ごとに定義）の範囲内ではない - 書き込みモードで、メッセージ中のデータ数が指定した個数になっていない
0x04	データ型エラー 指定されたモードもしくはデータ型に対応していない
0x09	処理競合エラー 処理中（他チャンネルによる競合等）により処理できない
0x81	プロトコル ID 設定異常 ベンダースペシフィックコマンド実行時に、プロトコル ID が接続機器と一致していない
0x82	データ長設定異常 ベンダースペシフィックコマンド実行時に、ベンダー規定エリアのデータ長の設定が接続機器と一致していない
0x83	ベンダー規定エリア異常 ベンダースペシフィックコマンド実行時に、ベンダー規定エリアでベンダー規定の異常が発生した

- エラーコードが 0x83 の場合、ベンダー規定エラーコードと合わせて表示されます。

例)



ベンダー規定エラーコード

エラーコード	エラー内容
0x01	機種コード異常 設定した機種コードが接続機器と異なる
0x02	指定チャンネル異常 設定したチャンネルに接続機器が対応していない
0x03	設定コマンド異常 設定したコマンドに接続機器が対応していない
0x04	設定コマンドデータ異常 設定したコマンドのデータが異常

■ 接続機器特有のエラーメッセージ

メッセージ ID	エラーメッセージ	内 容
RHxx134	(接続機器名): 読出し要求でエラー応答を受信しました。 (受信エラーコード [16 進数,16 進数])	読出し要求でエラーが発生した場合に表示します。
RHxx135	(接続機器名): 書込み要求でエラー応答を受信しました。 (受信エラーコード [16 進数,16 進数])	書込み要求でエラーが発生した場合に表示します。

7.5 I/O(アズビル) K1G シリーズ

■ 接続機器特有のエラーコード

エラーコード	エラー内容
0x01	ファンクションコードエラー 対応していないファンクションコードまたはサブファンクションコードが使用されている
0x02	メモリアドレスエラー アクセスしようとしたメモリアドレスが範囲内ではない
0x03	個数不良 読み出し、書き込みのデータ個数が 1 ～最大個数（機種ごとに定義）の範囲内ではない
0x04	データ型エラー - 指定されたモードもしくはデータ型に対応していない - プロトコル ID またはデバイスコードに対応していない
0x81	プロトコル ID 設定異常 ベンダースペシフィックコマンド実行時に、プロトコル ID が接続機器と一致していない
0x82	データ長設定異常 ベンダースペシフィックコマンド実行時に、ベンダー規定エリアのデータ長の設定が接続機器と一致していない
0x83	ベンダー規定エリア異常 ベンダースペシフィックコマンド実行時に、ベンダー規定エリアでベンダー規定の異常が発生した

- エラーコードが 0x83、ベンダー規定エラーコードが 0x01 の場合、次のように表示されます。

例)

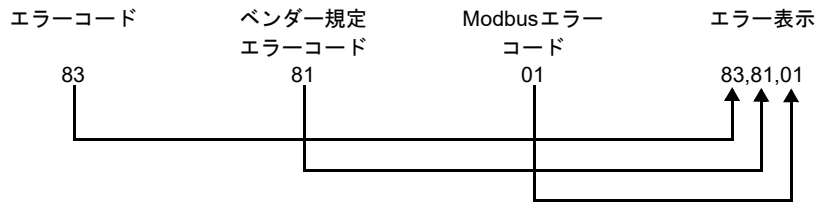


ベンダー規定エラーコード

エラーコード	エラー内容
0x01	アズビルプロトコル ID 設定異常 指定されたアズビルプロトコル ID に接続機器が対応していない

- エラーコードが 0x83、ベンダー規定エラーコードが 0x81 の場合、Modbus エラーと合わせて表示されます。

例)



ベンダー規定エラーコード

エラーコード	エラー内容
0x81	MODBUS RTU 異常レスポンス Modbus エラーを受信しました。詳細は Modbus エラーコードの表を確認してください。

Modbus エラーコード

エラーコード	エラー内容
0x01	不正ファンクション - 未サポートのファンクションコードが使用されている - サポートしていない接続機器に接続した
0x02	不正データアドレス データアドレス異常 (アクセス不可領域)
0x03	不正データ - 範囲外数値の書き込み - 計器条件による書き込み禁止、読み出し禁止
0x13	書き込みモードエラー

■ 接続機器特有のエラーメッセージ

メッセージ ID	エラーメッセージ	内 容
RHxx134	(接続機器名): 読出し要求でエラー応答を受信しました。 (受信エラーコード [16 進数, 16 進数])	読出し要求でエラーが発生した場合に表示します。
RHxx135	(接続機器名): 書き込み要求でエラー応答を受信しました。 (受信エラーコード [16 進数, 16 進数])	書き込み要求でエラーが発生した場合に表示します。
RHxx136	(接続機器名): 読出し要求でエラー応答を受信しました。 (受信エラーコード [16 進数, 16 進数, 16 進数])	読出し要求でエラーが発生した場合に表示します。
RHxx137	(接続機器名): 書き込み要求でエラー応答を受信しました。 (受信エラーコード [16 進数, 16 進数, 16 進数])	書き込み要求でエラーが発生した場合に表示します。
RHxx138	(接続機器名): 読出し要求でエラー応答を受信しました。 (受信エラーコード [16 進数, 16 進数, 16 進数] アドレス範囲外デバイスがあります)	読出し要求でエラーが発生した場合に表示します。
RHxx139	(接続機器名): 書き込み要求でエラー応答を受信しました。 (受信エラーコード [16 進数, 16 進数, 16 進数] アドレス範囲外デバイスがあります)	書き込み要求でエラーが発生した場合に表示します。

7.6 ステッピング (オリエンタルモーター) AZ シリーズ

■ 接続機器特有のエラーコード

エラーコード	エラー内容
0x01	ファンクションコードエラー 対応していないファンクションコードまたはサブファンクションコードが使用されている
0x02	レジスタ番号不良 アクセスしようとしたレジスタ番号が 1 つも登録されていない
0x03	個数不良 - 読み出し、書き込みのデータ個数が 1 ～最大個数（機種ごとに定義）の範囲内ではない - 書き込みモードで、メッセージ中のデータ数が指定した個数になっていない
0x04	データ型エラー 指定されたモードもしくはデータ型に対応していない
0x05	アクセス制限エラー 指定したレジスタへのアクセスが許可されていない
0x06	設定値範囲外エラー 書き込みデータの設定値が上下限範囲を超えている
0x07	データ整合エラー - 複数レジスタ単位でのアクセスを規定されている領域に対して、一部のメモリのみアクセスしようとした - レジスタグループを超えた複数メモリにアクセスしようとした
0x08	条件エラー 指令メッセージ内容がレジスタ仕様規定の条件により処理できない
0x09	処理競合エラー 処理中（他チャンネルとの優先度の問題など）により処理できない